

# ユーザガイド



arcserve



# ンライン ヘルプ

### バージョン 8.x

コンテンツのリストが左側のペインに表示されます。すべてのトピックを表示するに は、上部の<sup>◆TOC</sup> アイコンをクリックします。

arcserve

## リーガルノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve本ドキュメントは、Arcserveが知的財産権を有する機密 情報であり、Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserveのすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する 責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対 する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本 システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかな る損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任 を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様と します。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2019 Arcserve (その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved.サードパーティの商標または著作 権は各所有者の財産です。

## Arcserve サポート へのお問い合わせ

Arcserve サポート

テクニカルサポートへの問い合わせ

Arcserve サポートをご利用いただくと次のことができます。

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに 直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース(KB)ドキュメント にアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関 連KB技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることが できます。
- ライブチャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームと瞬時にリアルタイム で会話を始めることができます。ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、
   懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベスト プラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、 質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

## Arcserve アプライアンスの返品ポリシー

有効な RMA (返品認定)番号は、製品を Arcserve に返却するために必要で す。RMA番号を取得するには、Arcserve テクニカルサポート部門にお問い合わせ ください。お客様の担当者の連絡先情報については、<u>arcserve.com/support</u>を参 照してください。サポートチームから RMA データの送信先が通知される場合があ ります。

返品には、10%の返品手数料がかかります。以下は例外となります。1)注文が 間違って履行された場合、ArcserveはRMAを受け入れ、全額を返金します。2) 欠陥のあるアイテムが30日以内に返品された場合、ArcserveはRMAを受け入 れ、全額を返金します。3) ハードウェアに技術的な問題がある場合、解決のた めの適切な期間を経過した後もサポートによって解決できなければ、Arcserveは RMAを受け入れ、同等の価値のあるハードウェアの交換を提供します。

RMA リクエストに必要な情報:

- 製品のシリアル番号(アプライアンスの背面に記載があります)
- Arcserve 注文番号
- パートナーの連絡先名
- パートナーの電話番号
- パートナーの電子メールアドレス
- お客様の連絡先名(可能な場合)
- 電話番号(可能な場合)
- 電子メールアドレス(可能な場合)
- 問題の説明とすでに実行されたトラブルシューティングの説明。
- 要求された配送サービスおよび出荷先住所。

RMA 番号は、パッケージの外側に明確に記されている必要があります。すべての RMA は、適切な梱包で出荷される必要があります。すべての RMA は、荷物のト ラッキングおよび保証を提供する信頼できる運送業者を使用して出荷する必要 があります。出荷時の破損または RMA の損失はお客様の責任になります。

## コンテンツ

第1章: Arcserve アプライアンスのドキュメントについて	1
言語サポート	2
製品ドキュメント	
第2章: Arcserve アプライアンスの紹介	5
概要	
Arcserve Unified Data Protection	7
Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux	8
Arcserve Backup	
Arcserve Continuous Availability	10
安全に関する注意事項	11
同梱されている内容	
アプライアンス 8000 シリーズのボックスに同梱されている内容	13
アプライアンス 9000 シリーズのボックスに同梱されている内容	
アプライアンス X シリーズのボックスに同梱されている内容	15
箱に含まれていない項目	
利用可能なモデル	
モデル 7100 - 7300v	19
モデル 7400 - 7600v	21
モデル8100-8400	23
モデル 9012 - 9504DR	24
モデル X シリーズ	
コントロールおよびインジケータ	28
前面パネル7100-7300v	29
前面パネル7400-7600v	32
前面パネル8100-8200	34
前面パネル8300-8400	
前面パネル9012-9048	
前面パネル9072DR-9504DR	40
前面パネル Χ シリーズ	41
背面パネル7100-7300v	42
背面パネル7400-7600v	44
背面パネル8100-8200	46
背面パネル8300-8400	48

\_\_\_\_\_

背面パネル9012-9048	49
背面パネル9072DR-9504DR	51
背面パネルXシリーズ	52
アプライアンスが使用するポート	53
Arcserve UDP	54
Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント	55
Linux にインストールされているコンポーネント	61
リモートで UDP Linux により保護されているノード	62
Arcserve Backup	63
Linux 用 アプライアンスのサポート	64
CentOS 6.6 x64 ファイアウォールにポートを追加する方法	65
第3章: Arcserve アプライアンス のインスト ール	67
Arcserve Backup 18.0 をインストールする方法	68
8100-8200 シリーズ アプライアンスの設 置方法	70
8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法	71
9012-9048 シリーズ アプライアンスの設置方法	71
9072-9504DR シリーズ アプライアンスの設置方法	71
x シリーズ アプライアンスの設置方法	71
第4章:アプライアンス上のArcserve UDPのアップグレード	72
Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法	73
Arcserve アプライアンス でのアップグレード シーケンス	74
Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP コンソールおよび RPS として使用した場合のアップグレード	75
Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP RPS として使用した場合のアップグレード	76
複数のArcserve アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順	77
Arcserve アプライアンス 上 の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード	78
Arcserve アプライアンス に搭 載された Arcserve Backup のアップグレード	79
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	80
第5章: Arcserve アプライアンスの設定	. 81
Arcserve アプライアンス向けのネットワーク設定を構成する方法	82
Arcserve アプライアンスを設定する方法	86
Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定する方法	95
第6章: Arcserve アプライアンス での操作	96
アプライアンス上のArcserve 製品のアクティブ化	97
Arcserve アプライアンス ウィザードを使 用したプランの作 成	98
プランへのノードの追加	99
ホスト名 /IP アドレスによるノードの追加	100

Active Directory によるノードの追加	102
vCenter/ESX ノードの追加	104
Hyper-V ノードの追加	.107
Linux ノード用のバックアップ プランの作成	109
テープ デバイスへのバックアップ プランの作成	.110
アプライアンス上 仮 想 スタンバイ プランの作 成	111
Linux バックアップ サーバのバックアップ プランの作成	.112
ローカルアプライアンス Hyper-V に対して Linux インスタント VM ジョブを実行する ための設定	.116
ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コンソールの移行	117
プレインストールされた Linux バックアップ サーバの CentOS 7.4 への移行	119
Arcserve アプライアンス間の移行	.121
解決策 1	122
解決策 2	126
プレインストールされた Linux バックアップ サーバの入力ソースの変更	129
第7章:アプライアンスサーバのリモートモニタリング	133
IPMI での作業	134
IPMI パスワードを変更 する方法	.135
IPMI ファームウェアをアップグレード する方法	138
iDRAC ( Integrated Dell Remote Access Controller) での操作	.139
iDRAC ( Integrated Dell Remote Access Controller) のモニタと管 理	.140
iDRAC ( Integrated Dell Remote Access Controller 9000 シリーズ) の IP アドレスの検出 .	.142
iDRAC ( Integrated Dell Remote Access Controller、X シリーズ) の IP アドレスの検出	.144
iDRACのDHCP または静的 IP アドレスの設定	.146
第8章: Arcserve アプライアンス のリストアまたは修復	153
ファクトリリセットのデバッグ	.154
7000-8000 シリーズ アプライアンスのブート オプションを使 用した Arcserve UDP ファ クトリリセットの適 用	.156
9012-9504DR シリーズ アプライアンスのブート オプションを使 用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適 用	159
X シリーズ アプライアンスのブート オプションを使 用した Arcserve UDP ファクトリリ セットの適用	.162
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	165
アプライアンス イメージ設 定 ユーティリティを使 用したファクトリリセット イメージの置 換	167
ハードドライブの取り外しおよび交換	170
データを保持しないベアメタル復旧(BMR)の実行	172
ベアメタル復旧(BMR)とデータ保存の実行	187

第9章:アプライアンスの容量拡張	195
Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズ モデル	195
Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの拡張 キット での操作	200
Arcserve アプライアンス 9072-9504 DR モデルの SSD フラッシュ拡張 キットの操作	205
アプライアンス サーバ( 8000) へのアプライアンス拡張 シェルフの接続	211
すべての利用可能なモデルのためのアプライアンス インフィールド 拡張	212
同梱されている内容	221
アプライアンス サーバへのアプライアンス拡張 シェルフの接続方法	224
Arcserve UDP データストアの変更方法	232
Arcserve UDP データストアへの拡張シェルフ データ パスの追加	233
新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行	234
Arcserve UDP コンソールでのデータストアの全体容量の確認	235
Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開	236
第10章:ネットワーク設定の操作	. 237
ネットワーク設定の詳細	238
NIC チーミングを設定する方法	244
DHCP サーバを無効化する方法	246
プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法	247
負荷分散のためにDNSサーバ上でラウンドロビンを有効にする方法	249
アプライアンスのネットワークステータスを確認する方法	250
第11章:安全に関する注意事項についての理解	251
一般的な安全に関する注意事項	252
電気に関する安全のための注意事項	254
FCC コンプライアンス	255
静電気放電(ESD)に関する注意事項	256
第12章: Arcserve アブライアンス 9000 シリーズ上の Sophos のフ クティブ化	P 257
方法 1: 電子メールを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティン	ブ
	258
方法 2: スクリフトを使用した Arcserve アフライアンス上の Sophos のアクティフィ	259. <b>ن</b> ا
Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストール る	न 261
第12章: Arcserve アプライアンス X シリーズ上の Sophos のアク ティフ化	266
Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストール る	す 266
第12章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのファームウェアの アップグレート	D 271
Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	

BIOS ファームウェア バージョンの表 示	271
方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する	271
方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表	長示する 272
BIOS の更 新されたパッケージのダウンロード	273
BIOS のアップグレード	273
更 新された BIOS の確 認	274
システム ログを使用して更新された BIOS を確認する	
iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する	275
Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード	275
iDRAC ファームウェア バージョンの表示	
iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する	
方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを る	表示す 277
iDRAC の更 新されたパッケージのダウンロード	278
iDRAC のアップグレード	278
更 新された iDRAC の確 認	279
システム ログを使用して更新された iDRAC を確認する	
iDRAC Web インターフェースまたは iDRAC から更新された BIOS を確認する	
Arcserve アプライアンス X シリーズのファームウェアのアップグ	L
	V- 201
	281
ト Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	<b>281</b>
ト Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード BIOS ファームウェア バージョンの表示	<b>281</b> 
Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード BIOS ファームウェア バージョンの表示	<b>281</b> 
Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード BIOS ファームウェア バージョンの表示 方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する 方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを BIOS の正 新された パッケー ごのグウン ロード	281 281 281 281 表示する282
Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード BIOS ファームウェア バージョンの表示 方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する 方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを BIOS の更新されたパッケージのダウンロード	281 281 281 281 表示する282 283
Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li> <li>BIOS ファームウェア バージョンの表示</li></ul>	281 
Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード BIOS ファームウェア バージョンの表示	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li> <li>BIOS ファームウェア バージョンの表示 …</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを</li> <li>BIOS の更 新 されたパッケージのダウンロード …</li> <li>BIOS のアップグレード …</li> <li>更 新 された BIOS の確認 …</li> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード …</li> <li>iDRAC ファームウェア バージョンの表示 …</li> </ul>	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li> <li>BIOS ファームウェア バージョンの表示</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを</li> <li>BIOS の更新されたパッケージのダウンロード</li> <li>BIOS のアップグレード</li> <li>BIOS の確認</li> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード …</li> <li>iDRAC ファームウェア バージョンの表示</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する</li> </ul>	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li></ul>	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li> <li>BIOS ファームウェア バージョンの表示</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する</li> <li>BIOS の更新されたパッケージのダウンロード</li> <li>BIOS のアップグレード</li> <li>更新された BIOS の確認</li> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレード</li> <li>iDRAC ファームウェア バージョンの表示</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する</li> </ul>	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li></ul>	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li></ul>	281 
<ul> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード</li> <li>BIOS ファームウェア バージョンの表示</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを</li> <li>BIOS の更新されたパッケージのダウンロード</li> <li>BIOS のアップグレード</li> <li>更新された BIOS の確認</li> <li>Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを表示する</li> <li>方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアバージョンを表示する</li> <li>方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを</li> <li>iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード</li> <li>iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード</li> <li>iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード</li> <li>iDRAC のアップグレード</li> <li>更新された: iDRAC の確認</li> <li>第13章:トラブルシューティング</li> </ul>	281 

別のアプライアンスからArcserve アプライアンスのバックアップを実行すると重複 ノードがレポートされる	291
Linux バックアップ サーバがネット ワーク内のノードと通信できない	292
Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックスを取得 できない	294
アプライアンスのデフォルトのタイム ゾーン	295
ライセンスがある場合でもライセンスエラーになる	296
リモート管理対象のRPS タスクでレプリケートのリモート コンソールを追加中、 Arcserve UDP コンソールにエラーが表示される	297
別のアプライアンスをモニタとして使用するとVSB タスクを実行できない	299
第14章: ベスト プラクティスの適用	301
ネットワーク構成に関する推奨事項	302
PowerShell コマンドレットによる Windows Defender のベストプラクティス	305
プリインストールされた Linux バックアップ サーバを外部 ネット ワークに設定する	305
Sophos によって保護されている場合にファクトリリセット イメージを置き換えるた のベスト プラクティス	め 306
ボリュームをまたぐデデュプリケーション データ ストアを作 成 するためのベスト プラ ティス	ク 315
第15章:使用条件	317
PuTTY	

## 第1章: Arcserve アプライアンスのドキュメントについて

Arcserve アプライアンス ユーザ ガイドは、Arcserve アプライアンスを使用する方法の理解に役立ちます。Arcserve アプライアンスの特長については、「概要」を参照してください。残りのセクションでは、Arcserve アプライアンスのインストールと使用方法について説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>言語サポート</u>	2
製品ドキュメント	3

## 言語サポート

英語および複数のローカル言語のドキュメントが用意されています。

翻訳済み製品(ローカライズ済み製品とも言います)とは、製品のユーザインター フェース、オンライン ヘルプ、その他のドキュメントのローカル言語サポートに加え て、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語でのデフォルトの書式設定 をサポートする国際化製品です。

このリリースは、以下の言語で使用できます。

- 英語
- 中国語(簡体字)
- 中国語(繁体字)
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポルトガル語(ブラジル)
- スペイン語

## 製品ドキュメント

Arcserve UDP 関連のすべてのドキュメントを参照するには、このリンクをクリックして Arcserve のドキュメント にアクセスしてください。

Arcserve UDP ナレッジ センターは、以下のドキュメントで構成されています。

■ Arcserve UDP ソリューション ガイド

一元管理されたコンソール環境でArcserve UDP ソリューションを使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、ソリューションをインストールおよび設定する方法、データを保護およびリストアする方法、レポートを取得する方法、Arcserve High Availabilityを管理する方法などの情報が含まれています。手順には、コンソールの使用を中心に、さまざまな保護プランの使用方法が含まれています。

#### ■ Arcserve UDP リリースノート

Arcserve Unified Data Protection の主な機能、システム要件、既知の問題、 ドキュメントの問題、制限事項などの概要が説明されています。

Arcserve UDP Agent for Windows ユーザ ガイド

Windows オペレーティング システムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Windows ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

#### Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド

Linux オペレーティング システムで Arcserve UDP Agent を使用 するための詳細 情報 が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび 設定する方法、Linux ノードを保護 およびリストアする方法などの情報が含ま れています。

# 第2章: Arcserve アプライアンスの紹介

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

概要	6
<u>安全に関する注意事項</u>	11
同梱されている内容	12
箱に含まれていない項目	17
<u>利用可能なモデル</u>	
<u>コントロールおよびインジケータ</u>	
アプライアンスが使用するポート	53

#### 概要

Arcserve アプライアンスは、アシュアードリカバリ™を初めて搭載した、完成され 最もコスト効率の良い保護アプライアンスです。各 Arcserve アプライアンスは、自 己完結型の「set and forget(設定後は作業不要)」のバックアップ/復旧ソリュー ションです。クラウドネイティブ機能によって構築されており、その極めて容易な導 入とユーザビリティが、一連の幅広い機能(ソースベースのグローバルデデュプリ ケーション、マルチサイトレプリケーション、テープのサポート、自動化されたデータ 復旧機能などの)と組み合わされています。Arcserve アプライアンスは、運用に おいて優れた敏捷性と効率性を実現し、障害復旧作業を大幅に簡略化しま す。

Arcserve アプライアンスは、最新のハードウェアにプレインストールされている主要 な Arcserve Unified Data Protection ソフトウェアと完全に統合されています。アプラ イアンスは、すべてのユーザに対して、完全な統合データ保護ソリューションを提 供し、現在の需要を満たすだけでなく、絶え間なく変化するバックアップ、アーカイ ブ、惨事復旧(DR)の今後の要件にも対応できます。

Arcserve アプライアンス にプレインストールされたソフト ウェアは、以下のとおりです。

- Arcserve UDP
- Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux
- Arcserve Backup

Arcserve アプライアンスにはハードウェア保証が規程されています。この保証の詳細については、arcserve.com/arcserve-appliance-warranty を参照してください。

### **Arcserve Unified Data Protection**

Arcserve UDP ソフトウェアは、複雑な IT 環境を保護する包括的なソリューション です。このソリューションは、Windows、Linux、VMware ESX Server、Microsoft Hyper-V Server など、さまざまな種類のノードに存在するデータを保護します。 ローカルマシンまたは復旧ポイントサーバのいずれかへデータをバックアップできま す。復旧ポイントサーバは複数のソースからのバックアップが保存される中央サー バです。

サポートされているオペレーティング システムの詳細については、「<u>動作要件</u>」を参照してください。

Arcserve UDPには、以下の機能が用意されています。

- 復旧ポイント サーバ上のデデュプリケーション/非デデュプリケーション データスト アにデータをバックアップ
- Arcserve Backup (アプライアンスに含まれています)との統合を使用して、復旧ポイントをテープにバックアップ
- バックアップ データから仮想スタンバイマシンを作成
- バックアップ データを復旧ポイント サーバおよびリモート 復旧ポイント サーバにレ プリケート
- バックアップ データをリストアし、ベア メタル復旧(BMR)を実行
- 選択したデータ バックアップ ファイルをセカンダリ バックアップ先 ヘコピー
- 環境内の重要なサーバに対して Arcserve Full System High Availability (HA)
   を設定および管理

Arcserve UDP は、あるサーバから別の復旧ポイントサーバに復旧ポイントとして保存されるバックアップデータをレプリケートします。 バックアップデータから、ソースノードで不具合が発生したときにスタンバイマシンとして機能できる仮想マシンを作成することもできます。 スタンバイ仮想マシンを作成するには、復旧ポイントを VMware ESX または Microsoft Hyper-V 仮想マシン形式に変換します。

Arcserve UDP ソリューションは、Arcserve High Availability との統合を提供します。 Arcserve High Availability でシナリオを作成した後、これらのシナリオを管理および モニタし、デスティネーション マシンの追加や削除のような操作を実行できます。 詳細については、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

### **Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux**

Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux は、Linux オペレーティング システ ム用に設計されたディスクベースのバックアップ製品です。ビジネス上の重要な情 報を保護および復旧する際に、高速で簡単に使用できる、信頼性の高い方法 を提供します。Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux は、ノード上の変 更をブロックレベルでトラッキングし、変更されたブロックのみを増分プロセスでバッ クアップします。これにより、バックアップの実行頻度を増やすことができ、増分バッ クアップのサイズ(およびバックアップ時間)が削減されるため、これまでよりも最新 のバックアップを利用できるようになります。また、Arcserve Unified Data Protection Agent for Linuxを使用して、ファイルやフォルダのリストア、および単一のバックアップ からのベアメタル復旧(BMR)を実行することもできます。バックアップ情報は、バッ クアップ ソースノードで、NFS (Network File System)共有または CIFS (Common Internet File System)共有に保存できます。

Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux の最新のバージョンは、アプライア ンス内の仮想マシンにプリインストールされます。この仮想マシンが Linux バックアッ プサーバになります。Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux は、Arcserve アプライアンス内のデフォルトのインストールパスにインストールされます。

コンソールを開くと、Linux バックアップサーバはすでにコンソールに追加されていま す。Linux バックアップサーバのネイティブホスト名は Linux-BackupSvr です。ただし、 コンソールでは、Linux バックアップサーバでは、ポート 8018環境設定を使用して アプライアンスのホスト名を適用します。Linux バックアップサーバは、ポートの方向 制御を通じて NAT の背後で動作します。Linux バックアップサーバでは、ポート 8018を使用して通信を行い、Arcserve アプライアンス内のデータを転送します。

**注**: バックアップ プランの作成 および Linux マシンのリストアに関する詳細については、「Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド」を参照してください。

Linux バックアップサーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 root
- パスワード Arcserve

注:デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

#### **Arcserve Backup**

Arcserve Backup は、多種多様な環境のビジネスニーズに対応する高性能な データ保護ソリューションです。本製品は、柔軟なバックアップとリストア、容易な 管理、幅広いデバイス互換性、そして信頼性を提供します。また、ストレージ要 件に応じてデータ保護戦略をカスタマイズできるため、データストレージの機能を 最大限に活用できます。さらに、柔軟なユーザインターフェースにより詳細な設 定が可能で、あらゆるユーザがその技術的知識のレベルにかかわらず、さまざまな エージェント機能や各種オプションを展開して保守できます。

Arcserve Backup には分散環境向けの包括的なデータ保護機能があり、ウイルス フリーのバックアップおよびリストア操作を実現します。多種多様なオプションとエー ジェントにより、企業全体でのデータ保護機能が強化され、さまざまな拡張機能 (オンラインホットバックアップや、アプリケーションおよびデータファイルのリストア、拡 張デバイスおよびメディアの管理、惨事復旧など)が使用可能になります。

Arcserve アプライアンス に搭載 されている Arcserve Backup との統合機能を使用 すると、テープへのバックアップを実行できます。InstallASBU.batを実行すると、 Arcserve Backup がコンピュータ上の "C:\Program Files (x86)\Arcserve" にインストー ルされます。Arcserve アプライアンス にインストールされているコンポーネントを使用 して、Arcserve UDP のデスティネーションをテープにバックアップできます。サポートさ れているオペレーティング システムの詳細については、「動作要件」を参照してくだ さい。

Arcserve Web サイトから Arcserve Backup のフルインストール パッケージをダウン ロードして、他のコンポーネントをインストールできます。詳細については、Arcserve Backup のドキュメントを参照してください。

Arcserve Backup サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 -- caroot
- パスワード -- Arcserve

### **Arcserve Continuous Availability**

Arcserve Continuous Availability は、非同期リアルタイムレプリケーション、自動化 されたスイッチオーバーおよびスイッチバックに基づくソリューションです。Windows サーバ上の仮想環境にコスト効率の高いビジネス継続性を提供します。サポート されているオペレーティングシステムの詳細については、「<u>動作要件</u>」を参照してく ださい。

Arcserve Continuous Availability は、データをローカル サーバまたはリモート サーバ にレプリケート できるため、サーバのクラッシュやサイトに惨事 が発生した場合の データの回復をサポートします。ハイ アベイラビリティのライセンスを所有している場 合、ユーザをレプリカ サーバに手動または自動で切り替えることができます。

**注**: Arcserve Continuous Availability は、アプライアンスにプレインストールされていません。Arcserve Continuous Availability をインストールして設定する方法の詳細については、「<u>インストールガイド</u>」を参照してください

## 安全に関する注意事項

安全のため、Arcserve アプライアンスに対して開梱、接続、設置、電源投入な どの操作を行う場合は、すべての手順を事前に確認し、指示に従ってください。 安全に関する注意事項に従わないと、人身傷害、機器の破損、または誤動作 などが発生する可能性があります。

安全に関する注意事項の詳細については、「<u>安全に関する注意事項(付録)</u>」 を参照してください。

## 同梱されている内容

ここでは、以下アプライアンスシリーズのボックスに同梱されている内容について説明します。

- 8000 シリーズ
- <u>9000 シリーズ</u>
- <u>x シリーズ</u>

# アプライアンス 8000 シリーズのボックスに同梱されている内容

ボックスには以下の品目が同梱されています。

- Arcserve アプライアンス (シリアル番号 ラベルはアプライアンスの背面にあります)
- 電源ケーブル:1
- ネットワークケーブル: 1 赤、1 青 (それぞれ 3 フィートの長さ)
- IPMI ポート ケーブル: 1 (7 フィートの長さ)
- レール/ラック マウント キットには、以下の品目が同梱されています。
  - 2 つのクイック インストール外部 レール
  - 2 つの内部レール拡張
  - 3 つのレール アダプタ(標準のレールマウントのみ)
  - 必要に応じて、関連するその他ハードウェア
- Arcserve フェースプレート
- Microsoft クライアント アクセス ライセンス

**注**: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。 不足品や破損品がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください。

# アプライアンス 9000 シリーズのボックスに同梱されている内容

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのボックスは、9012、9024、9048 用と 9072DR-9504DR 用の2種類あります。下記リストには、両方のボックスの内容を 記載します。

9012、9024、9048 付属品ボックスに同梱されている品目は、以下のとおりです。

- ベゼル、1U ボックス、CUS 14G ベゼル アセンブリ、LCD、AR、(380-7406)
- ARCSERVE クイックスタート ガイド、ARCSERVE アプライアンス導入シート
- ARCSERVE DELL R440 ハードウェア取り付けガイド
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 赤
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 青
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、7 FT 黒
- Dell 安全環境規制ブック
- US 電源コード(2x) a

**注**: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。 不足品や破損品がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください。

ラックレールキットが付属する 9072DR-9504DR ボックスに同梱される品目は、以下のとおりです。

- ベゼル、2U ボックス、CUS 14G ベゼル アセンブリ、LCD、AR、(380-7405)
- ARCSERVE クイック スタート ガイド、ARCSERVE アプライアンス 導入シート
- ハードウェア インストール ガイド ARCSERVE DELL R740
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 赤
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、3 FT 青
- ケーブル、FLEXBOOT、CAT6、ネットワーク、7 FT 黒
- ケーブル アセンブリ、ミニ SAS、外部、SFF-8644 から SFF-8088 1M
- Dell 安全環境規制ブック
- US 電源コード(2x)

# アプライアンス x シリーズのボックスに同梱されている内容

Arcserve アプライアンス X シリーズには、以下の項目が含まれます。

- アプライアンス X シリーズ コンピュート ノード:
  - MICROSOFT
  - WIN SVR EMB STD 2019 16-CORE

コンピュート ノード アクセサリボックス:

- ◆ Windows 4-Core 拡張 ライセンス(数量 10)
- ◆ ハード ウェア セット アップ ガイド、ARCSERVE R740
- ◆ Arcserve クイック スタート ガイド、UDP アプライアンス導入シート
- ◆ アセンブリ、ARCSERVE SOPHOS 2U ベゼル(2 色のバブル バッジ付き)
- ◆ Dell 安全に関する情報
- 電源コード(2本)、米国または国別仕様(注文した場合)
- ラックマウントスライドレールキット
- ◆ ケーブル管理アーム
- オプションのコンポーネント(注文した場合):
  - SFP
  - SAS ケーブル
  - DAC ケーブル

**注**:以下は、アレイの前面に取り付けられます。Arcserve ME4084 ペイント ベゼルとバブル バッジ アセンブリ。

■ アプライアンス x シリーズ ストレージ ノード

50 ストレージ システム ボックスには、以下 のものが同梱されています。

- ◆ マニュアル
- ◆ 5U ストレージ アプライアンス エンクロージャ
- ◆ 電源ケーブル2本
- ◆ 個別パッケージのディスクドライブ(5U エンクロージャのみ)
- ◆ ファイバ チャネルまたは iSCSI SFP+ トランシーバまたはケーブル(ホスト ポートごとに1つ)
- ◆ ホスト ケーブル(コントローラ モジュールホスト ポートごとに1本)

- ◆ 拡張ケーブル(拡張モジュールごとに1本)
- オプションのキー付きエンクロージャベゼルセット(50 エンクロージャごとに1つ)
- ◆ 5U ストレージ システム エンクロージャ用の適切なラックマウントキット
   ME4084 アクセサリボックス:
  - ◆ ハード ウェア セット アップ ガイド、ARCSERVE ME4084
  - → ラックマウントスライドレールセット
  - ◆ C19 からC20、PDU 形式、2.5M 電源コード(2本)
  - ◆ シリアルケーブル
  - 12Gb HD-Mini  $\sim$  HD-Mini SAS Cable、2M(4 本)
  - ◆ ストレージ アレイ規制情報ドキュメント
  - ◆ ストレージ アレイのセットアップドキュメント
  - ◆ 安全および環境情報ドキュメント
  - ベゼル取り外しレンチ
  - ◆ 未使用のドライブ番号ラベル

注:ハードドライブは、アレイの下の別のボックスに入っています。

**注**: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。 不足品や破損品がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください。

## 箱に含まれていない項目

以下の項目は、箱に含まれておらず、アプライアンスの設置および設定に必要となる場合があります。

- モニタ
- キーボード
- 外部ストレージデバイス(必要な場合)

## 利用可能なモデル

Arcserve アプライアンス 7000 シリーズ、8000 シリーズ、および 9000 シリーズは、お客様のさまざまなニーズを満たすように設計された多種多様なモデルで提供されています。

- モデル7100 7300v
- モデル7400 7600v
- モデル8100-8400
- モデル9012-9504 DR
- <u>モデル X シリーズ</u>

## モデル 7100 - 7300v

#### Arcserve アプライアンス モデル 7100 - 7300v

Arcserve アプライアンス 7000 シリーズの仕様							
アプライア ンス モデル	7100	7200	7200V	7300	7300V		
バックアップストレージ容量							
Raw スト		c = 0		0.75	0.75		
レーン谷重 *	318	P IR	618	918	918		
使用可能							
なバックアッ プ容量**	2.8 TB	5.8 TB	5.8 TB	8.8 TB	8.8 TB		
保護されて							
いる( ソース データ) 容 量 ***	最大 8 TB	最大 17 TB	最大 17 TB	最大 26 TB	最大 26 TB		
標準機能							
増分 バックア 化 のサポート サポート 、ア ポーティング	マップ、圧縮、 、エージェン プリケーション 、ダッシュボー	暗号化、WAN トレスバックア ·整合性のある ド。	N 最適化レフ ップ、リモート( ッバックアップ、	<sup>ピ</sup> リケーション、 反想スタンバ・ 詳細リストア	拡張仮想 イ、 <del>テー</del> プの 、統合レ		
アフライアン スの仮想ス タンバイ	N/A	N/A	最大 3 つの VM	N/A	最大 3 つの VM		
保証および	技術的仕様	1	1				
フルシステ ム Depot 保 証	フルシステ ム Depot 保 3 年間 証						
物理的な サイズ	物理的な サイズ						
(H×W×D かま)	1.7" x 17.2" x 25.6" (1U - 19" ラック マウント レールを提供)						
<u>-127)</u> リモート管							
理および							
ネットワーク		1 x IPM	I & 2 x 1 GbF (	R145)			
インター		1711					
フェース							
ホート							

ハード ディ								
スクの種類	4 x 1 TB SAS	4 x 2 TB SAS	4 x 2 TB SAS	4 x 3 TB SAS	4 x 3 TB SAS			
および RAID	( RAID 5)	( RAID 5)	( RAID 5)	( RAID 5)	( RAID 5)			
構成								
外部テープ								
バックアップ	1 χ ΡΔςς							
接続(SAS、	TVL W22							
SATA√FC)								
システム	16 GB	16 GB	32 GB	32 GB	48 GB			
RAM合計	10 00	10 00	52 00	52 00				
SSDドライブ								
(デデュプリ								
ケーション	120 GB SSD	120 GB SSD	120 GB SSD	240 GB SSD	240 GB SSD			
ハッシュテー								
ブル用)								
最大重量								
(lbs)			41 103					
電源								
(単一また			1 x 600W					
は冗長)								
消費電力								
(アイドル/								
ロード/ス	93/116/143	122/164/143	125/167/145	125/167/145	129/188/152			
タートアップ								
時のワット)								
AC 電圧お								
よび周 波 数			100 - 240v					
範囲								
アンペア定			マンペマ(早-	μ.)				
格	/.5 / ノヘア(							
*1 TB = 1,000	*1 TB = 1,000,000,000 バイト							
** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイ VM のサ								
イズの分だけ	け少なくなります。							
***一般的	*** ー 般 的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧 縮 率を想 定して容 量を推 定							
しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、								
スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。								

## モデル 7400 - 7600v

#### Arcserve アプライアンス モデル 7400 - 7600v

Arcserve アプライアンス 7000 シリーズの仕様								
アプライア ンス モデ ル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V		
バックアップ	バックアップストレージ容量							
Raw スト レージ容 量 *	16 TB	16 TB	20 TB	20 TB	30 TB	30 TB		
使用可能 なバックアッ プ容量**	15.8 TB	15.8 TB	19.8 TB	19.8 TB	29.8 TB	29.8 TB		
保護されて いる(ソー スデータ) 容量***	最大 46 TB	最大 46 TB	最大 58 TB	最大 58 TB	最大 90 TB	最大 90 TB		
標準機能								
統合管理: アップ、圧縮 ントレスバッ あるバックア	コンソール、グ な、暗号化、	゙ロ─バルデデ <u>-</u> WAN 最適化 L ──ト仮想スタン ストア、統合レ	ュプリケーション ノプリケーション ノバイ、テーブ ・ポーティング、	ノ、ブロックレ ン、拡張仮想 『のサポート、 ダッシュボー	ベルの無限増 乳化のサポー アプリケーショ ド。	曽分バック ト、エージェ ン整合性の		
アフライア ンスの仮想 スタンバイ	N/A	最大 6 つの VM	N/A	最大 9 つの VM	N/A	最大 12つ のVM		
保証および	<b>依</b> 括術的仕様							
フルシステ ム Depot 保証	フルシステ ム Depot 3 年間 保証							
物理的な サイズ (HxWxD インチ)								
リモート 管 理 および ネット ワーク インター フェース ポート	1 x IPMI &	. 2 x 1 GbE ( RJ4	15) および 4 x	1GbE ( RJ45)	。2 x 10 Gb ( :	オプション)		

ハード ディ スクの種類 および RAID 構成 外部テープ バックアップ 接続	10 x 2 TB SAS ( RAID 6)	10 x 2 TB SAS ( RAID 6)	12 x 2 TB SAS ( RAID 6) 1 x P	12 x 2 TB SAS ( RAID 6) ASS	12 x 3 TB SAS ( RAID 6)	12 x 3 TB SAS ( RAID 6)	
( SAS \ SATA \ FC)							
システム RAM 合計	64 GB	96 GB	64 GB	96 GB	128 GB	192 GB	
SSDドライ ブ ( デデュプリ ケーション ハッシュ テーブル 用)	240 GB SSD	240 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	52 lbs						
電源 (単一また は冗長)	2 x 920w						
消費電力 (アイドル/ ロード/ス タートアップ 時のワット)	208/257/ 358	208/257/ 358	208/257/ 358	208/257/ 358	240/296/ 369	240/296/ 369	
AC 電圧お よび周波 数範囲	100 - 240v						
アンペア定 格	11 アンペア(最大)						
*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト ** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイ VM のサイズの分だ け少なくなります。 *** 一般的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。 バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づ いて、大幅に変わる可能性があります。							

## モデル 8100-8400

#### Arcserve アプライアンス モデル 8100-8400

Arcserve アプライアンス 8000 シリーズの仕様								
アプラ イアン ス モデ ル	UDP 8100	UDP 8200	UDP 8300	UDP 8400				
ソース バッ ク アップ *	12TB-18TB	24TB-36TB	48TB-128TB	96TB-240TB				
システ ム RAM	32 GB	32 GB	64 GB	128 GB				
最大 RAM **	64GB/96G	B/160GB	96GB/128GB/192GB	160GB/192GB/256GB				
SSD ド ライブ	120 GB SSD	200 GB SSD	480 GB SSD	1.2 TB SSD				
プロ セッサ	E5 2609 V4、8 コア、1.7 GHZ	E5 2620 V4、8 コア、2.1 GHZ	E5 2640 V4、10 コ ア、2.4 GHZ	E5 2650 V4、12 コ ア、2.2 GHZ				
RAID カード	936	1-4i	9361-8i					
RAID 構成	BBU 付き	₹ Raid-5	BBU 付き Raid-6					
ドライ ブ ベイ	4	Ļ	12					
			6x 4TB SAS 12G 7x 4TB SAS 12G	6x 8TB SAS 12G 7x 8TB SAS 12G				
ドライ ブ	3x 2TB SAS 12G 4x 2TB SAS 12G	3x 4TB SAS 12G 4x 4TB SAS 12G	8x 4TB SAS 12G 9x 4TB SAS 12G	8x 8TB SAS 12G 9x 8TB SAS 12G				
			10x 41B SAS 12G 11x 4TB SAS 12G 12x 4TB SAS 12G	10x 81B SAS 12G 11x 8TB SAS 12G 12x 8TB SAS 12G				
DIMM/ 最大 DIMM	4x 8GB DD	R4-2400/ 8	4x 16GB DDR4- 2400/ 8	4x 32GB DDR4-2400/ 8				

カード	LSI SAS9200-8E							
電源	2 x ホット スワップ冗長 500W	2 x 920W ホット スワップ冗長高効率 AC						
	AC Platinum	電 源、Platinum レベル						

\* 一般的な 3:1 のデデュプリケーションと圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、バックアップ スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。

\*\* Arcserve アプライアンスには、アプライアンス上で仮想スタンバイ/インスタント VM の復旧をホストするために、追加のRAM があります。VM のメモリ割り当ては、 ゲスト OS のワークロードに基づいてサイズ設定する必要があります。Arcserve で は、お客様のニーズに基づいて、標準のアプライアンス構成にRAM を追加するオ プションも提供します。

### モデル 9012 - 9504DR

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの仕様											
アプライ アンス モ デル	901 <sup>.</sup> 2	902 <sup>.</sup> 4	904 8	9072D- R	9096D- R	9144D R	9192D R	9240D R	9288D R	9360D- R	9504DR
使用可 能な容 量	4 TB	8 TB	16 ТВ	24 TB	32 TB	48 TB	64 TB	80 TB	96 TB	120 ТВ	168 TB
ソース バック アップ	12 TB	24 TB	48 ТВ	72 TB	96 TB	144 TB	192 TB	240 TB	288 TB	360 TB	504 TB
システム RAM	6 x 8	8 GB GB)	( 48	12 x 16 GB ( 192 GB)							12 x 32 GB ( 384 GB)
最大 RAM / DIMM	176 D	GB , IMM	/ 10 S	576 GB / 24 DIMMS							768 GB / 24 DIMMS
SSD ドラ イブ	480 GB SSD 2 x 1.9 TB SSD ( RAID1)										
プロセッ サ	Intel Xeon Silver 4108, 8 - CORE, 1.8 GHz						2.2 GHz	2			
プロセッ サ数		1		2							
RAID	PER	C H7	30P	PERC H730P、ミニカード、2 GB NV キャッシュ						ı	

Arcserve アプライアンス モデル 9012 - 9504DR
カ <b>ー</b> ド	低 プロファイ ル、 アダプタ、 2 GB NV キャッシュ									
RAID 構 成	RAID-	5				RA	ND-6			
ドライブ ベイ	4			16						
拡張 キット	N/A		11	10	8	6	4	6	4	N/A
RAID 2	N/A						6			
ドライブ	3 x 3 x 2 4 TB TB	3 x 8 TB	5 x 8 TB	6 x 8 TB	8 x 8 TB	10 x 8 TB	12 x 8 TB	10 x 12 TB	12 x 12 TB	16 x 12 TB
基本 PCIe カード	オンボー Broadco 5720 デュ ポート 1 LOM	ード om -アル Gb	Broadc	om 572 SAS 12	20 QP 1 2Gbps H	Gb ネッ BA 外音	ト ワー? 部 コント	フ <i>ドー</i> ダ ロ──ラ	* カード	Broadco- m 5720 QP 1 Gb SAS 12Gbps HBA 外 部デュア ルポート 10 G Base-T 銅線
PCIe カード (ファクト リオプ ション)	LOM SAS 12Gbps HBA 外部コ ントローラ Broadcom 5719 クアッド ポート 1 G NIC デュアルポー ト 10 G 銅線 デュアルポー ト 10 G SFP + デュアルポー ト FC 16 G HBA			デ デ デ-	ュアル፣ ニアル፣ ュアルオ	ポート 1 ポート 1 ポート FC	0 G 銅 0 G SFF 2 16 G F	線 )+ IBA	. 1) 7	デュアル ポート 10 G SFP + デュアル ポート FC 16 G HBA
电源		ハツ		ユアル	ホット・	ノフソ、	几長龍	,	+ 1) 、 7.	50 W

	ト プラグ、冗 長電源(1+ 1)、550 W	
iDRAC		
Enterpri-		1
se		

# モデル X シリーズ

Arcserve アプライアンス モデル X シリーズ

Arcser	ve アプライア	ンス x シリー	-ズの仕様				
アプライアンス モデル	X1000DR	X1500DR	X2000DR	X2500DR	X3000DR		
実効容量(TB) <sup>1</sup>	1,056	1,584	2,112	2,640	3,168		
拡張キット使用時の最大			2 1 6 9				
実効容量( TB) <sup>1</sup>		3,168					
注:実効容量は、グローバ	ルソースデ	デュプリケー	ーションを考	慮したもの	ので、HDD		
の使用可能容量の約3倍	で、SSDは	含まれません	ん。実際の	ロバックアッ	プ容量		
は、データの種類、バックアッ	プの種類、	スケジュー	ルなどの要	因によって	て異なる場		
合があります。							
ディスク イメージングおよび							
ディザスタ リカバリ ソフト ウェ	Arc	serve UDP I	Premium E	dition に含	なむ		
7							
テープ統合ソフトウェア		Arcserv	e Backup l	含む			
サイバーセキュリティソフト	Sonhos	Intercent X	Advanced	for Server	に会む		
ウェア							
Continuous Availability と自	Arcserve Continuous Availability のオプション						
動フェールオーバ							
オプションのクラウド バック							
アップおよびディザスタリカバ	Arcserve UDP Cloud Hybrid Secured by Sophos						
リアドオン							
	コンピュ	ートノード					
CPU	Dual Ir	ntel Xeon Go	old 6258R	2.7G、28C	/56T、		
	10.4GT/s	、38.5M キ	ヤッシュ、タ	ヱ゚ <del>゚</del> ーボ、HT	( 205W)		
デフォルト RAM	1,02	4 GB ( 16 x	64) DDR4	-3200 RDI	MM		
最大 RAM			2,048 GB				
DIMM スロット			24				
NVMe SSD	2 x 1.6	TB ( RAID-1	L) および 6	x 4TB ( RA	AID-5)		
ドライブ ベイ		24x 2.5" Er	nterprise N	IVMe SSD			
SAS 12Gbps HBA 外部コント ローラ			2x 付属				
Intel X550 Quad Port 10G			同梱				

Base-T <b>アダプタ</b>						
Broadcom 57414 デュアル ポート 25Gb SFP28 アダプタ		オプション				
Intel X710 デュアル ポート 10G SFP+ FC アダプタ		オプション				
QLogic 2692 デュアルポート 16Gb ファイバ チャネル HBA			オプション			
リモート ハードウェア管理		idrac e	interprise l	に含む		
電源	デュアル、	ホットプラク	ブ、冗長電	[源(1+1)]	、1100W	
放熱		410	0 BTU/時	間		
重さ		75 <del>7</del>	ポンド ( 34 k	g)		
フォームファクタ			2U			
ラック内寸法(ベゼル、前						
面パネル、電源ハンドルを	26.7" x 1	7.1" x 3.4"	( 67.9 cm >	(43.4 cm)	( 8.7cm)	
除く)						
外形寸法(ベゼル、前面						
パネル、電源ハンドルを含	29.6" x 1	9.0" x 3.4"	( 75.1 cm >	48.2 cm	( 8.7cm)	
<u>ئ)</u>						
パッケージす法	38"	x 26" x 12"	(97cm x 6	56cm x 300	:m)	
	ストレー	ージノード	1			
16TB SAS 12G ホットプラグ HDD	28	42	56	70	84	
最小使用可能容量	352	528	704	880	1056	
オプション キットによる線 形 拡張機能	1	1	1	1		
RAID レベル		R	AID-ADAPT	-		
RAID コントローラ	デ	ュアル 8-por	t SAS 12Gk	)コントロー	-ラ	
HDD のホット スペア容量		Ē	<b></b>			
電源		デュアル、5	冗長(1+1)	、2200W		
放熱			7507 BTU			
重さ	141 7	ポンド ( 64kg	) から 298	ポンド (13	5kg)	
フォームファクタ			5U			
外形寸法(ベゼル、前面 パネル、電源ハンドルを含 む)	38.31"	x 19.01" x 8	3.75" ( 97.4 22.23cm)	7cm x 48.	30cm x	

#### コントロールおよびインジケータ

Arcserve アプライアンス には、前面 および背面 のパネルと各ドライブ キャリアにいく つかのコントロールとインジケータ(LED) が備 わっています。これらのコントロールおよ びインジケータによって、さまざまな機能を制御 でき、アプライアンスとコンポーネント のステータスをすばやく参照 する機能を提供します。

- 前面パネル7100-7300v
- 前面パネル7400-7600v
- 前面パネル8100-8200
- 前面パネル8300-8400
- 前面パネル9012-9048
- 前面パネル9072DR-9504DR
- 背面パネル7100-7300v
- 背面パネル7400-7600v
- 背面パネル8100-8200
- 背面パネル8300-8400
- 背面パネル9012-9048
- 背面パネル9072DR-9504DR

### 前面パネル7100-7300v

Arcserve アプライアンス の前面 パネルには、コントロール パネルボタン、コントロールパネル LED、ドライブ キャリア LED が備 わっています。以下 の表 で、これらの項目について説明します。



番号	コントロール/インジ ケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまた はオフにするために使用されます。電源をオフにした場 合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引 き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源 を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に 電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセット ボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
2	電源工具	<b>緑色の点灯:</b> アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。
3	官源 LED	アプライアンスの稼働中は、通常このLED が点灯して います。
4	デバイスアクティビティ	黄色の点滅:少なくとも1つのハードドライブ上のアク
	LED	ティビティを示します。
5	ネット ワーク インター フェース カード( NIC1)	<b>黄色の点滅:</b> ネットワーク1(ETH0ポート)上のネット ワークアクティビティを示します。
4 5	デバイス アクティビティ LED ネット ワーク インター フェース カード (NIC1)	<b>する ? 。</b> 黄色の点滅:少なくとも 1 つのハード ドライブ上のア ティビティを示します。 黄色の点滅:ネット ワーク 1 (ETHO ポート) 上のネッ ワーク アクティビティを示します。

	LED	
6	ネット ワーク インター フェース カード ( NIC2) LED	<b>黄色の点滅:</b> ネットワーク2(ETH1ポート)上のネット ワークアクティビティを示します。
		<b>赤色の常時点灯:</b> 過熱条件が発生しました。(これ はケーブル輻輳が原因で発生する可能性がありま す。) * <b>赤色の点滅 - 高速(1秒):</b> ファンの障害。動作し ていないファンを確認します。
7	情報 LED	* <b>赤色の点滅 - 低速(4秒) :</b> 電源の障害。動作し ていない電源を確認してください。
		<b>青色の点灯:</b> ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。
		<b>青色の点滅:</b> リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。
8	ユニット 識 別 子 ( UID) ボタン	アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユ ニバーサル情報(青)をオンまたはオフにするために使 用されます。 青色のLED がオンである場合、アプライアンスをラック 内で簡単に特定できます(前または後ろのいずれ
9	ハード ドライブ( HDD)	<sup>か)。</sup> 緑色の点滅:対応するドライブ上のアクティビティを示 します。
10	ハード ドライブ( HDD) LED	* 赤色の点灯:対応するハードドライブの障害を示します。 Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き 正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、デー タが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる 限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
11	ハード ドライブ( HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用 されます。
12	ソリッド ステート ドライ ブ( SSD) LED	* <b>赤色の点灯</b> : ドライブの障害を示します。
13	ソリッド ステート ドライ ブ( SSD) LED	緑色の点灯:ドライブのアクティビティを示します。 緑色の点滅:ドライブがアクセス中 であることを示しま す。
14	ソリッド ステート ドライ ブ( SSD) ラッチ	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に 解決するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

#### 前面パネル 7400-7600v

Arcserve アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネル LED、ドライブ キャリア LED が備わっています。以下の表で、これらの項目について説明しま す。



	コント	
番	ロール/イ	○ 日日
号	ンジケー	
	タ	
		アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使
	雪酒ボタ	用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ
1	电 <i>际</i> 小子  、,	電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオ
	-	フにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜
		いてください。
2	リセットボ	アプライアンスを再起動するために使用されます
2	タン	ファンコンスで中陸 切り るにのに使用 これになり。
		緑色の点灯:アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示しま
3	電源 LED	す。
		アプライアンスの稼働中は、通常このLED が点灯しています。
	デバイスア	
4	クティビティ	<b>異 巴 U R M:</b> ダ は ( Cも I JU) パート ト フィノエ U F クナイヒナイを示しま オ
	LED	۰ <del>۲</del>
5	ネットワー	<b>黄色の点滅:</b> ネットワーク1(ETH0ポート)上のネットワークアクティビティを

	ク <i>インター</i> フェ <del>ー</del> ス カード ( NIC1) LED	示します。
6	ネットワー クインター フェース カード ( NIC2) LED	<b>黄色の点滅:</b> ネットワーク2(ETH1ポート)上のネットワークアクティビティを 示します。
7	情報 LED	<ul> <li>赤色の常時点灯:過熱条件が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</li> <li>*赤色の点滅 - 高速(1秒):ファンの障害。動作していないファンを確認します。</li> <li>*赤色の点滅 - 低速(4秒):電源の障害。動作していない電源を確認してください。</li> <li>青色の点灯:ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</li> <li>青色の点滅:リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</li> </ul>
8	電源失敗	電源モジュールが失敗したことを示します。
9	ハ <del>ー</del> ドドラ イブ ( HDD) LED	<b>緑色の点滅</b> :対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハード ドラ イブ ( HDD) LED	* 赤色の点灯:対応するハードドライブの障害を示します。 Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生 した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアン スが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害 に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小 限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要がありま す。
11	ハ <del>ー</del> ド ドラ イブ ( HDD) ラッ チ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

## 前面パネル8100-8200

Arcserve アプライアンス 8100-8200 アプライアンスの前面 パネルには、コントロール パネルボタン、コントロール パネル LED、ドライブ キャリア LED が備 わっています。 以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



コントロー	
ルインジ	説明
ケータ	
I/O 電源ボ タン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用 されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電 源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフに するには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてく ださい。
リセット ボタ ン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
<b>電波100</b>	<b>緑色の点灯</b> :アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。
电 //FLED	アプライアンスの稼働中は、通常この LED が点灯しています。
HDD LED	黄色の点滅:少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
ネットワーク	
インター	黄色の点滅:ネットワーク1(ETH0ポート)上のネットワークアクティビティを示
フェースカー	します。
ド( NIC1)	

LED	
ネットワーク	
インター	   <b>黄 毎 の 占 減 ・</b> ネット ワーク 2(FTH1 ポート)ト のネット ワーク アクティビティを示
フェースカー	夏日の京願: キリーノーノン(Linitホート) エのキシドノーノノノノキント   .ます。
ド( NIC2)	
LED	
	赤色の常時点灯:過熱条件が発生しました。
	注:ケーブル輻輳が原因で、この状況が発生する可能性があります。
	* 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。動作していないファンを確認し
	ます。
情報 LED	* 赤色の点滅 - 低速(4秒): 電源の障害。動作していない電源を確認してください。
	<b>青色の点灯:</b> ローカル UID がアクティブです。この機能を使用して、ラック環 境のサーバを特定します。
	<b>青色の点滅:</b> リモート UID がアクティブです。この機能を使用して、リモートの 場所からサーバを特定します。
고二ット 識 뫼 곷 ( ) IID)	アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報(青)を オンまたはオフにするために使用されます。
が 子(000) ボタン	青色のLED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できま す(前または後ろのいずれか)。
ハード ドライ ブ( HDD) LED	<b>緑色の点滅</b> :対応するドライブ上のアクティビティを示します。
	* 赤色の点灯:対応するハードドライブの障害を示します。
ハードドライ ブ( HDD) LED	Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した 場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引 き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連す る問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑える ためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
ハードドライ	
ブ( HDD)	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
ラッチ	
ソリッド ス	
テートドライ	* 赤色の点灯:ドライブの障害を示します。
ブ( SSD) LED	
ソリッドス	緑色の点灯:ドライブのアクティビティを示します。
テートドライ	  緑色の点滅・ドライブがアクセス中であることを示します。
フ(SSD) LED	
ソリッド ス テート ドライ ブ( SSD) ラッ	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
チ	

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に 解決するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

#### 前面パネル8300-8400

Arcserve アプライアンス 8300-8400 アプライアンスの前面 パネルには、コントロール パネルボタン、コントロール パネル LED、ドライブ キャリア LED が備 わっています。 以下 の表 で、これらのアイテムについて説明します。



コントロー	
ルインジ	説明
ケータ	
電源ボタ ン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
リセット ボ タン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
電源 LED	緑色の点灯:アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。

	アプライアンスの稼働中は、通常このLED が点灯しています。
ネットワー	
クインター	
フェース	黄色の点滅: ネットワーク1(ETH0ポート)上のネットワークアクティビティを示
カード	します。
( NIC1)	
LED	
ネットワー	
クインター	
フェース	黄色の点滅: ネットワーク2(ETH1ポート)上のネットワークアクティビティを示
カード	します。
( NIC2)	
LED	
	赤色の常時点灯:過熱条件が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因
	で発生する可能性があります。)
	* 赤色の点滅 - 高速(1秒): ファンの障害。 動作していないファンを確認しま
	र, <u>वि</u>
	* <b>去色の占減 ((1))</b> , 雷酒の暗実 動作(ていたい雷酒を確認) て
情報 LED	が已の点版・必定(4秒): 电源の障害。 動作していない 电源を確認して ください。
	<b>青色の点灯:</b> ローカル UID がアクティブになりました。この機能を使用して、ラッ ク環境のサーバを特定します。
	<b>青色の点滅:</b> リモート UID がアクティブになりました。この機能を使用して、リ
	モートの場所からサーハを特定します。
電源異常 LED	電源モジュールが失敗したことを示します。
ハードドラ	
イブ( HDD)	<b>緑色の点滅</b> :対応するドライブ上のアクティビティを示します。
LED	
	* 赤色の点灯:対応するハードドライブの障害を示します。
	Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した
ハートトフ イブ( HDD) LED	場合、残りのドライブがすぐに起動し、 データは失われずにアプライアンスが引き
	続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問
	題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるために
	できる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。
ハードドラ	
イブ( HDD)	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
ラッチ	

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に 解決するには、Arcserve サポートにお問い合わせください。

7

#### 前面パネル9012-9048

Arcserve アプライアンス の前 面 パネルには、コントロール パネルボタン、コントロー ルパネル LED、ドライブ キャリア LED を搭載しています。以下の表で、これらのアイ テムについて説明します。



番 号	コントロール/インジ ケータ	アイコン	説明
1	左コントロールパネル	N/A	システム健全性、システムID、ステータスLED、 およびiDRAC クイック同期 2(ワイヤレス) インジ ケータを備えています。 注:iDRAC クイック同期 2 インジケータは、特定 の構成にのみ搭載されています。 ・ステータス LED:障害の発生したハード ウェアコンポーネントを識別することができ ます。最大 5 つステータス LED およびシス テム全体の健全性 LED (シャーシの健全 性とシステム ID) バーを備えています。詳 細については、リンクを参照してください。 ・クイック同期 2 (ワイヤレス): クイック同 期が有効になっているシステムを示しま す。クイック同期機能はオプションです。こ の機能を使用すると、モバイルデバイスで システムを管理できます。この機能によ り、ハードウェアやファームウェアインベント リ、および各種システムレベルの診断とエ ラー情報が集約され、システムのトラブル シューティングで使用することができます。 詳細については、リンクを参照してください。
2	ドライブ スロット	N/A	ご使用のシステムでサポートされているドライブを インストールできます。ドライブに関する詳細につ いては、 <u>リンク</u> を参照してください。
3	オプティカルドライブ( オプ	N/A	オプションで1基のスリムSATADVD-ROMドライブ

	ション)		または DVD + RW ドライブ
4	VGA ポート		表示デバイスをシステムに接続できます。詳細 については、 <u>リンク</u> を参照してください。
5	USB ポート ( オプション)	\$\$	USB ポートは、USB 2.0 準 拠です。
6	右 コント ロール パネル	N/A	電源ボタン、USBポート、iDRACダイレクトマイクロポート、および iDRACダイレクトステータス LEDを備えています。
7	情報タグ	N/A	情報タグはスライド式のラベルパネルで、サービ スタグ、NIC、MAC アドレスといったシステム情報 が格納されています。 iDRAC への安全なデフォル トアクセスを選択すると、情報タグには iDRAC の 安全なデフォルトパスワードも格納されます。

#### 前面パネル9072DR - 9504DR

Arcserve アプライアンス の前 面 パネルには、コントロール パネルボタン、コントロー ルパネル LED、ドライブ キャリア LED を搭載しています。以下の表で、これらのアイ テムについて説明します。



4

番号	コントロール/インジケー タ	アイコン	説明
1	左コントロールパネル	N/A	システム健全性、システム ID、ス テータス LED、オプションで iDRAC ク イック同期 2 ( ワイヤレス) インジケー タを搭載しています。
2	ドライブ スロット	N/A	システムでサポートされているドライ ブをインストールできます。詳細につ いては、 <u>リンク</u> を参照してください。
3	右コントロールパネル	N/A	電源ボタン、VGA ポート、iDRAC ダ イレクト マイクロ USB ポート、および 2 つの USB 2.0 ポートを備えていま す。

4	情報タグ	N/A	情報タグはスライド式のラベルパネ ルで、サービスタグ、NIC、MAC アド レスといったシステム情報が格納さ れています。 iDRAC への安全なデ フォルト アクセスを選択すると、情 報タグには iDRAC の安全なデフォル ト パスワードも格納されます。
---	------	-----	---

#### 前面パネルXシリーズ

前面パネルの詳細については、「<u>X シリーズ アプライアンスの設置 - コンピュート</u> ノード」および「<u>X シリーズ アプライアンスの設置 - ストレージ ノード</u>」を参照してくだ さい。

#### 背面パネル7100-7300v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番 号	コント ロール/ インジ ケータの 名前	説明
1	電源	高効率電源をアプライアンスに提供します。 注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使 用されます。このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場 合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電 源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコ ンセントから抜いてください。
2	IPMI ポー ト( リモー ト管理)	IPMI (インテリジェント プラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用す ると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態を モニタできます。 注: IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワー ドはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する 方法の詳細については、「 <u>IPMI パスワードを変更する方法</u> 」を参照してくだ さい。
3	外部スト レージデ バイスの ポート (テープド ライブの SAS ポー ト)	外部ストレージ デバイス( ハード ドライブ、テープドライブなど) をアプライアン スに接続するために使用されます。 これらのポータブル外部ストレージ デバ イスを使用して、 バックアップ データを保存して 1 つの場所から別の場所に 簡単に移動させることができます。
4	シリアル 番号のラ	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。

	ベル	
5	COM1 シ リアル ポート	シリアル デバイス( マウスなど) をアプライアンスに接続するために使用される 通信ポート。
6	USB 2.0 ( 黒 )	USB 2.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 ( 青)	USB 3.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネット ワー ク <i>デー</i> タ I/O ポート 1	ネットワーク データをアプライアンスから転送 するために使 用されます。( ネットワーク 1 の場合 は ETHO)
9	ネット ワー ク <i>デー</i> タ I/O ポート 2	ネットワーク データをアプライアンスから転送 するために使 用されます。( ネットワーク 2 の場合は ETH1)
10	VGA コネ クタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。

#### 背面パネル 7400-7600v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番号	コントロー ル/インジ ケータの 名前	説明
1	デュアル電 源	高効率電源をアプライアンスに提供します。 注: 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に 使用されます。デュアル電源の利点は、1つの電源が失敗しても、別の電 源を使用できることです。 このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ 電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全に オフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから 抜いてください。
2	IPMI ポー ト( リモート 管理)	IPMI (インテリジェント プラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用す ると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態 をモニタできます。 <b>注</b> : IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワー ドはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更す る方法の詳細については、「 <u>IPMI パスワードを変更する方法</u> 」を参照して ください。
3	外部スト レージデ バイスの ポート (テープド ライブの場 合は SAS	外部ストレージ デバイス( ハード ドライブ、テープ ドライブなど) をアプライア ンスに接続するために使用されます。 これらのポータブル外部ストレージ デ バイスを使用して、 バックアップ データを保存して 1 つの場所から別の場所 に簡単に移動させることができます。

	ポート)	
4	シリアル番 号 のラベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1 シリ アルポート	シリアル デバイス(マウスなど)をアプライアンスに接続するために使用される 通信ポート。
6	USB 2.0 ( 黒 )	USB 2.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 ( 青)	USB 3.0 タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワー ク <i>デー</i> タ I/O ポート 1	ネットワーク データをアプライアンスから転送 するために使 用されます。(ネットワーク1の場合は ETHO)
9	ネット ワー ク デ <i>ー</i> タ I/O ポート 2	ネットワーク データをアプライアンスから転送 するために使 用されます。(ネットワーク 2 の場合は ETH1)
10	VGA コネク タ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。
11	外部スト レージデ バイスの ポート (テープ オートロー ダ/ライブラ リ) LSI SAS 9212 - 4i4e	外 部 ストレージ デバイス(テープオートローダ/ライブラリ) をアプライアンスに 接続するために使 用されます。これらのポータブル外 部 ストレージ デバイス を使 用して、バックアップ データを保存して 1 つの場 所 から別 の場 所 に簡 単に移動させることができます。 注:このポートは、オペレーティングシステムでは LSI Adapter SAS2 2008 Falcon として表示されます。

#### 背面パネル8100-8200

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番 号	コントロール/インジケータの名 前
1	電源モジュール#1
2	AC 電源 インレット #1
3	電源 #2
4	AC 電源インレット #2
5	сом ポート
6	IPMI ポート( リモート 管 理)
7	低 プロファイル PCI 拡張 スロット
8	PCI 拡張 スロット
9	パワー グッド LED #1
10	電 源 ロック #1
11	電源正常 LED #2
12	電 源 ロック #2
13	USB 2.0 ポート 1 ( 黒 )
14	USB 2.0 ポート 2 ( 黒 )
15	USB 3.0 ポート 3 ( 青 )
16	USB 3.0 ポート 4 ( 青 )
17	ネットワークデータI/O ポート 1 ( ネットワーク1 の場合は ETHO)
18	ネット ワーク データ I/O ポート 2 ( ネット ワーク 2 の場合 は ETH1)
19	VGA ポート

20	外部 ストレージ デバイスのポート
20	(テープドライブオプションの場合は SAS ポート)

#### 背面パネル 8300-8400

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番	
号	コントローフルインシケーチの名削
1	電源モジュール#1 ロック
2	電源 モジュール #1 パワー グッド LED
3	電 源 モジュール #1 AC ソケット
4	電源モジュール#1ファン
5	背面 SSD (オプション)
6	IPMI ポート( リモート 管 理)
7	外 部 SAS HBA ポート
8	ハーフ サイズ PCI 拡張スロット
9	内部 RAID コントローラ
10	フル サイズ PCI 拡張スロット
11	電源モジュール #2 ロック
12	電源 モジュール #2 パワー グッド LED
13	電源モジュール#2 AC コンセント
14	電源モジュール #2 ファン
15	сом ポート
16	USB ポート 1 ( 第 2 世代 )
17	USB ポート 2 ( 第 2 世代)
18	USB ポート 3 ( 第 3 世代 )
19	USB ポート 4 ( 第 3 世代)

48 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

20	ETH0 ( ネット ワーク 1)
21	ETH1 ( ネット ワーク 2)
22	VGA ポート ( モニタ)
23	UID LED

#### 背面パネル9012-9048

Arcserve アプライアンス の背 面 パネルには、アプライアンス用 の電 源、ケーブル接続、ポート が備 わっています。以下 の表 で、これらのアイテムについて説 明します。



番号	コントロール/インジ ケータ	アイコ ン	説明
1	シリアルポート	10101	システムにシリアルデバイスを接続する際にシ リアルポートを使用します。詳細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
2	iDRAC9 専 用 ネット ワー ク ポート		個別の管理ネットワーク上で埋め込み型 iDRAC に安全にアクセスするには、iDRAC9 専 用のネットワークポートを使用します。詳細に ついては、 <u>リンク</u> を参照してください。
3	Ethernet ポート( 2)	त्र <mark>य</mark> ेत	Ethernet ポートを使用して、システムをローカ ルエリアネットワーク( LAN) に接続します。 詳 細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
4	フル ハイト ライザース ロット		このカード スロットを使用して、フルハイト PCIe 拡張カードをフルハイト ライザーに取り付ま す。
5	電源装置( PSU)		PSU 設定の詳細については、 <u>リンク</u> を参照して ください。
6	電源装置 (PSU)		PSU 設定の詳細については、 <u>リンク</u> を参照して ください。
7	LOM ライザー ポート ( 2)	물	PSU 設定の詳細については、 <u>リンク</u> を参照して ください。
8	USB 3.0 ポート ( 2)	ss	USB 3.0 ポートを使用して、 システムに USB デ バイスを接続します。 USB 3.0 ポートは、4 ピン USB 3.0 に準拠しています。

9	VGA ポート	101	VGA ポートを使用して、システムにディスプレイ を接続します。 詳細については、 <u>リンク</u> を参照 してください。
10	CMA 電源ポート		ケーブル管理 Arm ( CMA) 電源ポートを使用 して、CMA に接続するすることができます。
11	システム識 別 ボタン	٢	以下の場合に、システム ID ボタンを押しま す。 ・ ラック内の特定のシステムを確認する 場合 ・ システム ID を有効または無効にする場合 iDRAC をリセットするには、ボタンを 15 秒 押し 続けます。 注: ・ システム ID を使用して iDRAC をリセット する場合、iDRAC のセットアップでシステム ID ボタンが有効になっていることを確 認します。 ・ 実行後の処理中にシステムの応答が 停止した場合、システム ID ボタン押し 続け(5 秒 以上)、BIOS プログレスモー ドに切り替えます。

#### 背面パネル 9072DR-9504DR

Arcserve アプライアンス の背 面 パネルには、アプライアンス用 の電 源、ケーブル接続、ポート が備 わっています。 以下 の表 で、これらのアイテムについて説 明します。



番号	コントロール/インジ ケータ	アイコン	説明
1	フルハイト PCIe 拡張 カード スロット(3)	N/A	PCIe 拡張カード スロット(ライザー1)を使用 して、最大3つのフルハイト PCIe 拡張カード をシステムに取り付けることができます。詳 細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
2	ハーフレングス PCIe 拡張カード スロット	N/A	PCle 拡張カード スロット(ライザー2)を使用 して、1つのハーフハイト PCle 拡張カードを システムに取り付けることができます。詳細 については、 <u>リンク</u> を参照してください。
3	背面ハンドル	N/A	背面ハンドルを取り外すと、PCIeカードの外 部ケーブルを PCIe 拡張カード スロット 6 に 取り付けることができます。
4	フルハイト PCIe 拡張 カード スロット(2)	N/A	PCle 拡張カード スロット(ライザー2)を使用 して、最大2つのフルハイト PCle 拡張カード をシステムに取り付けることができます。詳 細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
5	フルレングス PCIe 拡 張 カード スロット (2)	N/A	PCIe 拡張カード スロット(ライザー3)を使用 して、最大 2 つのフルハイト PCIe 拡張カード をシステムに取り付けることができます。詳 細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
6	電源装置(2)	N/A	詳細については、リンクを参照してください。
7	NIC ポート	<del>द्</del> वित	ネット ワークドーター カード(NDC) に統合さ れている NIC ポートを使用すると、ネット ワー クに接続することができます。 サポートされて

			いる構成の詳細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
8	USB ポート( 2)	SS-C-	USB ポートは、9ピンおよび 3.0 に準 拠して います。 USB ポートには、 USB デバイスを接 続できます。
9	VGA ポート		表示デバイスをシステムに接続できます。 詳細については、 <u>リンク</u> を参照してください。
10	シリアルポート	10101	シリアルデバイスをシステムに接続できま す。詳細については、 <u>リンク</u> を参照してくださ い。
11	iDRAC9 専用ポート	ze	iDRAC にリモート アクセスすることができま す。詳細については、 <u>リンク</u> を参照してくださ い。
12	システム識 別 ボタン	٢	システム識別(ID)ボタンは、システムの前 面と背面にあります。 ラック内のシステムを 識別するには、システム IDボタンを有効に してから、このボタンを押します。また、 iDRACをリセットして、BIOS モードで手順に 従う場合にも、システム ID ボタンを使用し ます。

#### 背面パネル X シリーズ

背面パネルの詳細については、「<u>X シリーズ アプライアンスの設置 - コンピュート</u> ノード」および「<u>X シリーズ アプライアンスの設置 - ストレージ ノード</u>」を参照してくだ さい。

### アプライアンスが使用するポート

以下のトピックでは、Arcserve UDP、Arcserve Backup、Linux 用アプライアンスのサポートで使用されるポートに関する情報を紹介します。

- Arcserve UDP
- Arcserve Backup
- Linux 用アプライアンスのサポート

#### **Arcserve UDP**

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント
- Linux にインストールされているコンポーネント
- <u>リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノード</u>

# Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポー ト #	ポートの種類	起動 元	受信待機プロセス	説明
1433	тср	IJ <del>Ţ</del> —ト Java	sqlsrvr.exe	Arcsアスコに場間ルポ定 注ルポ Sをトとでserve Juc Sアスコに場間ルポ定 注ルールイーききコル sorveユモ、デのトま デ通ト Sンルにまいと ft srve すそフ通をす フ信は rve る更。
4090	тср	Arcserv- e UDP エージェ ント	HATransServer.exe	プロキシ モードで仮 想 スタンバ イタスクの データを転 送します。
5000- 5060	тср	Arcserv- e UDP サーバ	GDDServer.exe	Arcserve UDP RPS グ

				ローバル.デ
				ユ
				) エンウ/ ション デー
				ノコノノ
				ラ ヘド ノ サ ニ ビ フ
				(GDD) 用 (-マ 約 ナね)
				にア約され
				Cいま9。1
				- (UC <sup>-</sup>
				Arcserve
				テータスト
				アは、5000
				以降の3
				つの空き
				ポートを使
				用します。
				GDD データ
				ストアに対
				するバック
				アップが有
				効化されて
				いる場合、
				またはリス
				トアタスク
				を使用して
				いる場合に
				はこれが必
				要です。
				Arcserve
				UDPコン
				ソールと
				Arcserve
		Arcserv-		Backup グ
6052	тср	e	CA.ARCserve.CommunicationFoundation.	ローバル
0052	ICF	Backup	WindowsService.exe	ダッシュボー
		GDB		ド プライマリ
				サーバで
				データを同
				期するため
				の通信。
				Arcserve
		Arcserv-	- CA.ARCserve.CommunicationFoundation.WindowsService.	UDPコン
6054	ТСР	e	exe	ソールと
		Backup		Arcserve
1				1

56 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

	1			,
				Backupプ
				ライマリ
				サーバで
				データを同
				期するため
				の通信。
				Arcserve
				UDPコン
				ソールこ
8006				よって使用
8000				される
				Tomcat を
				シャットダウ
				ンします。
				リモート管
				理コンソー
				ルと
				Arcserve
				UDP サーバ
				の間のデ
				フォルトの
				HTTP/HTTP-
				S 通信ポー
				トを指定し
				ます。
				リモート管
				理コンソー
				ルと
		Arcserv-		Arcserve
8014	тср		Tomcat7.exe	UDP I—
				ジェントの
				間のデフォ
				ルトの
				НТТР/НТТР-
				S 通信ポー
				トを指定し
				ます。
				注: デフォ
				ルトの通信
				ポートは、
				Arcserve
				UDPコン
				ポーネント
				をインス
				トールする

				ときに変更
				できます。
				Arcserve
				UDP サーバ
				とArcserve
				UDPコン
				ソールの間
				のデフォル
				トの
				HTTP/HTTP-
				S 通信ポー
				トを指定し
				ます。
				*デフォルト
				の共有
				ポートであ
				り、
				Arcserve
				UDP サーバ
				をレプリ
				ケーション
				デスティ
		Arcserv-		ネーションと
8014	тср	e UDP	httpd.exe	して使用す
		サーバ		る場合に
				開く必要の
				ある唯一
				のホートを
				拍 正 しま
				5000 ~~ 5060 (+ ガ
				ローバルデ
				ゴ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
				) エン ) / ションが右
				効化されて
				いるときに
				データスト
				アによって
				使用される
				ため開かな
				いでくださ
				い。
				注: デフォ
				ルトの通信

				ポートは、
				Arcserve
				UDP コン
				ポーネント
				をインス
				トールする
				ときに変更
				できます。
				リモート管
				理コンソー
				ルと
				Arcserve
				UDP サーバ
				の間のデ
				フォルトの
				НТТР/НТТР-
				S 通信ポー
				トを指定し
				ます。
				リモート管
				理コンソー
				ルと
				Arcserve
		Arcserv-		UDP I
8015	тср	e UDP	Tomcat7.exe	ジェントの
		コンソー		間のデフォ
		٦L		ルトの
				НТТР/НТТР-
				s 通信ポー
				トを指定し
				ます。
				注: デフォ
				ルトの通信
				ポートは、
				Arcserve
				UDPコン
				ポーネント
				をインス
				トールする
				ときに変更
				できます。
		Arcserv-		同じサーバ
8016	ТСР	e UDP	l Tomcat7.exe	上の
		サーバ		Arcserve
		· · ·		

			1
			UDP RPS
			ポート共有
			サービスと
			通信する
			Arcserve
			UDP サーバ
			Web サービ
			ス用に予
			約済みで
			す。
			注:ポート
			はカスタマ
			イズできま
			せん。ファイ
			アウォール
			設定では
			無視できま
			す。
			Arcserve
			UDP サーバ
			またはエー
1000		CA ARCserve CommunicationFoundation	ジェントに
1000-			よって使用
5		Ivvindowsservice.exe	される
			Tomcat を
		シャットダウ	
			ンします。
# Linux にインストールされているコンポーネント

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポ <del>ー</del> ト #	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22	ТСР	SSH サー ビス		Arcserve UDP Linux サード パーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指 定しますが、このポートは 変更できます。このポー トは受信および送信通 信の両方に必要です。
67	UDP	Arcserve UDP Linux	bootpd	PXE ブート サーバで使用 されます。PXE ブート機能 の使用を必要としている 場合のみ必須です。この ポートは受信通信に必 要です。 <b>注:</b> ポート番号はカスタ マイズできません。
69	UDP	Arcserve UDP Linux	tffpd	PXE ブート サーバで使用 されます。PXE ブート機能 の使用を必要としている 場合のみ必須です。この ポートは受信通信に必 要です。 注:ポート番号はカスタ マイズできません。
8014	ТСР	Arcserve UDP Linux	Java	リモート コンソールとLinux 用 Arcserve UDP エージェ ントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポート を指定します。このポート は受信および送信通信 の両方に必要です。
18005	ТСР	Arcserve UDP Linux	Java	Tomcat で使用され、ファ イアウォールを不許可に 設定できます。

## リモートで UDP Linux により保護されているノード

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポ— ト #	ポート の種 類	起動元	受信 待機ブ ロセス	説明
22		SSH サー ビス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデ フォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポー トは受信および送信通信の両方に必要です。

\* ポート共有はレプリケーションジョブのためにサポートされています。異なるポート上のデー タはすべてポート 8014 (Arcserve UDP サーバ用のデフォルトポート。インストール時に変更 可能)に転送できます。WAN 上にある2つの復旧サーバポイント間でレプリケーションジョ ブを実行する時には、ポート 8014 のみが開いている必要があります。

同様に、リモートレプリケーションの場合、リモート管理者はポート8014(データレプリケーション用)とポート8015(Arcserve UDPコンソール用のデフォルトポート。インストール時に変更可能)を開くか転送して、割り当てられたレプリケーションプランをローカル復旧ポイントサーバが取得できるようにする必要があります。

### **Arcserve Backup**

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポー	ポート	+7 == -		
ト#	の種類	起動元	受信符機ノロセス	詋 坍
125	тер			Microsoft ポー
132				トマッパー
445	тср		名前付きパイプ上のMSRPC	
COE O	TCP/UD-	<b>CASUniversalAgen</b>	Universant eve	Arcserve
0050	Р	t	Univagent.exe	Universal Agent
		Arcserve	CA.ARCserve.CommunicationFoundatio-	Arcserve
6502	ТСР	Communication	n.	Communicatio-
		Foundation	WindowsService.exe	n Foundation
6502	тср	CASTanoEngino	Tanang aya	Arcserve Tape
0502	ICP	CASTapeEligille	lapeng.exe	Engine
6502	тср	CASIohEngino	Laborgina ava	Arcserve Job
0505	ICP	CASJODEIIgille	Jobengine.exe	Engine
				Arcserve
6504	тср	CASDBEngine	DBEng.exe	Database
				Engine
7051	тер	CAC a antra a a a a	Catirac ava	Arcserve
7854	ICP	CASportinapper		PortMapper
4150				Arcserve
4152-	тср	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Discovery
5				Service
1152				Arcserve
415Z-	UDP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Discovery
4				Service
9000-	тср		動的ポートを使用する他のArcserve	
9500			MS RPC サービス用	

# Linux 用アプライアンスのサポート

LAN環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート #	ポー トの 種類	起動元	受信 待機 プロセ ス	説明
8017	тср			NAT ポート リダイレクション。 他の Linux ノードを Amazon S3 にバックアップするため、 アプライアンス上の 8017 を Linux バッ クアップ サーバにリダイレクトします。
8018	тср			NAT ポート リダイレクション。 アプライアンス上 の 8018 を Linux バックアップ サーバ エージェント のポート 8014 にリダイレクトし ます。
8019	тср			NAT ポート リダイレクション。 アプライアンス上 の 8019 を Linux バックアップ サーバの SSH ポート 22 にリダイレクトします。
8021	тср			NAT ポート リダイレクション。 8021 ポートを使 用して他の Linux ノードをバックアップするため、 アプライアンス上の 8021 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
8035	тср			NAT ポート リダイレクション。 アプライアンス上の 8035 を Linux バックアップ サーバのポート 8016 にリダイレクトします。
50000	тср			NAT ポート リダイレクション。 50000 ポートを使 用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、 アプライアンス 上の 50000 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50001	тср			NAT ポート リダイレクション。 50001 ポートを使 用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、 アプライアンス 上の 50001 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50002	тср			NAT ポート リダイレクション。 50002 ポートを使 用して他 の Linux ノードをクラウド にバックアップするため、 アプライアンス 上 の 50002 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50003	тср			NAT ポート リダイレクション。 50003 ポートを使用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、 アプライアンス 上の 50003 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。
50004	тср			NAT ポート リダイレクション。 50004 ポートを使 用して他の Linux ノードをクラウドにバックアップするため、 アプライアンス 上の 50004 を Linux バックアップ サーバにリダイレクトします。

# CentOS 6.6 x64 ファイアウォールにポートを追加する方法

Arcserve アプライアンス にプレインストールされた Linux バックアップ サーバ v6.5 Update 2 をアップグレード する場合、アップグレード後に CentOS 6.6 x64 ファイア ウォールを備えたいくつかのポートを手動で Linux に追加する必要があります。

### 以下の手順に従います。

- 1. 以下のパスに移動します。
- vi /etc/sysconfig/iptables
- 2. 以下に太字で記載されている行が *iptables* ファイルにない場合には、手動で追加します。
  - # Firewall configuration written by system-config-firewall
  - # Manual customization of this file is not recommended.

\*filter

:INPUT ACCEPT [0:0]

:FORWARD ACCEPT [0:0]

:OUTPUT ACCEPT [0:0]

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 22 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 67 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 69 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8014 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8016 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8017 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8021 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8035 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 8036 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50000 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50001 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50002 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50003 -j ACCEPT

-A INPUT -p tcp -m tcp --dport 50004 -j ACCEPT

- -A INPUT -m state --state ESTABLISHED, RELATED -j ACCEPT
- -A INPUT -p icmp -j ACCEPT
- -A INPUT -i lo -j ACCEPT
- -A INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 22 -j ACCEPT
- -A INPUT -j REJECT --reject-with icmp-host-prohibited
- -A FORWARD -j REJECT --reject-with icmp-host-prohibited

COMMIT

- 3. iptables ファイルを保存します。
- 以下のコマンドを使用して、iptables サービスを再起動します。
   /etc/init.d/iptables restart

CentOS 6.6 x64 ファイアウォールに正常にポートが追加されました。

# 第3章: Arcserve アプライアンス のインストール

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve Backup 18.0 をインストールする方法	
9012-9048 シリーズ アプライアンスの設置方法	
9072-9504DR シリーズ アプライアンスの設置方法	71
x シリーズ アプライアンスの設置方法	71

### Arcserve Backup 18.0 をインストールする方法

Arcserve Backup 18.0 は、アプライアンスに事前インストールされていません。デスクトップ上にある "InstallASBU.bat" というスクリプトを使用して Arcserve Backup 18.0 をインストールできます。

### 以下の手順に従います。

1. デスクトップから、InstallASBU.batを選択して起動します。

**注**:英語以外のWindows システムから.bat ファイルを起動している場合、 以下の画面が表示されます。Arcserve Backup 18.0 をインストールする言語 を選択するか、それ以外の場合は手順2に進みます。



2. 管理者パスワードを入力し、Arcserve Backup 18.0 のインストールを開始しま す。



68 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

インストールが完了したら、Arcserve Backup のアイコンがデスクトップに追加されます。以下の認証情報で Arcserve Backup にログインできます。

- ユーザ名 = caroot
- パスワード = Arcserve

## 8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>8100-8200 のアプライアンスの設置</u>」を参照して ください。

## 8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>8300-8400 のアプライアンスの設置</u>」を参照して ください。

### 9012-9048 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>9012-9048 のアプライアンスの設置</u>」を参照して ください。

### 9072-9504DR シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>9072-9504DR のアプライアンスの設置</u>」を参照 してください。

## x シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「<u>X シリーズ アプライアンスの設置 - コンピュート</u> ノード」および「<u>X シリーズ アプライアンスの設置 - ストレージ ノード</u>」を参照してくだ さい。

# 第4章:アプライアンス上のArcserve UDPのアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法	73
Arcserve アプライアンス でのアップグレード シーケンス	74
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	.80

## Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを 適用する方法

Arcserve UDP を 8.0 にアップグレードした後、または Arcserve Backup を 18.0 にアッ プグレードした後は、Arcserve アプライアンス アプライアンス上 の元 のライセンス キー は機能しません。Arcserve UDP 8.0 および Arcserve Backup 18.0 用の新しいライセ ンス キーを取得するには、営業担当者までお問い合わせください。

Arcserve UDP にライセンスキーを追加する方法の詳細については、「<u>Arcserve 製</u> <u>品ライセンスオンライン ヘルプ</u>」を参照してください

## Arcserve アプライアンス でのアップグレード シーケンス

Arcserve アプライアンス アプライアンス 5.0 から Arcserve UDP v8.0 へのアップグレード では、以下のいずれかのシーケンスを伴う場合があります。

- Arcserve UDP のアップグレード
  - Arcserve アプライアンスを Arcserve コンソールおよび RPS として使用する場合のアップグレード
  - Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP RPS として使用する場合のアップグ <u>レード

    </u>
- Arcserve アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード
- Arcserve アプライアンス上の Arcserve Backup のアップグレード
- <u>UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス</u>

# Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP コンソールおよび RPS として使用した場合のアップグレード

Arcserve アプライアンスをアップグレードした後、「<u>アップグレード シーケンス</u>」に説明 されている手順に従って環境をアップグレードします。

# Arcserve アプライアンスを Arcserve UDP RPS として使用した場合のアップグレード

実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「<u>アップグレード シー</u> ケンス」を参照してください。

## 複数のArcserve アプライアンスが環境で使用されて いる場合のアップグレード手順

- 実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「<u>アップグレード</u> <u>シーケンス</u>」を参照してください。
- アップグレード後、Arcserve UDP コンソールからアプライアンスを RPS として追加 するときに以下のような警告が表示される場合は、「トラブルシューティング」の 「別のアプライアンスから Arcserve アプライアンスをバックアップすると重複ノード が報告される」トピックを参照してください。



## Arcserve アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エー ジェントのアップグレード

以下の手順に従います。

- 1. Linux バックアップ サーバ環境を管理する Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
- 2. Arcserve アプライアンス上のLinux バックアップサーバをアップグレードします。

詳細については、「<u>Arcserve Unified Data Protection Agent: for Linux オンライン ヘル</u> <u>プ</u>」を参照してください。

## Arcserve アプライアンス に搭載された Arcserve Backup のアップグレード

Arcserve アプライアンスでアップグレードを実行するには、「<u>Arcserve Backup 実装</u> <u>ガイド</u>」を参照してください。

## UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス

後方互換性サポートポリシーに基づいて、以下の順序でアップグレードを計画 し、アップグレードが円滑に行われるようにします。

- 1. Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
- 2. Arcserve UDP RPS (DR サイト)をアップグレードします。
- 3. Arcserve UDP RPS (データセンター)をアップグレードします。
- Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、データ センター内 の一 部 エージェントをアップグレードします。
- 5. Arcserve UDP RPS (リモート サイト) をアップグレードします。
- Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、リモート サイトの一 部 エージェントを アップグレードします。

注: リモート サイトごとに、手順 5と6を繰り返します。

7. Arcserve UDP 仮想スタンバイモニタをアップグレードします。

**注**: レプリケーションの後方互換性サポートポリシーに従って、常にソース RPS の前にターゲット RPS をアップグレードしてください。

# 第5章: Arcserve アプライアンスの設定

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve アプライアンス向けのネットワーク設定を構成する方法	. 82
Arcserve アプライアンスを設定する方法	86
Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定する方法	95

# Arcserve アプライアンス向けのネットワーク設定を構成する方法

Arcserve アプライアンスを管理するには、まずアプライアンスをネットワーク内に含めます。そのためには、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワークポートを設定する必要があります。

### 以下の手順に従います。

1. アプライアンスの電源をオンにした後、Microsoft ライセンス条項に対する設 定画面が表示されます。条件を確認して、同意します。

UDP の エンド ユーザ使用許諾契約]ダイアログボックスが表示されます。

2. 使用許諾契約の内容を確認して同意し、 次へ]をクリックします。

[Arcserve アプライアンス環境設定ツールへようこそ] 画面が表示されます。

3. 以下の詳細を入力します。

ホスト名

アプライアンスのホスト名を入力します。名前を割り当てると、ネットワーク 上でアプライアンスを識別するのに役立ちます。

この Arcserve アプライアンス をドメインに追加します。

アプライアンスをネットワーク内のドメイン メンバにするには、チェックボックス をオンにします。このオプションを選択すると表示される『メイン』、「ユーザ 名」、および [パスワード]フィールドに値を指定します。

Arcserve® へよつこそ。 アフライアンス構成ツール
このツールを使用すると、Arcserve アブライアンスを LAN に接続し、Web ベースのコンソール UI で 詳細な設定を実行できます。
アブライアンスにホスト名を割り当てます。これはローカル ネットワーク上のアブライアンスを識別する のに使用されます。必要に応じて、アプライアンスをドメインに追加できます。
新しいホスト名を有効にするには、再起動する必要があります。アブライアンスを再起動する 前に、設定画面で他の設定を設定できます。
ホスト名 appliance x
この Arcserve アブライアンスをドメインに追加します。
保存

**注**:新しいホスト名を適用するには、アプライアンスを再起動する必要があり ます。アプライアンスを今すぐ再起動するか、またはネットワーク設定後に再起 動するかを選択できます。アプライアンスを再起動すると、他の任意のマシンか ら URL - https://<hostname>:8015 を使用して、アプライアンスにアクセスすること ができます。

4. 保存]をクリックします。

以下のダイアログボックスが表示されます。デフォルトでは、Arcserve UDP は ネットワーク内のすべてのネットワーク接続を検出します。一部の接続が割り 当てられていない場合は、手動で編集し、接続の詳細を指定します。

arcserve	アプライアンス構成	0	アプライアンスについて
1 ホスト名とドメイン設定を有効	かこするには、Arcserve アブライアンス <sup>3</sup>	を再起動する必要があります。	
アブライアンスの再起動			
ホスト名/ ドメイン	appliance (未割り当て)	編集	
UDP コンソール URL	https://appliance:8015		
日付と時刻	2019/02/12 12:08:15	編集	
ネットワーク接続			
接続名	IP アドレス	説明	
SLOT 2 ポート 2 ● 接続済み	10.57.25.17 DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter	編集
SLOT 2 ポート 1 〇 未接続	<b>割り当てなし</b> DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2	編集
NIC2 〇 未授続	<b>割り当てなし</b> DHCPを介した自動	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	編集
NIC1 ② 接続済み	<b>10.57.25.14</b> DHCP を介した自動	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2	編集

5. ネットワーク接続を編集するには、 **ネットワーク接続**]ボックスで **編集**]をクリックします。

[**ネットワーク接続**]ダイアログボックスが表示されます。

ステータス	● 接続済み				
説明	Intel(R) Ethernet 10G 2P X5	50-t Adapter			
接続	✓ DHCPを使用して IP 7	ドレスを自動的に取得します。			
	IP アドレス	10 . 57 . 25 . 17			
	サブネット マスク	255 . 255 . 255 . 0			
	デフォルト ゲートウェイ	10 . 57 . 25 . 1			
	✓ DNS サーバ アドレスを	自動的に取得します。			
	優先 DNS サーバ	10 . 57 . 1 . 11			
	代替 DNS サーバ	10.64.1.11			
		保存 キャンt	セル		

IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの値を必要に応じて変更し、 保存 ]をクリックします。

**注**:必要に応じて、ホスト名、ドメイン、日付と時刻を変更することもできます。

**重要:** コマンド プロンプトで acrun.bat などのスクリプトが実行されているかどう かを確認します。再起動を行う前に、このスクリプトが完了するまで必ず待機 してください。

7. 変更を適用するには、 アプライアンスの再起動 ]をクリックしてアプライアンス を再起動します。

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されます。 再起動すると、 [ログイン] 画面が表示されます。

8. ユーザ名とパスワードを入力して、Enter キーを押します。

[Arcserve アプライアンス環境設定] 画面が表示されます。

アプライアンスの環境設定画面が再度開いたら、 [ウィザードの起動]をクリックします。

よ         OTCSECTVE         アプライアンス構成         ● プライアンス構成           ● ロッイッードの起動をクリックして、Arcserve UDP ブラン環境設定ウィザードを使用してアブライアンスの環境設定を扱うします。	erve 775177X				U
ア・ゲードの起動をクリックして、Arcserve UDP ブラン環境設定ウィザードを使用してアブライアンスの環境設定を扱うします。         クィガードの起動         ホスト名/ ドメイン       appliance (末宮り当て)         UDP コンソール URL       https://appliance:8015         日付と時刻       2019/02/12 12:16:48         2019/02/12 12:16:48       編集         ネットワーク投続       4         基約名       IP アドレス       説明         SLOT 2 ボート 2       10.57.25.17 DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-4 Adapter       編集         SLOT 2 ボート 1       討り当てなし DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-4 Adapter #2       編集         NIC2       討り当てなし DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集         NIC1       0.57.25.14 DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集	arcserve	アプライアンス構成	<b>3</b> 7	グライアンスに	507
ホスト名/ ドメイン       appliance (未割り当て)         UDP コンソール URL       https://appliance:8015         日付と時刻       2019/02/12 12:16:48         2019/02/12 12:16:48       編集         オットワーク投続       メットワーク投続         SLOT 2 ボート 2 受援総済み       10.57.25.17 DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter       編集         SLOT 2 ボート 1 の 未接続       割り当てなし DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter #2       編集         NIC2 の 未接続       割り当てなし DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集         NIC1 の 振振病み       10.57.25.14 DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集	<ul> <li>[ウィザードの起動]をクリック</li> <li>ウィザードの起動</li> </ul>	して、Arcserve UDP ブラン環境設定ウ	ィザードを使用してアブライアンスの環境設定を読	行します。	
UDP コンソール URL         https://appliance:8015           日付と時刻         2019/02/12 12:16:48         編集           ネットワーク技狭         編集           接続名         IP アドレス         説明           SLOT 2 ボート 2         10.57.25.17 DHCP を介した自動         Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter         編集           SLOT 2 ボート 1         ガリ当てなし DHCP を介した自動         Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter #2         編集           NIC2         オー検統         DHCP を介した自動         Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter #2         編集           NIC2         オー検統         DHCP を介した自動         Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter #2         編集           NIC2         オー検統         DHCP を介した自動         Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet         編集           NIC1         0.HCP を介した自動         Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2         編集	ホスト名/ ドメイン	appliance (未割り当て)			
日付と時刻       2019/02/12 12:16:48       編集         ネットワーク接続       説明       編集         接続名       IP アドレス       説明       「         SLOT 2 ポート 2       10.57.25.17 DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter       編集         SLOT 2 ポート 1       討り当てなし DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter #2       編集         NIC2       討り当てなし DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet       編集         NIC1       10.57.25.14 DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集	UDP コンソール URL	https://appliance:8015			
ネットワーク投続接続名IP アドレス説明SLOT2 ボート 210.57.25.17 DHCP を介した自動Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter編集SLOT2 ボート 1割り当てなし DHCP を介した自動Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-1 Adapter #2編集NIC2割り当てなし DHCP を介した自動Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet編集NIC2う未接続DHCP を介した自動Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2編集NIC10.57.25.14 DHCP を介した自動Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2編集	日付と時刻	2019/02/12 12:16:48	編集		
接続名         IP 7F レス         説明           SLOT2 ボート 2 <ul> <li>             せ続流みみ</li> <li>             10.57.25.17 DHCP を介した自動</li> <li>             Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter</li> <li>             第4集</li> </ul> <ul> <li>             Fild (R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter</li> <li>             第4集</li> </ul> <ul> <li>             thel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2</li> <li>             #4集</li> </ul> <ul> <li>             thel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2</li> <li>             #4集</li> </ul> <ul> <li>             thel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2</li> <li>             #4集</li> </ul> <ul> <li>             thel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2</li> <li>             #4集</li> </ul> <ul>             htel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2 <li>             #4集</li> <li>             thel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2</li> <li>             thel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2</li> </ul> NIC2 <ul>             therp Explorition 10, 10, 10, 10, 10, 10, 10, 10, 10, 10,</ul>	ネットワーク接続				
SLOT 2 ボート 2       10.57.25.17       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter       編集         SLOT 2 ボート 1       割り当てなし DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2       編集         NIC2       割り当てなし DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet       編集         NIC1       10.57.25.14 DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集	接統名	IPアドレス	1920A		
SLOT 2 ボート 1 の未接続       許J当てなし DHCP を介した自動       Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2       編集         NIC2 の未接続       許J当てなし DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet       編集         NIC1 の接続済み       10.57.25.14 DHCP を介した自動       Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2       編集	SLOT 2 ポート 2 ● 授読済み	10.57.25.17 DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter	編	l.
NIC2 ● 未接続 DHCP を介した自動 Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet 編集 NIC1 ● 接続済み DHCP を介した自動 Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2 編集	SLOT 2 ボート 1 〇 未接続	<b>割り当てなし</b> DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2	163 163	k.
NIC1 10.57.25.14 ● 接続済み DHCP を介した自動 Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2 編集	NIC2 〇 未接続	<b>割り当てなし</b> DHCP を介した自動	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	<b>36</b> 3	ŧ.
	NIC1 ② 接続済み	10.57.25.14 DHCP を介した自動	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2	編	ŧ.

## Arcserve アプライアンスを設定する方法

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されると、Unified Data Protection ウィ ザードが表示されます。ウィザードを使用して、バックアップをスケジュールするため の基本プランを作成できます。このプランでは、保護するノードを定義し、バック アップを実行するタイミングをスケジュールできます。バックアップ先は、アプライアン スサーバです。

**注**: アプライアンスがドメインで設定されている場合、ドメイン ユーザはアプライアン スウィザードを設定できないため、管理者ログインを使用してアプライアンスウィ ザードの設定を完了します。

Arcserve アプライアンス 設 定 ウィザード のすべての手 順 はオプションです。 **キャンセ** ル]をクリックしてスキップし、直 接 UDP コンソールを開いてプランを作 成 することもで きます。

### 以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールにログインします。

Unified Data Protection ウィザードが最初に開き、 Arcserve アプライアンス 管理]ダイアログボックスが表示されます。UDP コンソールは、スタンドアロンのイン スタンスとして管理できます。または別のUDP コンソールからリモートで管理できます。 リモート コンソール管理機能は、複数のUDP コンソールを管理している場合に便利です。



- アプライアンスをローカルで管理するか(デフォルト)、別のUDPコンソールから 管理するかを選択します。アプライアンスが別のUDPコンソールから管理さ れている場合、UDPコンソールのURL、ユーザ名、パスワードを指定します。
- 3. 次へ]をクリックします。

**データストア**]ダイアログボックスが表示されます。データストアは、アプライアンス上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用されます。

デフォルトでは、Arcserve UDP は <hostname>\_data\_store という名前でデータ ストアを作成します。このデータストアは、デデュプリケーションおよび暗号化に 対応しています。デデュプリケーションおよび暗号化の詳細については、 「Arcserve UDP ソリューションガイド」の「<u>データデデュプリケーション</u>」を参照して ください。

**注**: データストアは暗号化されるため、暗号化パスワードを指定する必要があります。

<b>OITCSET</b> データストア データストア設定は以て	<b>OICSEIVE</b> 。 アプライアンス構成 データ ストア データ ストア設定は以下のとおりです。Arcserve UDP エンソール からデータ ストアを追加できます。						
appliance_data_sto	re 圧縮 デデュプリケーション 暗号化 パスワード パスワードの確認	標準 有効 有効					
ステップ 2 / 9			前に戻る		キャンセル		

4. このデータストアに対する暗号化パスワードを入力し、確認します。

5. 次へ]をクリックします。

**電子メールとアラート**]ダイアログボックスが表示されます。アラートを送信するために使用される電子メールサーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。成功したジョブ、失敗したジョブ、またはその両方に基づいてアラートを取得するオプションを選択できます。

arcserve	アプライアンス構成			
電子メールとアラート				
電子メール通知の設定と受信する	るアラート通知の種類の設定を行いま	<b></b>		
■電子メール通知を有効化し	/#9.			
サービス	रतमे	Ŧ		^
電子メールサーバ				
ポート	25			
■電子メール サービスには	認証が必要です。			
件名	Arcserve United Data Protection 75	= þ		
差出人				
受信者	複数の電子メールアドレスはセションで	区切块す		
オプション(0)	■ SSL を使用			
	STARITLS の通信 ■ HTML 形式发使用			
■ プロキシ サーノ 佐使用し	て接続する			
	力中分起定			~
2510070. 163W				
ステップ 3 / 9		前に戻る	<u>ж</u> л	**>201

6. 以下の電子メールとアラートの詳細を指定します。

サービス

Google メール、Yahoo メール、Live メール、などの電子メール サービスを指定します。

電子メールサーバ

電子メールサーバのアドレスを指定します。たとえば、Google サーバ 電子メールの場合は smtp.gmail.com を指定します。

ポート

電子メールサーバのポート番号を指定します。

### 認証が必要

電子メールサーバに認証が必要かどうかを指定します。認証が必要な場合は、認証用のアカウント名とパスワードを指定します。

### 件名

受信者に送信される電子メールの件名を指定します。

#### 送信者

送信者の電子メールIDを指定します。受信者はこの送信者から メールを受信します。

### 受信者

アラートを受信する受信者を指定します。複数の受信者がいる場合 はセミコロン(;)で区切ることができます。

オプション

通信チャネルに使用する暗号化方式を指定します。

#### プロキシ サーバを使用して接続する

プロキシ サーバ経由で電子メール サーバに接続している場合は、プロ キシ サーバのユーザ名とポート番号を指定します。また、プロキシ サー バで認証 が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを指定します。

### テスト電子メールを送信

テスト メールを受信者に送信します。 テスト メールを送信することに よって、詳細を確認できます。

7. 次へ]をクリックします。

8. **リモート RPS にレプリケート**]ダイアログ ボックスが表示されます。

<b>Grcserve</b> <sup>®</sup> アプライアンス構成			
リモート RPS へのレプリケーション			
リモートで管理されている復旧ポイント サーバヘレプリケートする場合は、	以下の設定を行います		
●このアプライアンスはリモートで管理されている RPS ヘレプリケートし	ます。		
Arcserve UDP コンソール URL			
ユーザ名			
パスワード			
■ブロキシ サーバを使用して接続します。			
●このアプライアンスはリモートで管理されている RPS ヘレプリケートし	ません。		
ステップ 4 / 9	前に戻る	次へ	キャンセル

 アプライアンスで、リモートで管理された復旧ポイントサーバ(RPS) にレプリケートするようにするには、以下の詳細を指定します。リモートで管理された RPSの詳細については、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

#### Arcserve UDP コンソールの URL

リモートの Arcserve UDP コンソールの URL を指定します。

### ユーザ名およびパスワード

リモート コンソールに接続 するために使用されるユーザ名 とパスワード を指定します。

### プロキシサーバを使用して接続する

リモート コンソールがプロキシ サーバの背後 にある場合は、プロキシ サーバの詳細を指定します。

- 10. アプライアンスで、リモートで管理された RPS にレプリケートしないようにするに は、 **このアプライアンスはリモートで管理された RPS にレプリケートしません**〕 オプションを選択します。
- 11. 次へ]をクリックします。

**プランの作成**]ダイアログボックスが表示されます。基本プランを作成し、保護するノードおよびバックアップのスケジュールを指定できます。

arcserve	アプライアンス構成		
プランの作成			③プランの作成について
次に、データの保護プランを作成す プランを作成できます。	る必要があります。保護ブランでは、ノードを追加し、パックア	ップ スケジュールを設定	Eします。複数の保護
プラン作成をスキップ	<b>k</b>		
ブラン名	(保護ブラン 1		
セッション パスワード			
バスワードの確認			
🕛 セッション バスワードを保持	します。データをリストアする際に必要です。		
ノードをプランにどのように追加	しますか?		
	木スト名/IP アドレス (Windows マジンのみ)	*	
ステップ 5 / 9	前に戻る	次へ	キャンセル

**注**: ウィザードを使用して基本プランを作成しない場合は、以下の手順を実行します。

a. **プラン作成をスキップ**]をクリックします。

**次の手順**]ダイアログボックスが表示されます。

- b. **院了**]をクリックし、UDP コンソールを開いてプランを作成します。
- 12. プランを作成するために以下の詳細を指定します。

### プラン名

プランの名前を指定します。プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。

### セッション パスワード

セッション パスワードを指定します。 セッション パスワードは、 データのリストア時に必要となるため重要です。

### ノードをプランにどのように追加しますか?

ノードをプランに追加する方法を指定します。以下の方法から1つを 選択します。

◆ <u>ホスト名/IP アドレス</u>

ノードのホスト名または IP アドレスを使用してノードを手動で追加 する方法を示します。必要な数だけノードを追加できます。 Active Directory からのノードのディスカバリ

Active Directory内にあるノードを追加する方法を示します。Active Directoryの詳細情報を使用してノードを検出してから、ノードを追加できます。

vCenter/ESX Server からインポート

ESX または vCenter Server から仮想マシンノードをインポートする方法を示します。このオプションでは、指定されたホスト名または IP アドレス上で検出されたすべての仮想マシンがリスト表示されます。

◆ <u>Hyper-V Server からインポート</u>

Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートする方法を示します。

方法を選択したら、各ダイアログボックスで詳細を指定します。

13. ノードがプランに追加されたら、 次へ]をクリックします。

<b>GICSEIVE</b> <sup>®</sup> アプライアンス構成
バックアップ スケジュール
プランのバックアップスケジュールの基準を入力します。
インストール/アップグレードおよび再起 動のタイミング * 21 * 00 *
日次増分パックアップの実行: 22 - 00 -
⑦ スケジュール サマリ (選択内容に基づく)
全曜日 の 21:00 に、Arcserve UDP エージェント の最新バージョンがまだインストールされていないすべてのソース ノードに最新 バージョンがインストールされます。 Hyper-v または vCenter/ESX からインボートされたノードには、エージェントはインストールされません。
金曜日 の 22:00 に、最初のフル バックアップが実行されます。 インストール/アップグレードが完了した後は、毎日 22:00 に増分バックアップが実行されます。
プランの作成のキャンセル
ステップ 7 / 9 前に戻る 次へ キャンセル

[バックアップスケジュール]ダイアログボックスが表示されます。

- 14. 以下のスケジュールを入力します。
  - Arcserve UDP エージェントのインストールまたはアップグレードのスケジュール: エージェントがインストールされていないソースノードに、
     Arcserve UDP エージェントの最新バージョンがインストールされます。以前のエージェントのインストールは、最新のバージョンにアップグレードされます。

増分バックアップスケジュール:初めての場合はフルバックアップが実行され、その後は増分バックアップが実行されます。

**注**: インストール/アップグレードの時刻より前にバックアップの時刻がス ケジュールされている場合、バックアップは自動的に次の日にスケ ジュールされます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の午 後9時にスケジュールし、バックアップを午後8時にスケジュールした 場合、バックアップは土曜日の午後8時に実行されます。

- プランの作成をキャンセル: 作成したプランをキャンセルするには、プランの作成をキャンセル]をクリックします。
- 15. 次へ]をクリックします。

[**プランの確認**]ダイアログボックスが開きます。

<b>OICSEIVE</b> <sup>®</sup> アプライ プランの確認	アンス構成		
これは、作成したプランの確認です。プランを編 保護プラン 1 ④ プランの追加	編集するか、または新しいプランを作成できます。 <b>プラン名</b> 保護ノード デスティネーション インストール/アップグレード バックアップ スケジュール ノードの編集 スケジュールの編集	<b>保護プラン1</b> 1 app7600 金曜日, 21:00 日単位増分, 22:00	
ステップ 8 / 9	前に戻る	冻へ	キャンセル

16. ダイアログ ボックスで、プランの詳 細を確 認します。必要に応じて、 レードの 編集]または 「スケジュールの編集]をクリックしてノードまたはスケジュールを 編集 するか、プランを追加または削除できます。

ノードの編集

保護するソースノードを変更します。

### スケジュールの編集

バックアップスケジュールを変更します。

17. プランを検証したら、 次へ]をクリックします。

**次の手順**]ダイアログボックスが表示されます。

環境設定が正常に終了し、Arcserve UDP コンソールで作業する準備が整いました。保護するノードをさらに追加し、仮想スタンバイなどの機能でプランを

### カスタマイズし、復旧ポイントサーバおよびデータストアを含めることによってデ スティネーションを追加することができます。



18. **院了**]をクリックしてウィザードを終了し、コンソールを開きます。Arcserve UDP

**注**: ドメインの認証情報を使用して UDP コンソールにログインするには、「<u>ドメイン</u> ユーザへの管理者権限および役割の割り当て」を参照してください。

## Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定する 方法

Arcserve アプライアンスをゲートウェイとして設定することができます。

### 以下の手順に従います。

- 1. Arcserve アプライアンス から Arcserve UDP コンソールをアンインストールしま す。
- 2. Arcserve UDPコンソールから [リソース]タブをクリックします。
- 3. Arcserve UDP コンソールの左ペインで、 **インフラストラクチャ**]に移動して、 **サイト**]をクリックします。
- 4. サイトの追加]をクリックします。
- 5. **サイトの追加**]ウィザードの手順に従って、Arcserve UDP リモート管理ゲートウェイを Arcserve アプライアンス にインストールします。

注: Arcserve アプライアンスに Arcserve UDP リモート管理ゲートウェイをインストールした後に、Arcserve アプライアンスウィザードで「ウィザードの起動]をクリックしても、Arcserve UDP コンソールは起動しません。Arcserve UDP コンソール にアクセスするには、コンソールの URL を直接入力します。Arcserve UDP

# 第6章: Arcserve アプライアンス での操作

Arcserve アプライアンスを使用して、Windows、Linux、および仮想マシン用のバッ クアップ プランを作成できます。 テープデバイスにデータを書き込み、 仮想スタンバ イマシンを作成することもできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

アプライアンス上のArcserve 製品のアクティブ化	97
Arcserve アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成	98
プランへのノードの追加	99
Linux ノード用のバックアップ プランの作成	109
<u>テープ デバイスへのバックアップ プランの作成</u>	110
アプライアンス上仮想スタンバイプランの作成	111
Linux バックアップ サーバのバックアップ プランの作成	112
ローカルアプライアンス Hyper-V に対して Linux インスタント VM ジョブを実行する めの設定	<u>t-</u> 116
ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コンソールの移行	117
<u> プレインストールされた Linux バックアップ サーバの CentOS 7.4 への移行</u>	119
<u>Arcserve アプライアンス間の移行</u>	121
プレインストールされた Linux バックアップ サーバの入力 ソースの変更	129
# アプライアンス上の Arcserve 製品のアクティブ化

アプライアンス上で Arcserve 製品をアクティブ化する場合は、「<u>Arcserve 製品ライ</u> センスオンライン ヘルプ」を参照してください。

# Arcserve アプライアンス ウィザードを使用したプランの 作成

プランは、バックアップするノードおよびバックアップするタイミングを定義する手順の 集合です。Arcserve アプライアンスでは、基本プランを作成することができます。 Arcserve ウィザードを使用したプランの作成には、以下の3つのステップがあります。

1. 保護するノードを追加します。

Windows ノード または仮想 マシンを vCenter/ESX または Hyper-V サーバから選択 できます。

- 2. バックアップ スケジュールを定 義します。
- 3. プランをチェックして確認します。



基本的なプランに加えて、Arcserve UDP では、UDP コンソールから複雑なプランを 作成して多くのパラメータを制御することができます。UDP コンソールから複雑なプ ランを作成するには、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

# プランへのノードの追加

さまざまなノードを保護するためのプランを作成することができます。ノードを保護 するには、ノードをプランに追加する必要があります。Arcserve アプライアンスウィ ザードからノードを追加できます。ウィザードでは、以下の方法を使用してノードを 追加できます。

■ ノードの IP アドレスまたはホスト名を手動で入力

(<u>ホスト名/IP アドレスによるノードの追加</u>)

- Active Directory からのノードのディスカバリ (<u>Active Directory によるノードの追加</u>)
- VMware ESX/vCenter Server から仮想マシンノードをインポート (vCenter/ESXノードの追加)
- Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポート

(<u>Hyper-Vノードの追加</u>)

# ホスト名/IP アドレスによるノードの追加

ノードをプランに追加するために IP アドレスまたはホスト名を手動で入力すること ができます。追加するノード数が少ない場合はこの方法を使用しますが、複数の ノードを1つずつ追加できます。Arcserve Unified Data Protection Agent for Windows はこれらのノードにインストールされます。

#### 以下の手順に従います。

1. **ホスト名 /IP アドレスによるノードの追加** ]ダイアログ ボックスで、以下の詳細を入力します。

arcserve	アプライアンス構成			
ホスト名/IP アドレスによ	るノードの追加			③ノードの追加につい
選択した Windows ノードのホスト	名/IP アドレス情報を入力し、プランに追	动できるようにします		
ホスト名/IP アドレス		プラン	で保護されているノ	- <b>F</b>
ユーザ名			/~P8	
パスワード		左の:	フィールドを使用して、プランに	/~戸ち追加します。
説明				
				利除
プランの作成のキャンセル				
ステップ 6 / 9		前に戻る	200	キャンセル

ホスト名/IP アドレス

ソースノードのホスト名または IP アドレスを指定します。

ユーザ名

管理者権限を持つノードのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

説明

ノードを特定する説明を指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. [リストに追加]をクリックします。

ノードが右ペインに追加されます。さらにノードを追加するには、これらの手順を繰り返します。追加されたすべてのノードは、右ペインにリスト表示されます。

- 3. (オプション) 追加したノードを右ペインのリストから削除するには、目的の ノードを選択して 削除]をクリックします。
- 4. 次へ]をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

### Active Directory によるノードの追加

Active Directory にノードを追加するには、Active Directory の詳細を指定し、ノードを検出して、プランにノードを追加します。

### 以下の手順に従います。

1. Active Directory によるノードの追加]ダイアログボックスで、以下の詳細を 入力します。

ユーザ名

<ドメイン>\<ユーザ名>の形式でドメインおよびユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

コンピュータ名フィルタ

ノード名のディスカバリに使用するフィルタを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

<b>CITCSETVE</b> 。 Active Directory による Active Directory の情報を入力	<b>アプライアンス構成</b> ノードの追加 して、プランルノードを追加します。			<b>ල</b> ) − * ගාඩාක්කට (
ユーザ名	domain¥username	プラン	で保護されているノー	۲
パスワード			ノー PA	
コンピュータ名フィルタ		たり	フィールドを使用して、ノード語証 ・ドを追加します。	情報を快証し、ブラン
				AØ8
プランの作成のキャンセル				
ステップ 6 / 9		前に戻る	次へ	キャンセル

2. 診照]をクリックします。
 検出されたノードが表示されます。

Active Directory の結果	フィルタ テキス	トを入力します		×	プランで保護されて	いるノード
- 8M	80	ユーザ名	eniz		ノード名	
	ARCSERVE	1001		^	友のフィールドを使用して にノードを追加します。	、ノード語証情報を快証し、フ
	ARCSERVE	001				
	ARCSERVE	001		~		
			>			
ユーザ名	nie					
パスワード		- 11	通用			
厌る		. 97	いた追加			nds.
displicit of shall 1						

ノードを追加するには、ノードを選択して確認します。

3. 検証するには、ノードを選択し、ユーザ名およびパスワードを入力して 適用]をクリックします。

認証情報が検証されました。検証済みノードには、緑色のチェックマークが 付いています。ノードの検証が失敗した場合、認証情報を再入力して **適** 用]を再度クリックします。

注:ノードをリストに追加する前に各ノードを検証する必要があります。

- リストに追加]をクリックします。
   選択したノードが右ペインに追加されます。
- 5. (オプション) ノードを右 ペインから削除するには、ノードを選択して 削除]を クリックします。
- (たいたい)、
   (たいたい)、

### vCenter/ESX ノードの追加

仮想マシンノードを VMware vCenter/ESX Server に追加できます。これらのノードを追加するには、vCenter/ESX Server からのノードを検出およびインポートする必要があります。

#### 以下の手順に従います。

1. **[vCenter/ESX によるノードの追加**]ダイアログボックスで、以下の vCenter/ESX Server の詳細を指定します。

ホスト名/IP アドレス

vCenter/ESX Server のホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート

使用するポート番号を指定します。

プロトコル

使用するプロトコルを指定します。

ユーザ名

サーバのユーザ名を指定します。

パスワード

ユーザパスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

arcserve	アプライアンス構成			●ノードの食加につい
VUCINICIPATION OF THE AND A THE AND				••••••••••••••••••••••••••••••••••••••
vCenter/ESX V/用単数空入/JUC	、ノフンにノートを20月110ま9。			
ホスト・名/IP アドレス		プラン	で保護されているノー	4
	443		/~ ド名	
プロトコル	HTTPS +	左の	フィールドを使用して、プランにノ・	PSilmust.
ユーザ名	root			
パスワード				
				108
プランの作成のキャンセル				
ステップ 6 / 9		前に戻る	次へ	和心也儿

2. 接続]をクリックします。

検出されたホスト名が表示されます。

3. ホスト名を展開してノードを参照します。

vCenter/ESX の結果	フィルタ テキストを入力します	×	プランで保護されているノード
名前	オブジェント タイブ		- 1- HS
	ホスト システム		2のフィールドを使用して、プランにノードを追加します。
	リソース ブール		
> 🔄 🦳 LinuxAgent	リソース ブール		
> 🔄 🧀 restore	リソース ブール		
🗦 📰 🍘 Virtual Lab 1	リソース プール		
> 🔄 🤭 windows	リソース プール		
🕨 📄 🍘 yangming	リソース プール		
🔄 🔂 network	仮想マシン	~	
戻る	921-6	iii.ho	MRk

4. 追加するノードを選択してから、「**リストに追加**」をクリックします。

選択したノードが右ペインに追加されます。

- 5. (オプション)ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して 削除]を クリックします。
- 6. **次へ**]をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

### Hyper-Vノードの追加

この方法を使用すると、Microsoft Hyper-Vサーバから仮想マシンノードをインポートできます。

以下の手順に従います。

1. [Hyper-V ノードの追加]ダイアログボックスで以下の詳細を指定します。

<b>OICSETVE</b> Hyper-V ノードの追加	アプライアンス構成	×		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Hyper-V の情報を入力して、ファ	シルビノードを2旦加します。			
ホスト名/アノトレス		-	プランで保護されている	ノード
ユーザ名			一 /~ ド名	
パスワード			左のフィールドを使用して、プラン	パンノードを追加します。
		-		
				All\$
プランの作成のキャンセル				
ステップ 6 / 9		前に戻る	次へ	キャンセル

ホスト名 /IP アドレス

Hyper-V サーバの名前または IP アドレスを指定します。 Hyper-V クラスタ に含まれている仮想マシンをインポートするには、 クラスタノード名または Hyper-V ホスト名のいずれかを指定します。

ユーザ名

管理者権限のある Hyper-V ユーザ名を指定します。

**注**: Hyper-V クラスタの場合は、クラスタの管理者権限を持つドメインア カウントを使用します。 スタンドアロン Hyper-V ホストの場合は、ドメイン アカウントを使用することをお勧めします。

パスワード

ユーザ名のパスワードを指定します。

プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. 接続]をクリックします。

検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。

I arcserve <sup>®</sup> Hyper-Vノードの追加	アプライアンス構成	のノードの追加につい
Hyper-Vの情報を入力して、プ	ランにノードを追加します。	
Hyper-V の結果	フィルタ テキストを入力します 🗙	プランで保護されているノード
<b>4</b> H	*15-04-6-1	📄 /~ K8
	Where V #7 h	友のフィールドを使用して、プランにノードを追加します。
	信頼マシン	
	仮想マシン	-
民る	以下最適加	MR
プランの作成のキャンセル		
		Windows のライセンス認
ステップ6/9		前に戻る 次へ キャンセル

- 3. (オプション) [フィルタ] フィールドにノード名を入力して、ツリー内のノードを検索できます。
- ノードを選択してから、「リストに追加]をクリックします。
   選択したノードが右ペインに追加されます。
- 5. (オプション)ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して 削除]を クリックします。

# Linux ノード用のバックアップ プランの作成

Arcserve アプライアンス コンソールから Linux ノードをバックアップできます。Linux バッ クアップ サーバはすでにコンソールに追加されています。

### 以下の手順に従います。

- 1. Arcserve アプライアンスコンソールを開きます。
- 2. [リソース]- [プラン]- すべてのプラン]をクリックします。
- 3. Linux バックアップ プランを作成します。
- 4. [ソース]、「デスティネーション]、「スケジュール]、 肱張]の設定を指定しま す。

**注**:各環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「<u>Linux バック</u> アッププランを作成する方法」を参照してください。

5. バックアップ プランを実行します。

### テープ デバイスへのバックアップ プランの作成

Arcserve アプライアンスには、テープ デバイスにデータを書き込む機能があります。 通常、ソース データは、UDP バックアップ プランを使用してデータ ストアに保存され ている復旧ポイントで、デスティネーションはテープ デバイスです。Arcserve Backup マネージャを使用して、テープへのバックアップ ジョブを管理する必要があります。

以下のプロセスの概要は、Arcserve アプライアンスを使用してテープ デバイスに データを書き込む方法を理解するのに役立ちます。

1. テープ デバイスを Arcserve アプライアンス に取り付けます

Arcserve アプライアンス には、テープ デバイスを接続 するためのポート が背面 パネルに備わっています。テープ デバイスを接続 すると、Arcserve アプライアン スは自動的 にテープ デバイスを識別します。

2. バックアップマネージャを使用して、テープデバイスを設定します。

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加 します。バックアップ マネージャは、Arcserve Backup を管理 するためのインター フェースです。テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加した後、デバイ スを設定します。

**注**: デバイスの設定および管理の詳細については、「Arcserve Backup管理 者ガイド」の「<u>デバイスおよびメディアの管理</u>」を参照してください。

# 3. UDP コンソールを使用して、1 つ以上のバックアップ ジョブを正常に完了します。

テープ デバイスに書き込み可能な正常なバックアップが少なくとも1つ存在 している必要があります。 データをバックアップするには、UDP コンソールを使 用してプランを作成し、 データストアにバックアップします。

**注**:別のノード用のバックアッププランの作成に関する詳細については、「ソ リューションガイド」の「データを保護するプランの作成」を参照してください。

#### 4. バックアップマネージャからのテープへのバックアップジョブの開始

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスにデータをバックアップするプラン を作成します。 ソース データは UDP バックアップ プランのデスティネーションで、 デスティネーションはテープ デバイスです。

**注**: テープへのバックアップ プランの作成に関する詳細については、「Arcserve Backup 管理者ガイド」の「D2D/UDP データのバックアップおよび回復」を参照 してください。

## アプライアンス上 仮想スタンバイ プランの作成

Arcserve アプライアンス には、仮想 スタンバイ マシンとして動作 する機能があります。

### 以下の手順に従います。

- 1. 成功するバックアッププランであるかを検証します。
- 2. Arcserve アプライアンスコンソールを開きます。
- 3. プランに移動して、バックアップ プランを変更します。
- 4. 仮想スタンバイタスクを追加します。
- 5. ソース、デスティネーション、仮想マシンの環境設定を更新します。

**注:** 環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「<u>仮想スタンバイ</u> プランを作成する方法 Arcserve UDP」トピックを参照してください。

6. プランを保存して実行します。

# Linux バックアップ サーバのバックアップ プランの作成

Arcserve アプライアンス では、Linux バックアップ サーバのバックアップを設定 すること ができます。

以下の手順に従います。

- 1. Arcserve UDP コンソールから、 [リソース]タブをクリックします。
- 2. 右側のペインの **すべてのノード** ]をクリックします。
- 3. 中央のペインから、 [ノードの追加]をクリックします。

Add Nodes to Arcserve UDP Console]ダイアログ ボックスが表示されます。

- 4. 【**ノードの追加**]ドロップダウンリストから、 [*Linux ノードの追加*]を選択します。
- 5. ノードの認証情報を入力し、 リストに追加]をクリックします。

cserve UD	Pコンソール へのノード	の追加					1
- Koista	Linux ノードの適加		Ψ				
					- 1- 18	w 8	<b>⊼-13-</b> 5-19
					ノードをリストに注加していません。		
	ノード名/IP アドレス	Linux-BackupS vr					
	□ SSH # -1212						
	ユーザ名	toot					
	パスワード	*******	•				
	□ 非ルート認証情報						
	LRF用の注意力の						
			925	Ciâta			8078
						Windows のラ	イセンス認証
~167						訳 定 を 聞 き、 Windo 行って く だ お ム。	(14件 キャンセ)

6. 保存]をクリックします。

追加された Linux ノードは **すべてのノード** ]リストに表示されます。

arcserve	UNIFIED	DATA PROTECTION	<b>0</b> ×9tz	ージ(1) ・ administrator ・ ヘルク・
ダッシュボード <b>リソース</b> ジ	ョブ レオ	パート ログ 設定   ハ	イアベイラビリティ	
	e ノード:	すべてのノード		20
<i>▲ J−</i> F	アウシ	シ・ノードの追加	7(10) × **	環境設定ウィザード
***COU/=*      **      * プランのない/-*      * プランのない/-*      *・ブラングループ      Unax パックアップサーバ グループ      Unax /-*      * プラン      *・ブラン      *・ブラン      *・ブラン      *・グラン      *・グ      *・・      *・グ      *・・      *・グ      *・・      *      *・		2,5-32     >-168       0     acolinos       0     inue-backuper	VM 8	関連する詳細を表示するために、ノードを選択します。
Accenve 05ウド <b>4 (2)プラストラクチャ</b> ストレージ アレイ インスタント VM サイト SLA プロファイル	<  1 4	≺-3[ <b>-</b> ]/1 → N 2	↓ 1 - 2/2 の表示	Windows のライセンス認証 設定を開き、Windows のライセンス認証を 行ってください。
Copylet/LIB 2014-2015 Arcserve (LSA), LLD and its eff	lates and subs	idaries.All rights reserved.		して0-0800 日本標準時

7. **すべてのプラン**]に移動し、エージェント ベース Linux プランを作成しま す。

[ソース]タブが表示されます。

arcserve	UNIFIED DATA	PROTECTION	<b>0</b> (1) <sup>(1)</sup>	administrator $\uparrow$ $\wedge j g f \uparrow$
ダッシュボード <b>リソース</b> ジ	ねブ レポート	ログ 設定   ハイア	ペイラビリティ	
プランの追加	Agent-Based L	inux Backup Plan	□このブランを一時停止	
タスカンバックアップ:エージェント ペース Linux	タスクの種類	パックアップ: エージェントベース Linux	Ŧ	⊙12,008/88
<ul> <li>タスクの追加</li> </ul>	ג-ע	デスティネーション スケジ	ユール 拡張	
	Linux バックアッ	ブサーバ applance	* 違為#	
	④iBħ0 III /~ F8	ALS VALS	752	911-
			La .	Windows <b>のライセンス認証</b> 設定を開き、Windows <b>のライセンス認証を</b> 行ってください。
Copyright @ 2014-2015 Arcserve (USA); LLC and its at	Nates and subsidiaries.Al	rights reserved.		いて~00.00 日本標業時)

8. 追加]ドロップダウンリストから、[Arcserve UDP で保護 するノードの選択]を選択します。

arcserve	UNIFIED DATA PROTECTION	Ø メッセージ(1) ・ administrator ・ ヘルク ・
ダッシュボード リンース ジョ	ョブ レポート ログ 設定   ハイアベイラビリティ	ſ
プランの追加	Agent-Based Linux Backup Pilan	752後一時得止 保存 キャンセル へんが
タスカロ・バックアップ・エージェンキ ベース Linux	タスクの種類 バックアップ: エージェントベース Linux	• ©10,00808
<ul> <li>クスクの追加</li> </ul>	<b>ソース</b> デスティネーション スケジュール 拢	(張
	Linux バックアップサーバ appliance v	道力
	④18九0 HU5H Arcserve UDP で信頼するノードの援切 Linux ノードの約加8	Ÿ1}-
		Windows のライセンス認証 設定を開き、Windows のライセンス認証も 行ってください。

### 保護するノードの選択」ダイアログボックスが表示されます。

9. 追加された Linux ノードを保護して、 [DK]をクリックします。

利用可能なノード				選択されたノー	r.			
ループ すべてのノード	(デフォルト グループ)	×		×				
irue-backupov	чы б	75>	<b>9 ብ</b> በ-መዙ ቻብት	» > «	□ /- NA	VAL &	752	4.F
N 1 R-9 1	_/1   🕨 🕅	2 1-1/1	0表示					

「デスティネーション」タブが表示されます。

10. 表示されるデフォルトのデスティネーションは、アプライアンス ウィザードを使用して作成されたデータストアです。必要に応じて、ノードをバックアップ するローカルディスクまたは共有フォルダを選択します。

arcserve	UNIFIED DATA PROTEI	0 メッセージ (1)	- administrator + ∧Jj¢⊅ +				
ダッシュボード リソース	ジョブ レポート ログ	設定   ハイ アベイラビリティ					
プランの追加	Agent-Based Linux Backs	up Plan このブランを一時停止	業存 キャンセル ヘルプ				
きえりにパックアック:エージビント ペース Linux	タスクの種類 パックア	ック: エージェントペース Linux *	⊙22,20808				
<ul> <li>クスクの追加</li> </ul>	ソース <b>デス</b> テ	イネーション スケジュール 拡張					
	デスティネーションの種類	○ ローカル ディスクまたは共有フォルダ ⑧ Arcos	○ ローカル ディスクまたは共有フォルダ ⑧ Accenve UDP (取日ボイントサーバ				
	100044775 9-71	applance	*				
	ምータストア	appliance_data_store ==					
	パスワードによる保護	⊠ 0					
	セッション パスワード						
	セッションパスワードの確認						
			Windows のライセンス認証 設定を開き、Windows のライセンス認証を 行ってください。				
Dopwight 8 2014-2019 Arcserve (LSA); LLC and it	s affliates and subsidiaries.All rights rese	rved.	いて0-08:00 日本標準時				

11. プランに関連する設定を入力したら、 保存 ]をクリックします。

arcserve	UNIFIED	DATA PROTECTION		0	メッセー	ジ(1) ・ administrator ・ へがえ ・
ダッシュボード <b>リソース</b> ジョ	ョブ レポ	-ト ログ 設定   ハイ	7ペイラ	リティ		
	e ブラン:	すべてのブラン				3
■ J-F すべてのノード	アウシエ	アウション - プランの追加			✿ 環境設定2√ガード	
ブランのないノード		7528		93	#ノード	関連する詳細を表示するために、ブランを選択します。
▷ プラン グループ ▷ Linux バックアップ サーバ グループ			627	0	. 0	
Linux ノード		Agent-Based Linux Backup Plan	1	0	1	
<ul> <li>プラン ずべてのブラン         <ul> <li>プスライネーション             <ul></ul></li></ul></li></ul>					}	Windows のライセンス認証
	14 4	× → ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓		行ってください。		
Copyright @ 2014-2019 Arcserve (USA), LLC and its aff	liefes and subsid	laries.All ridVs reserved.				UTO+08:00 (日本標準時)

追加された Linux バックアップサーバに対して正常にバックアップを実行する ことができます。

# ローカルアプライアンス Hyper-V に対して Linux インス タント VM ジョブを実行するための設定

Arcserve アプライアンスを使用すると、ローカルアプライアンス Hyper-V上で Linux インスタント VM ジョブを実行するようにネットワークを設定することができます。

#### 以下の手順に従います。

- 1. Hyper-V マネージャを開きます。
- 2. 新しい外部 仮想 ネット ワーク スイッチを作成します。
- DOS コマンド ラインを使用して、PowerShell で以下のコマンドを実行し、
   手順1で新しく追加された仮想ネットワークスイッチ用に [レーティングとリ モートアクセス]を再設定します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\Rebuild-VMSwitch.ps1

注: Linux のバックアップサーバ Linux BackupSvr は処理中に再起動します。

4. Linux インスタント VM ジョブをローカル Hyper-V に対して実行するには、新 しく追加された仮想ネットワークスイッチを選択します。

Linux インスタント VM ジョブをローカル アプライアンス Hyper-V に対して正常に実行できるようになりました。

# ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コン ソールの移行

Arcserve アプライアンス アプライアンスでは、*ConsoleMigration.exe* を使用して Arcserve UDP コンソールを別のアプライアンスに移行できます。Arcserve UDP v6.5 Update 2 以降では、アプライアンスに属していない場合でも、任意の2つの Arcserve UDP コンソールの間で Arcserve UDP コンソールを移行できます。

BackupDB および RecoverDB 用の Console Migration.exe を使用します。以下のスクリーンショットは、Console Migration.exe の使用方法を示しています。



### 移行プロセスを完了するには、以下の手順を実行します。

1. 古い Arcserve UDP コンソールで、Arcserve UDP データベースのバックアップ を実行します。

```
C:VProgram FilesVArcserveVUnified Data ProtectionVManagementVBINVAppliance>ConsoleMigration.exe ~BackupOB
Start Backup...
Backed up DB and version files completed.
DB and version files were created at: "C:VProgram FilesVArcserveVUnified Data ProtectionVManagementVBINVApplianceVDB_Migration".
```

[DB\_Migration] フォルダが正常に作成します。

2. 新しい Arcserve UDP コンソールで、 *DB\_Migration*]フォルダを次 のパスに コピーします。

<UDP\_Home> \Management\BIN\Appliance \

 新しい Arcserve UDP コンソールが Arcserve アプライアンスの場合、ホスト 名を変更してシステムを再起動し、アプライアンスウィザードを使用してア プライアンス設定を終了します。

**注**: Arcserve UDP コンソールが Arcserve アプライアンス ではない場合、この 手順をスキップします。

 新しい Arcserve UDP コンソールで、以下の画面に示される手順を実行して、Arcserve UDPコンソールデータベースを復旧させます。データベースのリカバリプロセスが完了したら、新しい Arcserve UDP コンソールのノードが更新されます。ノードの更新に失敗した場合は、C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\logs パ スの下にある DisconnectedNodesInfo-<mm-dd-yyyy>.txt ファイルに切断されたノードが記録されます。切断されているノードは新しい Arcserve UDP コンソールから手動で更新できます。

%Program FilesWArcserveWuhified Data Protection/ManagementVBINWAppliance>ConsoleMigration.exe =RecoverOB Are you sure you want to recover the backup DB file? y Atopping Arcserve UDP Management service, please wait... Accovering backup DB file... Additing nodes, please wait... Additing nodes, pleas

**注**: Arcserve UDP コンソールで、ローカル サイト 以外のサイトが存在する場合、*NewRegistrationText.txt* ファイルに記載されている手順に従い、サイトを 再登録します。

新しい Arcserve UDP コンソールへの Arcserve アプライアンス コンソールの移行が正常に完了しました。

このツールを使用して、リモート SQL データベースと接続している Arcserve UDP コン ソールについて、コンソール移行を実行することができます。移行が完了すると、 移行された Arcserve UDP コンソールは同じリモート SQL データベースに接続される ように設定されます。

注: Arcserve UDP v6.5 Update 4 以降、ConsoleMigration.exe コマンドに-force オ プションが導入されました。このオプションを使用すると、以下の条件で、復旧用 バックアップデータベースファイルのターゲットコンソールへの移行が強制されます。

- ソースコンソールで SQL Server Enterprise エディションを使用しており、ター ゲット コンソールで SQL Server Express エディションを使用している 2 つのコ ンソール間で、コンソールの移行を実行する必要がある場合。この場合、 ソース UDP コンソールで必要なデータベースの最小サイズは 4000 MB で す。
- 2. SQL Server データベースの新しいバージョンを使用するコンソールから SQL Server データベースの古いバージョンを使用するコンソールへコンソールの 移行を実行する必要がある場合。たとえば、SQL Server 2016を使用す るコンソールから SQL Server 2014を使用するコンソールへの移行です。

# プレインストールされた Linux バックアップ サーバの CentOS 7.4 への移行

**重要:** Linux 移行ツールは、Arcserve UDP v6.5 Update 4 以上のバージョンで利用できます。

Linux 移行ツール(Linux\_migration.ps1)は、Arcserve UDP v6.5 Update 4 から導入 された新機能です。このツールを使用すると、Arcserve アプライアンス のプレインス トールされた Linux バックアップ サーバを CentOS 6.6 といった以前 のバージョンの CentOS から CentOS 7.4 に移行できます。

#### 以下の手順に従います。

- 1. 管理者の認証情報を使用して、Arcserve アプライアンス にログインします。
- Arcserve アプライアンスの以前のバージョンのArcserve UDPとLinux バック アップサーバをArcserve UDP v6.5 Update 4 以上のバージョンにアップグ レードします。また、Linux バックアップサーバ上のLinux エージェントを Arcserve UDP コンソールに近いバージョンにアップグレードします。
- このリンクから Linux-BackupSvr.zip をダウンロードして(このダウンロードの MD5 は 0A51C1020CB8EA569B9DCEAF7BF226E0 です)、ローカルドライブ にファイルを抽出します。たとえば、これらのファイルをドライブ X に抽出する 場合、パスは以下のように表示されます。



4. PowerShell コマンド ラインを開いて以下のコマンドを入力し、ディレクトリの パスを Linux\_migration.ps1 ファイルが含まれるフォルダに変更します。

cd C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\bin\Appliance\

5. 以下のコマンドを実行して移行を実行します。

Linux\_migration.ps1 –path X:\Linux-BackupSvr

**注**: X:\Linux-BackupSvrは、Linux-BackupSvr.zipのファイルがローカルドライブに抽出されるパスです。

コマンドラインには、移行処理の進捗状況が表示されます。

移行処理が正常に完了すると、古いLinux バックアップサーバの電源がオフになり、古いLinux バックアップサーバの名前がLinux-BackupSvr-

*CentOS<version number>-<hhmm>* に変更されます。新しい Linux バックアップサーバ(CentOS 7.4) のインポートが完了し、その名前が Hyper-V マネージャで Linux-BackupSvr に正常に変更されます。

6. Arcserve UDP コンソールから Linux バックアップ サーバを更新します。

Linux バックアップ サーバを CentOS 7.4 に移行した後、Linux バックアップ プラン、Linux ノード、および Linux ジョブといったすべての Linux バックアップ サーバ設定は、Arcserve アプライアンスコンソールで正常に移行されて設定されます。

# Arcserve アプライアンス間の移行

このトピックでは、既存の Arcserve アプライアンス から別の新しい Arcserve アプライアンス への移行を実行するユーザ用に2つのソリューションを提供します。

たとえば、Arcserve アプライアンス 8200 を Arcserve アプライアンス 8400 に移行する ことができます。前提条件は次のとおりです。

- アプライアンス 8200 とアプライアンス 8400 の両方に接続できることを確認します。
- 新しいアプライアンスの容量は、元のアプライアンス上のすべてのデータを保持するのに十分なメモリがある必要があります。
- Arcserve アプライアンス 8200 で、ジョブが実行されていないことを確認します。

コンソールの移行の詳細については、「<u>Console Migration.exe を使用して</u> <u>Arcserve UDP コンソールを移行する方法</u>」のトピックを参照してください。

任意のアプライアンスから新規アプライアンスに移行するには、以下に示す2つの ソリューションがあります。

- 解決策 1
- 解決策 2

### 解決策1

ベア メタル復旧(BMR) ソリューション

既存のArcserve アプライアンスから別の新しいArcserve アプライアンスに対して BMRを実行するには、以下の手順に従います。

1. 新規 Arcserve アプライアンス 8400 上 にデータ ストアを作 成し、このデータ ストアに Arcserve アプライアンス 8200 をバックアップします。

注:以下の警告は無視することができます。

Arcserve UDP 復 旧 ポイント サーバ データストアは、ボリューム X:、Y: で設 定 されています。このボリュームはバックアップされません。

 バックアップ後、上記の手順で取得した復旧ポイントを使用してアプライ アンス 8400 で BMR を実行し、手動でドライバ megasas.inf を選択しま す。

Intel         12/08/2016, 12.14.7.0         x64         C:\WIND0WS\INF\oem43.inf           Intel         02/08/2016, 12.14.7.0         x64         C:\WIND0WS\INF\oem43.inf           Intel         07/30/2013, 9.4.2.10         x64         C:\WIND0WS\INF\oem43.inf           Intel         03/06/2016, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\oem43.inf           INTEL         03/06/2016, 6.707.0         x64         C:\WIND0WS\INF\oem45.inf           INTEL         08/19/2016, 10.1.2.80         x64         C:\WIND0WS\INF\oem45.inf           AMD.Section, ACER.S         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\oem47.inf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\oem47.inf           Generic         10/08/2017, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\usbyhci.inf	Manufacturer	Version	Platform	Path
Intel         12/30/2018, 12/14/10         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           Intel         07/30/2018, 12/14/10         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           MS_HDC, INTEL_HDC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           INTEL         03/06/2015, 67.07.0         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           INTEL         03/06/2015, 67.07.0         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           INTEL         03/06/2015, 67.07.0         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           INTEL         08/19/2016, 10.12.80         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           INTEL         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           INTEL         07/30/2013, 9.4.2.10         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf           Generic         10/08/2017, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\ueshinf	Intel	12/09/2016 12:14:7.0	- Iddonni - Nau	C\W/NDOWS\INE\cem42 inf
MS_HDC, INTEL_HDC         06/21/2006, 10.01/4         x64         C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf           LSI         03/06/2015, 6.707.0         x64         C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf           INTEL         03/06/2015, 6.707.0         x64         C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf           INTEL         08/19/2016, 10.1.2.80         x64         C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf           INTEL         08/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\coem45.inf           INTEL         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\coem45.inf           INTEL         07/30/2013, 9.4.2.10         x64         C:\WINDOWS\INF\coem45.inf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\mschine.inf           Generic         10/08/2017, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf	Intel	07/30/2013 94210	x64	C:\WINDOWS\INE\oem9 inf
LSI         03/06/2015, 6.707.0         x64         C:\WIND0WS\INF\oem8.inf           INTEL         08/19/2016, 10.12.80         x64         C:\WIND0WS\INF\oem8.inf           AMD.Section, ACER.S         06/21/2006, 10.014         x64         C:\WIND0WS\INF\usbport.inf           INTEL         07/30/2013, 9.4.210         x64         C:\WIND0WS\INF\usbport.inf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.014         x64         C:\WIND0WS\INF\machine.inf           Generic         10/08/2017, 10.014         x64         C:\WIND0WS\INF\usbphci.inf	MS HDC. INTEL HDC	06/21/2006.10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf
INTEL         08/19/2016, 10.1.2.80         x64         C:\WINDOWS\INF\oem45.inf           AMD.Section, ACER.S         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\useport.inf           INTEL         07/30/2013, 9.4.210         x64         C:\WINDOWS\INF\useport.inf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\useport.inf           Generic         10/08/2017, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\usep\usep\usep\usep\usepuit.inf	LSI	03/06/2015, 6.707.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem8.inf
AMD.Section, ACER.S         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\usbport.inf           INTEL         07/30/2013, 9.4.2.10         x64         C:\WIND0WS\INF\usbport.inf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\usbport.inf           Generic         10/08/2017, 10.0.14         x64         C:\WIND0WS\INF\usbport.inf	INTEL	08/19/2016, 10.1.2.80	x64	C:\WINDOWS\INF\oem45.inf
INTEL         07/30/2013, 9.4.2.10         x64         C:\WINDOWS\INF\oem47.inf           GENDEV_SYS, ACC         06/21/2006, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\machine.inf           Generic         10/08/2017, 10.0.14         x64         C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf	AMD.Section, ACER.S	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbport.inf
GENDEV_SYS,ACC 06/21/2006,10.0.14 x64 C:\WIND0WS\INF\machine.inf Generic 10/08/2017,10.0.14 x64 C:\WIND0WS\INF\usbxhci.inf	INTEL	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem47.inf
Generic 10/08/2017, 10.0.14 x64 C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf	GENDEV_SYS, ACC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\machine.inf
	Generic	10/08/2017, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf

3. BMR の後、システム プロンプトに従ってアプライアンス 8400 を再起動します。

Arcserve アプライアンス			- 0 X
arcserve	アプライアンス構成	•	アプライアンスについて
(UDP コンソールの起動)を UDP コンソールの起動	クリックするか、Arcserve UDP コンソー。	ル URL をクリックして、Arcserve UDP コンソール	を開きます。
ホスト名/ ドメイン UDP コンソール URL 日付と時刻	appliance (未割り当て) Microsoft Windows これらの変更を運用するには1	× コンビューターを再起動す 報告	
ネットワーク接続	る必要があります。 再起動する約に、繋がれているファイル べて閉じる必要があります。	◆● ×	
SLOT 2 ポート 2 ○ 接続済み SLOT 2 ポート 1 ○ 未接続	10.6 マタマーション ND DHC - マクマーン C B SU かりらい 新り当てなし DHC P を分した自動	P X550-t Adapter	編集 2 編集
NIC2 ② 未接続 NIC1 ② 提続演み	割り当てなし DHCP を介した自動 10.57.25.14 DHCP を介した自動	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #2	編集
			Windows

4. ここで、8400 アプライアンス上にネットワークスイッチが再構築されます。

PowerShell で、以下のコマンドを実行します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Rebuild-VMSwitch.ps1

ame	Date modified	Туре	Size
setnat.ps1.log	5/10/2017 5:18 AM	Text Document	2 KB
nat.log	5/10/2017 5:18 AM	Text Document	6 KB
at2.bat	5/10/2017 5:18 AM	Windows Batch File	2 KB
dhcpdone.flag	5/10/2017 5:17 AM	FLAG File	0 KB
resetdhcp.ps1.log	5/10/2017 5:17 AM	Text Document	2 KB
linuxdone.flag	5/10/2017 4:52 AM	FLAG File	0 KB
vmstarted.flag	5/10/2017 4:52 AM	FLAG File	0 KB
adapterNameChanged.flag	5/10/2017 4:52 AM	FLAG File	0 KB
language.txt	5/10/2017 1:19 AM	Text Document	1 KB
initstorage.ps1.log	5/9/2017 4:26 AM	Text Document	1 KB
setos.flag	5/9/2017 1:42 AM	FLAG File	0 KB
configuration_change.status	5/9/2017 1:39 AM	STATUS File	1 KB
configuration_change.flag	5/9/2017 1:39 AM	FLAG File	0 KB
ARCDiskCheck-Finish.tag	5/9/2017 1:39 AM	TAG File	0 KB
Rebuild-VMSwitch.ps1	Open	Windows PowerS	3 KB
resetdhcp.ps1	Run with PowerShell	Windows PowerS	23 KB
ApplianceInformation.ex	Edit	Application	30 KB
configuration_change.ps	Open with	Windows PowerS	19 KB
arcrun.bat	Restore previous versions	Windows Batch File	1 KB
initstorage.ps1	nescore previous versions	Windows PowerS	15 KB
ARCDiskCheck.exe	Send to +	Application	130 KB
setnat.ps1	Cut	Windows PowerS	4 KB
· ·	Сору		

123 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

- 5. ここで、以下の手順を実行し、8200 アプライアンス上のデータを8400 アプ ライアンスにコピーし、データを8400 にインポートします。
  - a. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve アプライアンス 8200 上のすべての UDP サービスを停止します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /stopall

b. ディスク X および Y 上 のすべてのデータを、Arcserve アプライアンス 8200 から 8400 に手 動 でコピーします。

Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Aicrosoft Windows [Version 6.3.9600] (c) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cmdut : il.exe /stopall Start to kill process explorer.exe
Killing process explorer.exe Process killed.
Start to kill process D2DUDgc.exe
Stopping service 'Arcserve UDP Agent Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP RPS Data Store Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP RPS Port Sharing Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Identity Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Management Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Management Port Sharing Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Agent Explorer Extension Service' Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Update Service' Service Stopped.
Stopping Arcserve UDP agent monitor Arcserve UDP agent monitor stopped.
Start to kill Arcserve UDP processes
Killing process sync_utl_d.exe Process killed.
Killing process AFD2DMonitor.exe Process killed.
Killing process GDDServer.exe Process killed.
Killing process GDD&erver.exe Process killed.
Killing process GDDServer.exe Process killed.
Killing process AStartup.exe Process killed.
Killing process explorer.exe Process killed.
Stopping mounting driver Hounting driver stopped.
Start Windows Explorer.

c. 8400 アプライアンスで、すべての UDP サービスを起動し、8200 アプライ アンスからコピーしたデータをインポートします。

 データ ストアのインボー	٢			
(第日ボイントサーバ データ ストア フォルダ	appliance XWArcserveWdata_stor	eVecommon		會照
暗号化/以ウード		\$		
	4201			
			保存	*+0/th ^.67

ダッシュボード リソース ジョブ レポート ログ 設定 | ハイアベイラビリティ

# 解決策 2

Arcserve アプライアンスの移行に関するソリューション

重要:既存のアプライアンスがArcserve UDP コンソールとArcserve UDP RPSの両方として動作している場合、この解決策を使用することができます。

#### 前提条件:

- Arcserve アプライアンス 8200 でジョブが実行されていないこと。
- Arcserve UDP コンソールが Arcserve アプライアンス 8200 から 8400 に移 行 済 みであること。

**注**: Arcserve UDP コンソールをアプライアンス 8200 から 8400 に移行する方法の詳細については、「<u>ConsoleMigration.exe を使用した Arcserve UDP コン</u> ソールの移行方法」を参照してください。

#### 以下の手順に従います。

1. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve アプライアンス 8200 上のすべての Arcserve UDP サービスを停止します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /stopall

```
- 0 X
C:9.
                 Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.3.9600]
(c) 2013 Microsoft Corporation. All rights reserved.
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN>cmdut
il.exe /stopall
Start to kill process explorer.exe
Killing process explorer.exe
Process killed.
 Start to kill process D2DVDgc.exe
Stopping service 'Arcserve UDP Agent Service'...
Service Stopped.
 Stopping service 'Arcserve UDP RPS Data Store Service'...
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP RPS Port Sharing Service'...
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Identity Service'...
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Management Service'...
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Management Port Sharing Service'...
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Agent Explorer Extension Service'...
Service Stopped.
Stopping service 'Arcserve UDP Update Service'...
Service Stopped.
Stopping Arcserve UDP agent monitor...
Arcserve UDP agent monitor stopped.
Start to kill Arcserve UDP processes
Killing process sync_utl_d.exe
Process killed.
Killing process AFD2DMonitor.exe
Process killed.
Killing process GDDServer.exe
Process killed.
Killing process GDDServer.exe
Process killed.
Killing process GDDServer.exe
Process killed.
Killing process AStartup.exe
Process killed.
Killing process explorer.exe
Process killed.
Stopping mounting driver...
Mounting driver stopped.
Start Windows Explorer.
```

- 2. ディスク X および Y 上 のすべてのデータを、Arcserve アプライアンス 8200 か ら 8400 に手 動 でコピーします。
- 8400 アプライアンスで、すべての Arcserve UDP サービスを起動し、8200 ア プライアンスからコピーしたデータ ストアをインポートします。

ダッシュボード <b>リソーフ</b>	ジョブ レポート ログ 設切	こ   ハイアベイラビリティ	
	データストアのインポート		
	(第日ホイントサーバ データストア フォルダ 暗号化/ロワード	applance XWVrcserveWdata_storeViconimon I 2004	<b>€</b> 17
			(1):2:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1:1

注: Arcserve UDP ログ ファイルは新しいアプライアンスには移行されません。

既存の Arcserve アプライアンス から別の新しい Arcserve アプライアンス への移行 が完了します。

# プレインストールされた Linux バックアップ サーバの入力 ソースの変更

プレインストールされた Linux バックアップ サーバのキーボードを変更 することができます。

以下の手順に従います。

- 1. 管理者として Arcserve アプライアンス にログインします。
- 2. 設定]をクリックします。



3. 地域と言語]をクリックします。



4. [+]をクリックして、新しい入力ソースを選択します。

Activities	¥ Settings →	Fri 00:14	A 40 O -
	<	Region & Language	×
		Language English (United States)	
		Formats United States (English)	
		Input Sources	b.
		English (US)	
			7
			CENTOS

5. 言語とキーボード レイアウトを選択します。

曫 Activities	🛠 Settings 🔻			Fri 00:20				.t 40 € -
			Cancel	Add an Input Source	Add	]		
		<	<	English (United States)			×	
			English (U	JS)		(24	k	
			Cameroon	n Multilingual (Dvorak)		(5)		
		ro	English (A	ustralian)				
		Input	English (C	lameroon)				
		En	English (C	lanada)				
		+	English (C	iolemak)	e dead bene)			
			English (D	vorak)	o dead keys)	_		
								7
								/
								LENIUS

6. **追加**]をクリックします。

入カソースが正しく追加されます。
## 第7章:アプライアンスサーバのリモート モニタリング

Arcserve アプライアンスをリモートでモニタリングすることができます。 このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>IPMI での作業</u>	
iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) での操作	

## IPMI での作業

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

## IPMI パスワードを変更する方法

IPMI パスワードを変更する前に、BIOS セットアップ画面にアクセスして IP アドレスを取得する必要があります。

#### 以下の手順に従います。

1. システムを起動します。

ブート画面が表示されます。

2. **Delete** キーを押します。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

**注:** 移動するには、矢印キーを使用し、Enter キーを押します。前の画面に 戻るには、Escape キーを押します。

3. BIOS メイン画面の上部で [PMI] タブを選択します。

注:デフォルトでは、環境設定アドレスソースはDHCPに設定されています。

BMC Network Configuration		BIOS will set below setting to IPMI in next BOOT
IPMI LAN Selection IPMI Network Link Status: Update IPMI LAN Configuration Configuration Address Source Station IP Address Subnet Mask Station MAC Address Gateway IP Address	[Failover] Shared LAN [No] [DHCP] 172.31.8.192 255.255.0.0 00-25-90-9c-46-eb 172.31.0.1	<pre>++: Select Screen f4: Select Item Enter: Select +/-: Change Opt. F1: General Help F2: Previous Values F3: Optimized Defaults F4: Save &amp; Exit F4: Save &amp; Exit</pre>

- IP アドレスが正しいことを確認します。サーバが同じネットワーク上にある場合のみ、Web ブラウザを使用して、IPMI インターフェースに接続することができます。
- 5. ステーション IP アドレスをメモします。
- 6. ステーション IP アドレスを Web ブラウザに入力します。

IPMI ポート経由でリモート サーバに接続した後、IPMI ログイン画面が表示 されます。

F	Please Login
Username	
Password	
	login

7. [ユーザ名] フィールドにユーザ名を入力します。

デフォルト: ADMIN

8. [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。

デフォルト: ARCADMIN

ホームページ(IPMIメイン画面)が表示されます。

System	Server Health	Configuration	Remote Control	Virtual Media	Maintenance	Miscellaneous	Help
System	n	⋺ Summa	ary				
FRU Reading		Firmware Revis Firmware Build	sion : 03.27 Time : 01/18/2016	IP address : BMC MAC a	010.057.025.011	fe:8c:b0	
Hardware Information		BIOS Version : 2.0         System LAN1 MAC address : 00:25:90:fc:70:48           BIOS Build Time : 12/17/2015         System LAN2 MAC address : 00:25:90:fc:70:49           Redfish Version : 1.0.0         Support of the sector of the sec				0:25:90:fc:70:48 0:25:90:fc:70:49	
			Refresh Pr Refresh Pr orcserve	nsole Preview review Image			
		<b>u</b> 2 c	<u>e</u> = x		- 2 6 200 B		
			Power Con Host is c Power On Power	urrently on wer Down Reset			

9. 上部バーから 環境設定]オプションをクリックします。

**環境設定**]画面が表示されます。



- 10. 環境設定]サイドバーで [ユーザ]オプションをクリックします。
- 11. ユーザリストから ユーザ: (ADMN) ]を選択します。
- 12. ユーザの変更]をクリックします。

[ユーザの変更] 画面が表示されます。

System	Server Health	Configuration	Remote Control	Virtual Media	Maintenance	Miscellaneous	Help	
Configu	iration	🚭 Modify l	Jser					
Alerts								
⋺ Date an	d Time	Enter the new information for the user below and press Modify. Press Cancel to return to the user list.						
LDAP		User Name	e:					
Active Directory		Change Pa	ssword 🗹		_			
RADIUS		Password: Confirm Pa	assword:		_			
Mouse	Mode	Network P	rivileges:	Ŧ				
Network	k	Modify	Cancel					
Dynami	ic DNS							
SMTP								
🔿 SSL Ce	rtification							
🔿 Users								

- 13. ユーザ名 ( ADMIN) を入力します。
- 14. [パスワードの変更]オプションを選択します。

パスワードフィールドが有効になります。

- 15. 新しいパスワードを入力し、確認します。
- 16. **変更**]をクリックすると、変更が保存されます。 IPMI パスワードは正しく変更されます。

## IPMI ファームウェアをアップグレードする方法

Supermicro IPMI ユーティリティは、組織の要件に従って IPMI をアップグレードするのに役立ちます。

#### 以下の手順に従います。

1. IPMI にログインし、 [Maintenance] タブに移 動して [Firmware Update]を クリックします。

[Firmware Update] 画 面 が表 示されます。

2. [Enter Update Mode]をクリックします。

[Message from webpage] ポップアップ ウィンド ウが表示 されます。

3. **[DK**]をクリックします。

[BIOS & IPMI download] 画面が表示されます。

4. IPMI モデルのリビジョンに対応する.zip ファイルをクリックします。

ファイルがダウンロードされ、 [Firmware Upload] 画面が表示されます。

- 5. ダウンロードした.zip ファイルからファイルを抽出します。
- 6. [Firmware Upload] 画 面 で [Browse]をクリックして、抽 出 されたファイルか ら.bin ファイルを選 択します。
- 7. [Upload Firmware]をクリックします。

ファームウェアのイメージがアップロードされます。

8. [Start Upgrade]をクリックします。

ファームウェアのアップグレードが完了し、IPMIが再起動されます。

[Summary] 画 面 で、アップグレードされたファームウェアのバージョンを確 認 できます。

## iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller) での操作

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

## iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller)の モニタと管理

Arcserve アプライアンス 9012-9504DR には、iDRAC9 (Integrated Dell Remote Access Controller 9) が搭載されています。iDRAC9 により、サーバ管理者は Arcserve アプライアンス の全体の可用性を向上させることができます。iDRAC によ りサーバの問題に関するアラートが管理者に提供されるため、サーバのリモート管 理を実行することができ、サーバへ物理的にアクセスする必要性が少なくなりま す。

システム ステータスのモニタ、システム情報の管理、および仮想コンソールの起動 を行うには、iDRAC にログインする必要があります。

#### 以下の手順に従います。

#### iDRAC にログインします。

- 1. ブラウザを起動して、*https://<iDRAC-IP-address>* に移動します。 iDRAC のログインページが表示されます。
- 2. 以下の情報を入力します。

ユーザ名: root

パスワード: ARCADMIN

3. [**ログイン**]をクリックします。

#### システムステータスのモニタとシステム情報の管理:

iDRAC システム ステータスをモニタして、以下のシステム情報を管理できます。

- システムの健全性
- システムのプロパティ
- ハードウェアとファームウェアのインベントリ
- センサの健 全 性
- ストレージ デバイス
- ネットワークデバイス
- ユーザ セッションの表示と終了

#### 仮想コンソールを起動します。

- 1. https://<iDRAC-IP-address> にログインします。
- 2. ダッシュボード]に移動して、 阪想コンソールの起動]をクリックします。

阪想コンソール]ページが表示されます。

阪想コンソールビューア]には、リモート システム デスクトップが表示されます。キーボートとマウスを使用してリモート システムを制御し、操作を実行することができます。

## iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller 9000 シリーズ)の IP アドレスの検出

Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズ モデルは、デフォルトで iDRAC 対応 の DHCP を使用するよう設定されています。iDRAC にアクセスするには、iDRAC9 専 用ネットワークポートに Ethernet ケーブルを接続します。Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズ モデルの背面 パネルおよび iDRAC9 専用ネットワークポート の詳細については、「9012-9048 の背面パネル」および「9072DR-9504DR の背面パ ネル」を参照してください。

iDRAC9 対応 9012-9048 の背面パネルの外観



iDRAC9 dedicated network port

on rear panel of Arcserve Appliance 9012-9048 series models



#### iDRAC9 対応 9072DR-9504DR の背面パネルの外観

iDRAC9 dedicated network port on rear panel of Arcserve Appliance 9072DR-9504DR series models

アプライアンスから iDRAC の IP アドレスを検出できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンスの起動中にiDRAC IP をメモします。

F2 = System Setup F10 = Lifecycle Controller (Config IDRAC, Update FW, Install OS) F11 = Boot Manager F12 = PXE Boot	BIOS Version: 1.4.9 IDRAC IP: 10.57.25.
Initializing Firmware Int	erfaces Activate Windows go to Action Center to activate Win

2. ブラウザを起動して、https://<iDRAC-IP-address> に移動します。

← → C ▲ Not s	ecure https://10.57.25/restgui/start.html?lo	ogin	☆	θ
	Integrated F	Remote Access Controller 9		
	Type the	e User Name and Password and click Log In.		
	Username:	Password:		
	root			
	Domain:			
	This iDRAC	•		
• S	ecurity Notice: By accessing this compute	er, you confirm that such access complies with your organization's security policy.		
		Online Help Support About		

iDRAC ログインページが表示されます。

## iDRAC (Integrated Dell Remote Access Controller、X シリーズ)の IP アドレスの検出

Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルは、デフォルト で iDRAC 対応の DHCP を使用するよう設定されています。iDRAC にアクセスするには、iDRAC9 専用ネットワークポートに Ethernet ケーブルを接続します。Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルの背面 パネルおよび iDRAC9 専用ネットワークポートの詳細については、「X シリーズの背面 パネル」を参照してください。

#### x シリーズの背面パネルの表示

アプライアンスから iDRAC の IP アドレスを検出 できます。

#### 以下の手順に従います。

1. Arcserve アプライアンスの起動中にiDRAC IPをメモします。

Initializing Firmware Inte	erfaces	Activate Windows
F2 = System Setup F10 = Lifecycle Controller (Config iDRAC, Update FW, Install OS) F11 = Boot Manager F12 = PXE Boot	BIOS Version: 1.4.9 IDRAC IP: 10.57.25.	

2. ブラウザを起動して、https://<iDRAC-IP-address> に移動します。

<i>\</i>	$\rightarrow$ (	C	A Not secure   https://10.57.25/restgui/start.html?login		☆ <b>0</b>
l					
			Integrated Re	emote Access Controller 9	
			iDRA	AC-5Q6MHQ2   Enterprise	
			Type the Lise	er Name and Password and click I on In	
			Username:	Password:	
			root		
			Domain:		
			This iDRAC	•	
			Security Notice: By accessing this computer, yo	ou confirm that such access complies with your organization's security policy.	
				Log In	
			01	nline Help   Support   About	

iDRAC ログインページが表示されます。

## iDRAC の DHCP または静的 IP アドレスの設定

iDRAC に対して、DHCP ネットワークモードを設定することができます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve アプラインスの起動中に F2 キーを押して、システムのセット アップ 画面に切り替えます。

Entering Syster F10 = Lifecycle iDRAC, Upc F11 = Boot Man F12 = PXE Boo	m Setup Controller (Config late FW, Install OS) lager t	BIOS Version: 1.4.9 iDRAC IP: 10.57.25	
	nitializing Firmware Inte	rfaces	Activate Windows to Action Center to activate Windo

2. システム セット アップ メイン メニュー]画 面 で、 **[DRAC の設 定**]をクリックします。

System Setup	Help   About   Exit
System Setup	
System Setup Main Menu	
System BIOS	
iDRAC Settings	
iDRAC Settings allows you to configure iDRAC.	
Service Tag : 5QI	Activate Windows Go to Action Center to a <b>Finish</b> Window

146 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

3. [DRAC の設定]オプションで **ネット ワーク**]をクリックします。 ネット ワークの設定]フィールド が表示されます。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings		
iDRAC Settings Version	3.00.00.32	•
iDRAC Firmware Version	3.21.21.21 (Build 30)	
System Summary		
System Event Log		
Network		
Alerts		
Front Panel Security		
Media and USB Port Settings		
Lifecycle Controller		
Power Configuration		
Use this page to configure the network properties, of properties, IPMI settings, and VLAN settings.	common iDRAC settings, IPv4 and IPv6	
Service Tag: 5Q{	T	Go to Action Center to a <b>Finish</b> Win <mark>do</mark>

4. 専用ネットワークインターフェースを使用するには、 [NIC 設定の有効化] で **有効**]を選択し、 [NIC を選択]で **専用**]を選択します。

TWORK SETTINGS	
Enable NIC	O Disabled   Enabled
NIC Selection	Dedicated
Failover Network	None
MAC Address	
Auto Negotiation	O Off   O On
Auto Dedicated NIC	Disabled     O Enabled
Network Speed	○ 10 Mbps ○ 100 Mbps ⑧ 1000 Mbps
Active NIC Interface	Dedicated
Duplex Mode	O Half Duplex
MMON SETTINGS	
Register DRAC on DNS	Bisabled O Enabled

5. DHCP モードを設定するには、IPV4 設定の [Pv4 有効]および [DHCP 有 効]で、 有効]オプションを選択します。

DRAC Settings • Network				
Auto Config Domain Name	Disabled	<ul> <li>Enabled</li> </ul>		
Static DNS Domain Name				
PV4 SETTINGS				
Enable IPv4	O Disabled	Enabled		
Enable DHCP	O Disabled	Enabled		
IP Address	10.57.25			
Gateway	10.57.25			
Subnet Mask	255.255.255.	~		
Use DHCP to obtain DNS server addresses	Oisabled	O Enabled		
Preferred DNS Server	0.0.0.0			
Alternate DNS Server	0.0.0.0			
V6 SETTINGS				
<ul> <li>Select Enabled to enable NIC When NIC is and</li> </ul>	blod it activator the	romaining contr	ole in	
this group. When a NIC is disabled all communi-	cation to and (Pres	remaining contr	ols In	

148 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

**注**: iDRAC 専用ネットワークに静的 IP を設定する場合は、 **[Pv4 有効**]の 設定を **有効**]にし、 [DHCP 有効]の設定を **無効**]にします。ネットワーク 構成に従って、IP アドレス、ゲートウェイ、およびサブネット マスクを設定しま す。

RAC Settings • Network			
Auto Config Domain Name	Oisabled	O Enabled	
Static DNS Domain Name			
V4 SETTINGS			
Enable IPv4	O Disabled	Enabled	
Enable DHCP	Oisabled	⊖ Enabled	
IP Address	10.57.25		
Gateway	10.57.25		
Subnet Mask	255.255.255.	~	
Use DHCP to obtain DNS server addresses	Oisabled	O Enabled	
Preferred DNS Server	0.0.0.0		
Alternate DNS Server	0.0.0.0		
V6 SETTINGS			
Select Enabled to enable NIC. When NIC is ena	bled, it activates the	remaining controls in	

6. **警告**]ダイアログ ボックスで **戻る**]をクリックし、次に、 **完了**]- **[はい**]を クリックします。

ネットワーク情報が保存されます。



7. **成功**]ダイアログボックスで、**[DK**]をクリックします。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings		
iDRAC Settings Version	3.00.00.32	•
iDRAC Firmware Version	3.21.21.21 (Build 30)	
System Summary	Success	
System Event Log	Saving Changes	
Network	The settings were saved	
Alerts	successfully.	
Front Panel Security		
Media and USB Port Settings	ок	
Lifecycle Controller		
Power Configuration		
		-
		Activate Windows
Service Tag: 5Q		🛛 🖡 💊 Go to Action Center <mark>to a <b>Finish</b> Win</mark> do

iDRAC DHCP の設定が完了します。

8. 院了]- [はい]をクリックすると、セットアップが終了し、システムが起動します。



iDRAC に対して DHCP ネットワークモードが設定されます。

## 第8章: Arcserve アプライアンスのリストアまたは修復

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>ファクトリリセットのデバッグ</u>	. 154
7000-8000 シリーズ アプライアンスのブート オプションを使 用した Arcserve UDP ファクト リリセットの適用	.156
9012-9504DR シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファ クトリリセットの適用	159
X シリーズ アプライアンスのブート オプションを使 用した Arcserve UDP ファクトリリセッ トの適 用	162
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	.165
アプライアンスイメージ設定ユーティリティを使用したファクトリリセット イメージの置 換	
ハードドライブの取り外しおよび交換	.170
<u>データを保持しないベアメタル復旧(BMR)の実行</u>	.172
<u>ベアメタル復旧(BMR)とデータ保存の実行</u>	.187

## ファクトリリセットのデバッグ

このトピックでは、以下のエラーメッセージが表示された場合に、ファクトリリセット をデバッグする方法について説明します。



問題を解決するには、以下の手順を実行してください。

1. エラー メッセージで **トラブルシューティング** ]のドロップダウン オプションをク リックします。

以下のオプションが表示されます。

#### コマンド プロンプト

CMD (コマンド プロンプト) ダイアログ ボックスでは、いくつかの基本操作 を行うことができます。たとえば、フォルダ内にファイルが存在するかどうか の確認、ファイルのコピーと削除、ディスクレイアウト情報の取得を実行 できます。

ログの表示

「ログの表示]オプションでは、メモ帳にログを表示できます。ログを確認した後、「ファイル」- 店前を付けて保存」をクリックしてログを保存し、後で利用することもできます。

ファクトリリセットの再起動

問題の解決後、このオプションを選択すると、ファクトリリセットを再起動できます。

ヘルプ

[ヘルプ辞書]ダイアログボックスには、エラーの原因、基本分析、および解決策に関する情報が表示されます。この問題を解決するには、以下の手順を実行してください。共通の操作についてのヒントも表示されます。たとえば、ディスクレイアウトの取得方法、ファクリリセットのプロパティファイルコンテンツの取得方法、ログの保存方法などです。

2. 表示されるオプションの中から [ヘルプ]をクリックします。

画面には、複数のエラーコードとその詳細が表示されます。

۲	ファクトリリセット ヘルプ
Category:	
・ハルプ     ・ゴラー ・ゴラー ・ゴラーコード 1001 ・ゴラーコード 1002 ・ゴラーコード 1007 ・ゴラーコード 1015 ・ゴラーコード 1018 ・ゴラーコード 1018 ・ゴラーコード 1018 ・ゴラーコード 1019 ・ゴラーコード 1020 ・ゴラーコード 1051 ・ゴラーコード 1051 ・ゴラーコード 1053 ・ゴラーコード 1054 ・ビント ・disklayout の取得方法 ・ファクトリリセット プロパティフ ・ログの保存方法 ・ドアドレスの取得方法	<ul> <li> 専四: ブログラムが SSD ディスクを見つけることができません。 デバッグ: SSD ディスクが存在するかどうかを確認します。存在する場合は、ログを収集し、すべての情報を 添えて Arcserve サポートにお問い合わせください。 </li> <li> 手脂: <ol> <li>[トラブルシューティングブーン"[コマンド ブロンプト] から、コマンド ブロンプト (cmd) を開きま </li> <li>2. "diskpart" と入力し、Enter キーを押します。 <ol> <li>diskpart のバージョンが表示されます。</li> <li>「list disk」と入力し、Enter キーを押して、SSD が存在するかどうかを確認します。 </li></ol> </li> <li> list disk の詳細については、『ヒント"ーン" disklayout の取得方法"] を参照してください。  4また、詳細な分析のためにログを収集して保存する方法については、『ヒント"ーン"ログの保存方法"] も参照してください。 </li> </ol></li></ul>
	1

3. エラーメッセージに表示されるエラーコードの **ヒント**]に移動し、右側のパ ネルの下に表示されている指示に従います。

٥	ファクトリリセット へ	ルプ			
Category:					
⊡·∧µ7     ⊡·⊥5- □-F 1001	ステップ: 1. [トラブルシューデ 聞きます。 2. "diskpart" と入び diskpart のバー 3. DISKPART>"list 以下のようにディン テム ディスクです。	ィング『ーン" [コマンド ブ カし、Enter キーを押し3 ージョンが表示されます disk" と入力し、Enter スクの一覧が表示されま	ロンブト〕か とす。 。 キーを押し』 ます。通常、!	ら、コマンド ブロンブト (cr tす。 サイズが最も大きいディス?	nd) を つがシス
- エラ- コード 1022 - エラ- コード 1051 - エラ- コード 1052 - エラ- コード 1053 - エラ- コード 1054	ディスク <b>###</b> ディスク 0 ディスク 1	ステータス オンライン オンライン	サイズ 447G 8725G	空き容量ダイナミック 0B 0B	Gpt
<ul> <li>disklayoutの取得方法</li> <li>ファクトリリセットプロパティファイル</li> <li>ログの保存方法</li> <li>レアドレスの取得方法</li> </ul>	ここで、ディスク 11; 4. 「select disk く 「ディスク く上記で 5. 07570475711-1-1	まデータ ディスクであり、 (上記で取得したディスク (取得したディスク番号)	.ディスク 01 7番号>」と入: が選択され Entre ナーオ	は SSD ディスクです。 力し、Enter キーを押しまう ました。Jと表示されます。 5991 キオ	¢. ∨

該当するエラーを選択し、ヒントに表示される指示に従うと、ファクトリリセットの問題を解決できます。

## 7000-8000 シリーズ アプライアンスのブート オプションを 使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、Arcserve アプライアンスのブート メニューから適用することができます。 UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンスをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

**注**: UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップデータを保持するオプションを 選択することもできます。

以下の手順に従います。





2. ブート オプションの UDP ファクトリリセットを選択します。

Please select boot device:	
UEFI: Built—in EFI Shell Windows Boot Manager UDP Factory Reset Enter Setup	
↑ and ↓ to move selection ENTER to select boot device ESC to boot using defaults	8

ファクトリリセットに関するページが表示されます。

Factory Reset	
Performing a Factory Reset on your Arcserve Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job hi be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Applian	istory, reports and log entries ce.
Reverting to Arcserve UDP Version 7.0.4399.	
Preserve existing backup data.	
Reset	Cancel

Notes:

- デフォルトで、 既存のバックアップ データを保持 ]オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムの C:\ ボリュームのみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されないままになります。

- 既存のバックアップデータを保持]オプションの選択をオフにすると、
   元のオペレーティングシステムのC:\、X:\、Y:\の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。
- 1. リセット]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

1	Are you sure you want to perform a factory reset on your Arcserve UDP Appliance? Selecting
•	Reset will result in returning all settings to their factory defaults.
	All of your backup data will be deleted during the reset and will not be recoverable. If you do not
	want to delete your backup data, click Cancel and select "Preserve existing backup data".
	want to delete your backup data, click Cancel and select "Preserve existing backup data".

**トャンセル**]をクリックすると、Arcserve アプライアンス ユニットを再起動できます。

- 2. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。
  - ◆ 再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
  - シャット ダウン]をクリックしてアプライアンスを閉じます。

arcserve	Appliance
Factory Reset is restoring all of the deleted. The Arcserve UDP softwar	settings on the Arcserve Appliance to their factory defaults. All resources, job history, reports, and logs are being e is reverting to the version originally installed on the Appliance.
Reverting to Arcserve UDP	/ersion 7.0.4404.
Existing backup data is bein	ig preserved.
Facto	ry Reset Is Complete
	Your Arcserve Appliance has been returned to its factory defaults.
	Click Restart to restart the appliance and launch the Configuration Wizard or click Shut Down to shut down the appliance.
	Restart Shut Down
Factory reset is complete.	

## 9012-9504DR シリーズ アプライアンスのブート オプショ ンを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズのブート メニューから適用することができます。 UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンス 9012-9504DR シリーズをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

**注**: UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップデータを保持するオプションを 選択することもできます。

#### 以下の手順に従います。

1. キーボードのF11 キーを押して、ブート メニューを起動します。

 Integrated RAID Controller 1: UDP Factory Reset (統合 RAID コントロー ラ 1: UDP ファクトリリセット) ]ブート オプションを選択します。

Boot Manager
Boot Menu
Select UEFI Boot Option
Integrated RAID Controller 1: Windows Boot Manager
Integrated RAID Controller 1: UDP Factory Reset
UEFI Boot Option Maintenance
Boot From File
Add Boot Option
Delete Boot Option
Device Path : (Press <f1> for more help)</f1>
Activate Windo
Go to S Finish Con

ファクトリリセットに関するページが表示されます。

Factory Reset	
Performing a Factory Reset on your Arcserve Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports and log entries be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.	will
Reverting to Arcserve UDP Version 8.0.5628.430.	
Preserve existing backup data.	
▶	
Reset Cancel	Activa
	Go to Se

注:

- デフォルトで、既存のバックアップデータを保持]オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムのC:\ボリュームのみが再構築されます。X:\volumeおよびY:\volumeのデータは変更されないままになります。
- 既存のバックアップデータを保持]オプションの選択をオフにすると、 元のオペレーティングシステムのC:\、X:\、Y:\の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。
- 3. **リセット** ]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。

•	Are you sure you want to perform a factory reset on your Arcserve Appliance? Selecting Reset wi
	result in returning all settings to their factory defaults.
	All of your backup data will be preserved during the reset.

**トャンセル**]をクリックすると、Arcserve アプライアンス ユニットを再起動できます。

- 4. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。
  - 再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
  - **シャット ダウン**]をクリックしてアプライアンスを閉じます。

arcserve				
UICSCIVE A	ppliance			
Factory Reset				
Factory Reset is restoring all of the s deleted. The Arcserve UDP software	ettings on the Arcserve Appliance to their factory de is reverting to the version originally installed on the	lefaults. All resource e Appliance.	es, job history, report	ts, and logs are being
Reverting to Arcserve UDP Ve	rsion 8.0.5628.430.			
Existing backup data is being	preserved.			
Factory	Reset Is Complete			
	Your Arcserve Appliance has been returned to its factory	ry defaults.		
	Click Restart to restart the appliance and launch the Cor shut down the appliance.	nfiguration Wizard or	click Shut Down to	
		Restart	Shut Down	
Factory reset is complete.				

## X シリーズ アプライアンスのブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、Arcserve アプライアンス X シリーズのブート メニューから適用することができます。UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンス X シリーズをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

**注**: UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップデータを保持するオプションを 選択することもできます。

以下の手順に従います。

1. キーボードのF11 キーを押して、ブート メニューを起動します。

Initializing Firmware Int	erfaces	Activate Windo Go to System in Con
F12 = PXE Boot	I	
F10 = Lifecycle Controller (Config iDRAC, Update FW, Install OS) Entering Boot Manager	BIOS Version: 1.4.9 IDRAC IP: 10.57.25.18	
F2 = System Setup		

2. **組み込み RAID コントローラ1: UDP ファクトリリセット**]ブート オプションを 選択します。

Boot Manager	Help   About   Exit
Boot Manager	
Boot Menu	
Virtual Floppy Drive	
Virtual Optical Drive	
Embedded RAID Controller 1: windows Boot Manager	
windows Boot Manager	
Windows Boot Manager	
Embedded RAID Controller 1: Windows Boot Manager	
Embedded RAID Controller 1: UDP Factory Reset	
UEFI Boot Option Maintenance	
Boot From File	
Add Boot Option	

ファクトリリセットに関するページが表示されます。

Factor	y Reset						
Perform be dele	ning a Factory Reset on ted. The Arcserve UDP	your Arcserve Appli software will revert	ance will return all from its current ver	settings to their fact sion to the version o	ory defaults. All resource originally installed on the	es, job history, reports and log entri Appliance.	es will
	Reverting to Arcserv	e UDP Version 8.0.5	628.				
	Preserve existing	backup data.					
					▶		
						Activate Windows	
					Reset	- Go Cancelos to activate	

注:

- デフォルトで、 既存のバックアップデータを保持]オプションが選択されています。元のオペレーティングシステムの C:\ ボリュームのみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されないままになります。
- 既存のバックアップデータを保持]オプションの選択をオフにすると、 元のオペレーティングシステムのC:\、X:\、Y:\の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。
- 3. **リセット**]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。



**トキンセル**]をクリックすると、Arcserve アプライアンス ユニットを再起動できます。

- 4. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。
  - ◆ 再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
  - ◆ **シャット ダウン**]をクリックしてアプライアンスを閉じます。

Factory Reset is restoring a deleted. The Arcserve UDP	all of the settings on the Arcserve Appliance to their factory defaults. All resources, job history, reports, and logs are bein software is reverting to the version originally installed on the Appliance.
Reverting to Arcserv	e UDP Version 8.0.5628.
Existing backup data	a is being preserved.
	Factory Reset Is Complete
	Your Arcserve Appliance has been returned to its factory defaults.
	Click Restart to restart the appliance and launch the Configuration Wizard or click Shut Down to shut down the appliance.
	Restart Shut Down

# 環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用

ファクトリリセットを使用して、Arcserve アプライアンスをクリーンな未設定の状態に 戻すことができます。ファクトリリセットはArcserve UDP コンソールから適用できま す。

#### 以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールの 設定 ]タブで [ファクトリリセット]をクリックします。



デフォルトではすべてのバックアップデータが保存されます。

#### 注:

Arcserve UDP には、 既存のバックアップデータを保持 ]オプションが用意されており、既存のデータストアを保存することができます。

- 既存のバックアップデータを保持 ]オプションを選択した場合、C:\ volumeのみが再構築されます。X:\ volumeおよび Y:\ volumeのデータは 変更されないままになります。
- 既存のバックアップデータを保持 ]オプションを選択しない場合、C:\, X:\ および Y:\が再構築されます。
- 2. **ファクトリリセットを実行**]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。



3. 確認のダイアログボックスで、 **リセット** ]をクリックすると、ファクトリリセットが開始されます。

アプライアンスマシンが再起動され、ファクトリリセットが以下に表示されるとおりに実行されます。

Factory Reset
Factory Reset is restoring all of the settings on the Arcserve Appliance to their factory defaults. All resources, job history, reports, and logs are being deleted. The Arcserve UDP software is reverting to the version originally installed on the Appliance.
Reverting to Arcserve UDP Version 8.0.5628.430.
Existing backup data is being preserved.
Reinstalling Arcserve UDP: 52% Complete

ファクトリリセットの完了により、確認のダイアログボックスが表示されます。

- 4. 確認ダイアログボックスで、以下のいずれかのオプションを実行します。
  - ◆ 再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
  - **シャット ダウン**]をクリックしてアプライアンスを閉じます。

arcserve	
	ppliance
Factory Reset	
Factory Reset is restoring all of the sideleted. The Arcserve UDP software	ettings on the Arcserve Appliance to their factory defaults. All resources, job history, reports, and logs are is reverting to the version originally installed on the Appliance.
Reverting to Arcserve UDP Vo	ersion 8.0.5628.430.
Existing backup data is being	preserved.
Existing succup data is setting	
Factory	Reset Is Complete
	Your Arcserve Appliance has been returned to its factory defaults.
	Click Restart to restart the appliance and launch the Configuration Wizard or click Shut Down to shut down the appliance.
	Restart Shut Down
Factory reset is complete.	

## アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを使用した ファクトリリセット イメージの置換

アプライアンス イメージ設定 ユーティリティ ツールを使用 すると、現行 システムの元 のアプライアンス イメージを Arcserve アプライアンス の利用可能 バージョンの該当 するアプライアンス イメージに置き換えることができます。

ユーティリティの実行後、Arcserve UDP コンソールで利用可能なファクトリリセットを 実行し、アプライアンスをファクトリデフォルト設定で Arcserve アプライアンスの目 的のリリース済みバージョンに戻します。アプライアンスイメージ設定ユーティリティ は、Arcserve アプライアンス v6.5 Update 1 以降のリリースで利用可能です。

注:置換に使用するアプライアンスイメージは、*にインストールされている元の* Arcserve UDP バージョンArcserve アプライアンスより上位のバージョンにする必要が あります。Arcserve アプライアンス イメージを別の Windows オペレーティング システムのバージョンに置き換えることはできません。

元のArcserve UDPのバージョンを確認するには、Arcserve UDPコンソールにログインし、 設定]に移動して、バージョンの詳細の ファクトリリセット]を選択します。

#### Factory Reset

Performing a Factory Reset on your Arcserve UDP Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log entries will be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.

 Current Arcserve UDP Version:
 6.5.4175 update 4 build 1223

 Original Arcserve UDP Version:
 6.5.4175 update 4 build 1223

Preserve existing backup data.

Perform Factory Reset

注:上記の画面では、Arcserve アプライアンス v6.5 Update4 と表示されていますが、Arcserve アプライアンスのリリースバージョンによっては異なる場合があります。

Arcserve アプライアンス v6.5 Update 4 のファクトリ リセット イメージをアプライアンス 9000 シリー ズのアプライアンス 7.0 ファクトリ リセット イメージに置き換 えるサンプル シナリオ

以下の例では、ファクトリリセット イメージを置き換える処理について説明します。 別のバージョンでも同じ処理を実行できます。

アプライアンス イメージ設 定 ユーティリティを使 用して Arcserve アプライアンス 6 4 を Arcserve アプライアンス v Update 7.0 に戻 す方 法

#### 以下の手順に従います。

- Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのアプライアンス ファクトリリセット イメージをダウンロードし、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを実行します。以下の手順を実行し、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを使用します。
  - a. 7.0 のファクトリリセット イメージをダウンロード するには、<u>Arcserve サ</u> ポートにお問い合わせください。
  - b. Windows コマンド ラインを開いて、以下 のコマンドを入力します。

C:\Program files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\bin\Appliance\SetImage.exe – applianceimage <Fullpath of the appliance image just downloaded> 終了したアプライアンス イメージの確認手順が完了したら、以下の

クエリが表示されます。

appliance.wim ファイルを置き換えてもよろしいでしょうか? <y/n>

c. イメージを置き換えるには「y」または「yes」を入力し、実行を終了す るには「n」または「no」を入力します。
イメージの複製が完了すると、コマンドラインには、以下のメッセージが表示されます。

アプライアンスイメージの置換が完了しました。



2. Arcserve アプライアンス 7.0 に戻すには、以下 の手順を実行します。

**注**: Arcserve UDP コンソールでのアプライアンス ファクトリリセット イメージの 置換後、元の Arcserve UDP バージョンは目的のアプライアンス リリース バージョンに変更されます。

a. Arcserve UDP コンソールから、 **設定**]に移動し、 **ファクトリリセット**] を選択します。

Factory Reset

Performing a Factory Reset on your Arcserve UDP Appliance will return all settings to their factory defaults. All resources, job history, reports, and log entries will be deleted. The Arcserve UDP software will revert from its current version to the version originally installed on the Appliance.

Current Arcserve UDP Version: 6.5.4175 update 4 build 1223

Original Arcserve UDP Version: 7.0.4455

Preserve existing backup data.

Perform Factory Reset

*元のArcserve UDP バージョン*は、Arcserve アプライアンス 7.0 に変更 されます。

**注:** アプライアンスイメージの置換後に、 元のArcserve UDP バー ジョン]に目的のアプライアンスリリースバージョンが表示されていない場合は、ページを再度読み込みます。

b. **ファクトリリセットの実行** ]をクリックすると、現在のバージョンのアプライアンスから、新しい Arcserve アプライアンス 7.0 バージョンに戻ります。

ファクトリリセットの詳細についてはこちらのリンクを参照してください。

# ハードドライブの取り外しおよび交換

Arcserve アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き 正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に 対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる 限り早くハードドライブを置き換える必要があります。

Arcserve アプライアンス には、4 つのハード ドライブ キャリアが含まれており、左から 右に0、1、2、3 とラベルが付けられています。一度に複数のハード ドライブを交 換する場合、各ドライブ キャリアでどのドライブが交換されたかがわかるように、交 換したハード ドライブにラベルを付ける必要があります。 アプライアンスから取り外 したハード ドライブにもラベルを付け、 どのドライブ キャリアによって占有されていた かがわかるようにします。

**重要:** ハードドライブは静電気に敏感なデバイスであり、損傷しやすいため、ハードドライブを扱う場合は適切な保護対策を講じてください。

- 静電気の放電を防ぐためにリストトラップを着用してください。
- 交換用ハードディスクを帯電防止のパッケージ袋から取り出す前に、接地された物体に触れるようにします。
- ハードドライブを扱う際は常に端のみを持つようにし、底面の露出している部品には一切触れないでください。

### 以下の手順に従います。

- ドライブホルダーにアクセスするには、まずフェースプレートを取り外す必要があります。
  - a. フェースプレートのロックを解除します。
  - b. 取り外し用つまみを押してフェースプレート ピンを格納します。
  - c. フェースプレートを慎重に取り外します(両手を使用)。
- 2. ドライブ キャリアの取り外し用ラッチを押します。これにより、ドライブ キャリア ハンドルが展開されます。



ハンドルを使用して、アプライアンスの前面からドライブキャリアを引き出します。ハードドライブは、アプライアンスに対する取り付け/取り外しを簡単に行うことができるよう、ドライブキャリアにマウントされています。これらのキャリアは、ドライブベイに適切な換気が行われるようにするのにも役立ちます。

**重要:**短時間の場合を除き(ハードドライブの交換など)、ドライブキャリア が完全に設置されていない状態でアプライアンスを稼働させることはしない でください。

- 古いハードドライブをドライブキャリアから取り外し、新しいハードドライブを 設置します。その際、交換用ハードドライブが正しい向きであるかに注意 し、ラベルが上部、部品が下部にきていることを確認します。
- 5. ドライブトレイがアプライアンスに完全に設置されるまでスライドし、ドライブ キャリア ハンドルを閉じて固定します。



6. ドライブを返却する場合は、返却に関する指示を Arcserve サポートから取得します。

# データを保持しないベアメタル復旧(BMR)の実行

Arcserve アプライアンスでは、Arcserve UDP ブート キットを使用して、ベアメタル復旧を実行できます。

# 以下の手順に従います。

 アプライアンスで Arcserve UDP ブートキット ウィザードを実行し、x64 プラット フォームでブート可能な BMR ISO イメージまたは USB スティックを生成します。

注: ISO イメージにはローカルドライバを含める必要があります。ローカルド ライバを含めるには、「ベアメタル復旧用のブートキットの作成]ウィンドウで 「ローカルドライバを含む]オプションを選択します。 ブートキットの作成方法 の詳細については、このリンクを参照してください。

ou can integrate additiona rocess is launched.	drivers into the BMR ISO im	iage, so that	they can be loaded when the BMR
Manufacturer	Version	Platform	Path
Intel	12/08/2016, 12.14.7.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem43.inf
Intel	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem9.inf
MS_HDC, INTEL_HDC.	. 06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf
LSI	03/06/2015, 6.707.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem8.inf
INTEL	08/19/2016, 10.1.2.80	x64	C:\WINDOWS\INF\oem45.inf
AMD.Section, ACER.S	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbport.inf
INTEL	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem47.inf
GENDEV_SYS, ACC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\machine.inf
Lieneric	10/08/2017, 10.0.14	x64	U:\WINDUWS\INF\usbxhci.inf

2. BMR ISO イメージまたは USB スティックを使用して、Arcserve アプライアンス を起動します。

Arcserve ベアメタル復旧のセットアップ画面が表示されます。

3. 必要な言語を選択して、 次へ]をクリックします。

arcserv	<b>e</b> ° bare	metal recovery
English		
Keyboard	Layout:	
US		~
	N	ext

4. **Arcserve Unified Data Protection のバックアップからのリストア**]オプション を選択し、**次へ**]をクリックします。

arc	Serve bare metal recovery
Bare Metal I - <i>Select th</i>	Ecovery(BMR) Recovery(BMR) Recovery(BMR)
	Select type of restore source:
	Restore from a Arcserve Unified Data Protection backup     Use this option to perform a restore from either a backup destination folder or a data store.
	Recover from a virtual machine
	Use this option to perform a virtual-to-physical (V2P) restore from a virtual machine created by Virtual Standby or Instant VM
	O Source is on a VMware machine
	Source is on a Hyper-v machine

**復旧ポイントの選択**]ウィザードのウィンドウが表示されます。

5. 後照]をクリックして、 復日ポイント サーバから参照]を選択します。

Bare Metal Recovery(BMR) - Select a Recovery Point	The following backed up machines are	detected:		
The top pane displays all backed up machines and heir backup destinations. If you click on a machine, you can then see the associated recovery points on the bottom pane. Select a recovery point to continue. Note: By default, only the backed up machines that are detected from local volumes are listed		Backed up Info Host Name: Operating Sy	stem:	
nere. After a new removable dask is attached or detached, you can click "Refresh" the mytyine list. fou can also click "Browse" to add any baked up machines from the remote shared folder or the data store.		DNS Suffix: Source:		
If you fail to browse the remote shared folder, it may be because the NIC driver is not installed or the IP address is incorrect. If necessary, you can			Refresh	Bro <u>w</u> se 🔻
Sisting to lourer element comparatori				
dity	The following recovery points are dete	cted for the specified machine. Select a rec	covery point a	om Recovery Point Server
6 Network Adapter(s) Detected	The following recovery points are dete	cted for the specified machine. Select a rec	overy point a	om Recovery Point Server

[ノードの選択]ウィンドウが表示されます。

- 6. 復旧ポイント サーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート、およびプロ トコルを入力します。
- 7. 接続]をクリックします。
- 8. 接続が確立されたら、 [DK]をクリックします。

Wit Name:	appliance7501	~	Port:	8014
Jser Name:	administrator		Protocol:	
assword:	•••••			Connect
		Node ID	095	1fd5c-3dd2-4968-be64-5eaef.

**ビアメタル復旧(BMR) - 復旧ポイントの選択**]ダイアログボックスが表示 されます。

9. リストアする復旧ポイントを選択して、 次へ]をクリックします。

#### データを保持しないペアメタル復旧(BMR)の実行

Bare Metal Recovery(BMR) - Select a Recovery Point	The following backed up machines are detect	ted:		
The top pane displays all backed up machines and their backup destinations. If you click on a machine, you can then see the associated recovery points on the bottom pane. Select a	appliance 7205	Backed up Information Host Name:	appliance7205	
recovery point to continue. Note: By default, only the backed up machines		Operating System:	Windows Server 201	5 X64
that are detected from local volumes are listed here. After a new removable disk is attached or detached, you can dick "Refresh" the machine list. You can also dick "Browse" to add any backed up		DNS Suffix:	arcserve.com	
machines from the remote shared folder or the data store.		Source:	Recovery Point Serve	er
the IP address is incorrect. If necessary, you can perform the following: <u>Click here</u> to launch the load driver utility <u>Click here</u> to launch the network configuration utility	The following recovery points are detected 5/28/2018 10:00:15 PM 2:41:41 AM 0 5/27/2018 0 5/26/2018 0 5/25/2018 0 5/25/2018	for the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dete	Refresh nd continue: cted from current system	Browse
	(1) 10:00:11 PM (1) 1:39:14 AM	Recovery Point Server: app Recovery Point Server data Node ID: 0951fd5c-3dd2-49	iance7501 store: appliance7501_data_st 68-be64-5eaefeeb079d	ore
6 Network Adapter(s) Detected		Backup Description:		
Intel(R) 1350 Ginabit Network Connection - IP Address: 10.10.255.255 - Status: Connected		Boot Firmware: - UEFI		
Intel(R) I350 Gigabit Network Connection #2 - IP Address: 0.0.0.0 - Status: Disconnected		Backed up Volumes (Used <	Size/Total Size/Minimum	Size Required):
▲ <u>U</u> tilities			Back Next	Abort

10. (オプション)要求された場合はセッションパスワードを入力し、 [DK]をクリックします。

ter Session Password	
•	ок
Current password length: 1 characters	Cancel

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

11. 拡張モード ]を選択し、 次へ]をクリックします。

Which recovery mode do you want to use?		
O Express Mode		
The express mode will recover the system automatically with minimal user interaction by using the machine default settings.		
Advanced Mode		
The advanced mode will assist you in customizing the restore process. Using this mode you will be able to: Select where to restore data on basic volumes or dynamic disks.		

**[ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整**]ダイアログ ボックスが表示されます。

12. 使用可能な最大のGUID パーティション テーブル(GPT) ディスクを右クリックし、 **ディスクの消去**]をクリックします。

Bare Metal Recovery(BMR) - Adjust Disk Partitions	Current Destination D	isk/Volume Layouts				Qperations 🔻
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume. After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the		Reset Commit	rstem Partiti (	C:\ (155.73 GB) (447.13 GB)	₩ \\?\Volume(4dd 1	(18394.96 GB)
corresponding operation options. Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu.	Disk 2 (1 447.13	Map Disk From Clean Disk		(447.13 GB)		
The disk/volume changes you make will not take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all changes.		Convert to GPT Convert to Basic Convert to Dynamic	_			
	Original Source	Online Disk Disk Properties				
	<ul> <li>Disk 0 (MBR) 111.79 GB</li> </ul>	<u></u>		Y:\ (111.79 GB)		() (1)
	<ul> <li>Disk 1 (GPT) 7451.00 GB</li> </ul>	\\?791b) EF	1 System Partiti()	C:\ (155.73 GB) 🍵	\\?\Volume(4dd 1)	X:\ (7218.46 GB) 🕧

13. ディスクを消去した後、同じディスクを右クリックして ロミット ]をクリックします。

Bare Metal Recovery(BMR) - Adjust Disk Partitions	Current Destination D	isk/Volume Layouts	Operations
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume.	+//b/d/b/b/b/b///// ////////////////////	Reset	(18627.37 GB)
After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the corresponding operation options.	<ul> <li>Disk 1 (ME 447.13 G</li> </ul>	Commit	(447.13 GB)
Note: If there is no mouse attached in your	Disk 2 (MB	Map Disk From	/447 12 (20)
environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu	447.13 GE	Clean Disk	(447, 13 00)
key to display the menu. The disk/volume changes you make will not		Convert to MBR	
from the Operations menu or click "Next" to		Convert to GPT	
commit all changes.		Convert to Basic	
		Convert to Dynamic	
	Original Source Di:	Online Disk	
		Disk Properties	
	<ul> <li>Disk 0 (МВк) 111.79 GB</li> </ul>		Y:\ (111.79 GB)
	<ul> <li>Disk 1 (GPT) 7451.00 GB</li> </ul>	\\?791b	n Partiti

ディスク変更のサブミット]ウィンドウが表示されます。

14. [サブミット]をクリックします。

Operation	Details
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{821d05a8-3ecd-436f-a497-cc04fb3e4708}\
Delete Volume	Volume Path[C:\]
Delete Volume	Volume Path[F:\]
Delete Volume	Volume Path[D:\]
🕖 Clean Disk	Clean Disk [0]

15. ディスクの消去が完了したら、 [DK]をクリックします。

Operation	Details
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\]
Delete Volume	Volume Path[\\?\Volume{821d05a8-3ecd-436f-a497-cc04fb3e4708}\]
Delete Volume	Volume Path[C:\]
Delete Volume	Volume Path[F:\]
Delete Volume	Volume Path[D:\]
Clean Disk	Clean Disk [0]

16. [ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整]ダイアログボック スで 戻る]をクリックします。

#### データを保持しないペアメタル復旧(BMR)の実行

Bare Metal Recovery(BMR) - Adjust Disk Partitions		Current Destination Disk/	Volume Layouts
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume.			(18627.37 GB)
After selecting a disk/volume, you can then right-click the mouse button, and display the corresponding operation options.	l	<ul> <li>Disk 1 (MBR) 447.13 GB</li> </ul>	(447.13 GB)
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu. The disk/volume changes you make will not take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or dick "Next" to commit all changes.		<ul> <li>Disk 2 (MBR) 447.13 GB</li> </ul>	(447.13 GB)
		Original Source Disk/Volur Disk 0 (MBR) 111.79 GB	me Layouts Y:\ (111.79 GB)
		<ul> <li>Disk 1 (GPT) 7451.00 GB</li> </ul>	17/16/16/19/1/10 EFI System Partiti C:\ (155.73 GB) 👔 \\?\Volume(4dd 1 👔 X:\ (7218.46 GB) 👔
	>	Unallocated Priv	imary
▲ <u>U</u> tilities			Back Next Abort

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

17. 高速モード ]を選択し、 次へ]をクリックします。

Express Mode     The express mode will recover the system automatically with minimal user interaction by using the     machine default settings.	
Advanced Mode     The advanced mode will assist you in customizing the restore process. Using this mode you will be     able to:     Select where to restore data on basic volumes or dynamic disks.     Insert device driver before reboot.	

[BMR]ダイアログ ボックスが表示されます。

18. 【はい】をクリックします。

BMR			8
?	The next step may result in complet you want to continue?	e loss of data on the	machine. Do
	R	Yes	No

[リストア設定のサマリ]ダイアログボックスが表示されます。

19. [+ャンセル]をクリックします。

Source Disk De:	stination Disk
ummary of Volume Restore Settings:	Destination Volume
V2\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\ (30	0 MB) \\?c06aa5e0-adb9-4849-8b15-20
EFI System Partition (99 MB)	\/?e3db4483-19ad-4550-8e0e-06
C:\(155.73 GB)	\\?257b3c2a-9cf1-44a0-a8b3-225
() \\?\Volume{4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901} \ (76	.29 GB) \\?98fb5326-630f-4842-82fa-48b
c	
nfirm your restore settings and dick OK to continue. If you wa	int to adjust restore settings manually, dick Cancel.

[ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整]ダイアログボックスが表示されます。

20. **現在のデスティネーション ディスク/ボリュームのレイアウト**]タブで使用可能な最初の4つのパーティションの容量が、 **元のソース ディスク/ボリュームのレイアウト**]タブで使用可能な最大のGPT ディスクとー致するかどうかを比較して確認し、**次へ**]をクリックします。

**注:** パーティションのサイズを表示するには、ディスクの上にマウスカーソルを移動させて、ディスクプロパティを表示します。

Bare Metal Recovery(BMR) - Adjust Disk Partitions	Current Destination Disk/Volume Layouts	Operations 🔻
You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume.	Disk 0 (GPT)     18627.50 GB     117.Volume(791b     EFI System Partiti     C:\ (155.73 GB)     117.Volume(4dd 1	(18394.96 GB)
After selecting a disk/volume, you can then right-dick the mouse button, and display the corresponding operation options.	Disk 1 (MBR)     Destination Volume: \\7/Volume(03331745-9734-4066-bd25-693087d5826b)\     File System Type : RAW	
Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu. The disk/volume changes you make will not take get into effect until you select "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all changes.	Disk 2 (MBR)     Capacity : 300MB     Date on this volume will be restored from original volume "\\?\Volume[791b09]     Bdfb-1fa02793003f]\:	15-1396-4e8d-
	Original Source Disk/Volume Layouts	
	- Disk 0 (MBR) 111.79 GB	(/////////////////////////////////////
	Disk 1 (GP7)     7451.00 GB     11?\Volume(791b) EFI System Partiti() C:\ (155.73 GB) () 1\?\Volume(4dd 1)	() X:\ (7218.46 GB)
	Unallocated Primary	
	Back	Next <u>A</u> bort

[リストア設定のサマリ]ダイアログボックスが表示されます。

21. **[DK**]をクリックします。

Immary of Volume Restore Settings:         Source Volume       Destination Volume         \\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\(300 MB)       \\?03331745-9734-4066-bd25-69.         EFI System Partition (99 MB)       \\?\Volume{b9994f56-8c58-4bbf-bd7a-85a.         C:\(155.73 GB)       \\?\Volume{496da605-7066-442c-8ea2-c3	Source Disk Destina	tion Disk
\\?\Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\(300 MB)         \\?03331745-9734-4066-bd25-69.           EFI System Partition (99 MB)         \\?\Volume{b9994f56-8c58-4bbf-bd7a-85a.           C:\(155.73 GB)         \\?\Volume{496da605-7066-442c-8ea2-c3	ummary of Volume Restore Settings:	Destination Volume
PEFI System Partition (99 MB)         \\?b9994f56-8c58-4bbf-bd7a-85a.           C:\(155.73 GB)         \\?\Volume{496da605-7066-442c-8ea2-c3	Volume (791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003fb) (300 MB	) \\203331745-9734-4066-bd25-69
C:\(155.73 GB) \\?496da605-7066-442c-8ea2-c3	EFI System Partition (99 MB)	//?/Volume/b9994f56-8c58-4bbf-bd7a-85a
그는 것 같은 것 같	C:\ (155.73 GB)	\\?496da605-7066-442c-8ea2-c3
Volume{4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901}\(76.29 GB) \/?59eaea46-103c-45e3-b0ed-55	$() \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	B) \\?59eaea46-103c-45e3-b0ed-55
c	<	3

Bare Metal Recovery(BMR)- Start Recovery Process (ベアメタル復旧 (BMR) - 復旧プロセスの開始)]ダイアログボックスが表示されます。

22. **再起動後にエージェント サービスを自動的に開始しない**]オプションをオフにして、リストアの完了を待ちます。

Bare Metal Recovery(BMR) - Start Restore Process	Summary of Restore Settings			
his page displays a summary of the disk/volume	Restore Item	Status	Progress	Throughput
estore settings that you have made.	@Restore source volume '\/?/Volume{791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\'	Completed	100.0%	367.44 MB/Minute
ote: After the BMR process is complete and	Restore source volume 'EFI System Partition' to current destination disk 0	Completed	100.0%	967.90 MB/Minute
ver has been rebotted, you may not want to from backup jobs from this server. If you are it testing the BMR functionality, we recommend at you select the 'Do not start Agent service tomatically after reboot' option. hen you select this option, you can manually in the Agent service (and the Recovery Point river service, if installed) after reboot if you int to perform backup jobs. able Windows F8 boot option helps user from further recovery or troubleshooting after R. For example, press F8 and boot into Active ectory Service Restore mode to perform Active ectory authoritative restore.	Restore source volume 'Cly to current destination disk 0 Restore source volume '\\?\Volume(4dd1123f-0464-4cd6-9df0-1ab9b95c8901)\' Automatically reboot your system after recovery.	Restoring Not Started	0.8%	2705.50 M8/Minute
	Do not start Agent service automatically after reboot.			
	Boot the system to Advanced Boot Options (F8) Menu on the next boot for Windows	8 / Windows Serv	ver 2012 and later	OS.
	Elapsed Time: 00 : 00 : 24			
	Estimated Time Remaining: 01:30:50			
	[0.8%] [576MB/76631MB] Restoring basic source volume 'C: \' to current destination dis	k 0		

# **[ベアメタル復旧(BMR) - デバイスドライバのインストール**]ダイアログ ボック スが表示されます。

23. RAID コントローラで必要なドライバを選択し、 次へ]をクリックします。

Eare Metal Recovery(BMR)	Provide drivers for following devices:	
An incompatibility problem has been detected and BMR is unable to find suitable driver for some device(s). The operating system of the host being recovered may be different than the operating system that was created on the BMR ISO image. Please select an appropriate driver for the device(s) or add a new driver by clicking "Add Driver" button.	appliance 7205     appliance 7205     Sage LSI Adapter, SAS2 2008 Falcon     Sage AVAGO MegaRAID SAS Adapter	Property         Description           Vendor         LSI Logic / Symbios Logic           Manufacturer         AvagoTech           Class         SCSIAdapter           Driver Description         AVAGO MegaRAID SAS Adapter           Hardware ID         PCI/VEN_10008DEV_00SD&SUBSY
	Available Driver(s):          Driver         megasas2.inf         megasas2.inf(1)         megasas2.inf	Property         Description           Version         03/02/2015, 6.706.06.00           Manufacturer         LST, DELL           Class         SCSIAdapter           Service         megasas           INF Path         C:\WIDNDOWS\System32\driverStore\FileRepository\megasas.inf_a
	Insert Driver	<
▲ <u>U</u> tilities	1	Back Next Abort

再起動]ポップアップウィンドウが表示され、Arcserve アプライアンスが自動的に再起動します。

Click Refloot to automatically reboot your system at this time. If you want to collect all BMR log files you can use the Activity log utility. <u>Click here</u> to launch the Activity Log utility.

	Reboot	<u>C</u> ancel	
<u>_</u>	L		

BMRの処理が正常に完了しました。

# ベアメタル復旧(BMR)とデータ保存の実行

Arcserve アプライアンスでは、Arcserve UDP ブート キットを使用して、ベアメタル復旧を実行できます。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスで Arcserve UDP ブートキット ウィザードを実行し、x64 プラット フォームでブート可能な BMR ISO イメージまたは USB スティックを生成しま す。

**注:** ISO イメージにはローカルドライバを含める必要があります。ローカルド ライバを含めるには、「ベアメタル復旧用のブートキットの作成]ウィンドウで 「ローカルドライバを含む]オプションを選択します。ブートキットの作成方法 の詳細については、このリンクを参照してください。

Manufacturer	Version	Platform	Path
Intel	12/08/2016.12.14.7.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem43.inf
Intel	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem9.inf
MS_HDC, INTEL_HDC.	. 06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\mshdc.inf
LSI	03/06/2015, 6.707.0	x64	C:\WINDOWS\INF\oem8.inf
INTEL	08/19/2016, 10.1.2.80	x64	C:\WINDOWS\INF\oem45.inf
AMD.Section, ACER.S	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbport.inf
INTEL	07/30/2013, 9.4.2.10	x64	C:\WINDOWS\INF\oem47.inf
GENDEV_SYS, ACC	06/21/2006, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\machine.inf
Generic	10/08/2017, 10.0.14	x64	C:\WINDOWS\INF\usbxhci.inf

2. BMR ISO イメージまたは USB スティックを使用して、Arcserve アプライアンス を起動します。

Arcserve ベアメタル復旧のセットアップ画面が表示されます。

3. 必要な言語を選択して、 次へ]をクリックします。

arcse	erve	bare metal recovery
	English	
	Keyboard Layout:	
	US	

4. **Arcserve Unified Data Protection のバックアップからのリストア**]オプション を選択し、 **次へ**]をクリックします。

arcs	serve	bare metal recovery
Bare Metal Reco - Select the ty	 overy(BMR) /pe of backup for BMR	
	Select type of r	restore source:
	Restore from Use this option to p	n a Arcserve Unified Data Protection backup perform a restore from either a backup destination folder or a data store.
	O Recover from	n a virtual machine
	Use this option to p Instant VM	perform a virtual-to-physical (V2P) restore from a virtual machine created by Virtual Standby or
	O Source is on a V	/Mware machine
	O Source is on a H	Hyper-v machine
復旧ポイント	<b>ヽの選択</b> ]ウィザ・	ードのウィンドウが表示されます。

5. 後照]をクリックして、 復日ポイント サーバから参照]を選択します。

detected:
Backed up Information
Host Name:
Operating System:
DNS Suffix:
Source:
Refresh Browse 💌
Browse from network/local path
scted for the specified machine. Select a recovery point a Browse from Recovery Point Server

[ノードの選択]ウィンドウが表示されます。

- 6. 復旧ポイント サーバのホスト名、ユーザ名、パスワード、ポート、およびプロ トコルを入力します。
- 7. 接続]をクリックします。
- 8. 接続が確立されたら、 [DK]をクリックします。

Name:	appliance 7501	~	Port:	8014
loge Homes			Porta	
Jser Name:	administrator		Protocol:	
assword:	•••••	1		Connect
		DNS Suffix Node ID	arcs 095	erve.com 1fd5c-3dd2-4968-be64-5eaef

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧ポイントの選択]ダイアログボックスが表示 されます。

9. リストアする復旧ポイントを選択して、 次へ]をクリックします。

#### ベアメタル復旧(BMR)とデータ保存の実行

Bare Metal Recovery(BMR) - Select a Recovery Point	The following backed up machines are dete	cted:	
he too pane displays all backed up machines and		Backed up Information	
heir backup destinations. If you dick on a hachine, you can then see the associated ecovery points on the bottom pane. Select a ecovery point to continue.	appliance7205	Host Name:	appliance7205
ote: By default, only the backed up machines		Operating System:	Windows Server 2016 X64
hat are detected from local volumes are listed ere. After a new removable disk is attached or etached, you can click "Refresh" the machine list. bu can also click "Browse" to add any backed up		DNS Suffix:	arcserve.com
achines from the remote shared folder or the ata store.		Source:	Recovery Point Server
you fail to browse the remote shared folder, it			
The IP address is incorrect. If necessary, you can			<u>R</u> efresh Bro <u>w</u> se 👻
lick here to launch the load driver utility	2		
lick here to launch the load driver utility ick here to launch the network configuration ality	The following recovery points are detected 5/28/2018 10:00:15 PM 2:41:41 AM 9:5/27/2018 5/28/2018 5/28/2018 5/28/2018 10:00:15 PM 10:00:15	for the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dete - Recovery Point Server appl - Recovery Point Server data - Node ID: 0951fdSc-3dd2-49 Backup Description:	nd continue: cted from current system): iance7501 store: applance7501_data_store 68-be64-Seaefeeb079d
Ick here to launch the load driver utility Ick here to launch the network configuration ality Network Adapter(s) Detected	The following recovery points are detected 5/28/2018 10:00:15 PM 2:24:41 AM 5/27/2018 5/26/2018 5/25/2018 5/25/2018 1:39:14 AM	for the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dete - Recovery Point Server: appl) - Recovery Point Server data - Node ID: 0951fdSc-3dd2-49 Backup Description: -	nd continue: cted from current system): iance7501 store: appliance7501_data_store 68-be64-Seaefeeb079d
Isk here to launch the load driver utility Isk here to launch the network configuration ality Intervent Adapter(s) Detected net(R) 1350 Ginshit Network Connection - IP Address: 10, 10, 255, 255 - Status: Connected	The following recovery points are detected 5/28/2018 10:00:15 PM 2:41:41 AM 5/27/2018 5/26/2018 5/25/2018 10:00:11 PM 11:39:14 AM	for the specified machine. Select a recovery point a AR Status: - Backup Type: - Incremental Backup Backup Destination (Dete - Recovery Point Server adta - Node ID: 0951fd5c-3dd2-49 Backup Description: - Boot Firmware: - UEFI	nd continue: cted from current system): iance7501 store: applance7501_data_store 68-be64-Seaefeeb079d

10. (オプション)要求された場合はセッションパスワードを入力し、 **DK**]をクリックします。

ter Session Password	
•	ок
Durrent password length: 1 characters	Cancel

[ベアメタル復旧(BMR) - 復旧モードの選択]ダイアログボックスが表示されます。

11. 拡張モード ]を選択し、 次へ]をクリックします。

Which recovery mode do you want to use?	
○ Express Mode	
The express mode will recover the system automatically with minimal user interaction by using the machine default settings.	
Advanced Mode	
The advanced mode will assist you in customizing the restore process. Using this mode you will be able to:	

# 12. 「**ベアメタル復旧(BMR) - ディスクパーティションの調整**」ダイアログ ボック スで [次へ]をクリックします。

You can adjust the disk/volume configuration on this screen. You can also select data to restore from the original source disk/volume to the current destination disk/volume. After selecting a disk/volume, you can then right- click the mouse button, and display the	Disk 0 (GPT)         Image: Control of the system Partition         Image: Control of the system Part	
corresponding operation options. Note: If there is no mouse attached in your environment, you can select a disk/volume with TAB and Arrow keys, then press the Menu key to display the menu. The disk/volume changes you make will not take get into effect until you elect "Commit" from the Operations menu or click "Next" to commit all changes.		
	Original Source Disk/Volume Layouts	4
	223.57 GB Y:\ (223.57 GB)	(1)
	Disk 1 (GPT)     18616.32 GB     1\7\Volume(791b)     EFI System Partiti     C:\ (155.73 GB)     ()     17\Volume(4dd1)     X:\ (18383.77 GB)     X:\ (18383.77 GB)	222 1
	Primary	
▲ Utilities	Bock Next Ab	bort

# 13. ディスクリストア設定のサマリ]画面で、[DK]をクリックします。

	Destination Disk	
mary of Volume Restore Settings:		Test coar
Durce Volume	Destination Volume	On Disk
C:\(155.73 GB)	C:\(155.73 GB)	Disk 0
\\?791b0915-1396-4e8d-8dfb \	\\?791b0915-1396-4e8d-8dfb-1fa	Disk 0
EFI System Partition (99 MB)	G:\(76.29 GB) \\?821d05a8-3ecd-436f-a497-cc0	Disk 0

14. Bare Metal Recovery(BMR)- Start Recovery Process (ベアメタル復旧 (BMR) - 復旧プロセスの開始) ]ダイアログボックスで、 再起動後にエー ジェント サービスを自動的に開始しない]オプションをオフにして、リストアの 完了とマシンの再起動を待ちます。

Bare Metal Recovery(BMR) - Start Restore Process	Summary of Restore Settings				
This page displays a summary of the disk/volume	Restore Item		Status	Progress	Throughput
estore settings that you have made.	Restore source volume 'C:\' to current destination of	disk 0	Restoring	1.8%	3115.69 MB/Minute
lote: After the BMR process is complete and erver has been rebooted, you may not want to erform backup jobs from this server. If you are ust testing the BMR functionality, we recommend hat you select the 'Do not start Agent service uutomatically after reboot' option. When you select this option, you can manually tart the Agent service (and the Recovery Point erver service, if installed) after reboot if you vant to perform backup jobs. insable Windows F8 boot option helps user erform further recovery or troubleshooting after MR. For example, press F8 and boot into Active irrectory Service Restore mode to perform Active irrectory authoritative restore.	Restore source volume '\?\Volume (791b0915-1396     Restore source volume '\?\Volume (4dd 1123f-0464     Restore source volume 'EFI System Partition' to cur	5-4e8d-8dfb-1fa02793003f}\' -4cd6-9df0-1ab9b95c8901}\' rent destination disk 0	Not Started Not Started Not Started		
	Automatically reboot your system after recovery.	t.			
	Boot the system to Advanced Boot Options (F8) Mer	nu on the next boot for Windows	8 / Windows Serv	er 2012 and later	OS.
	Elapsed Time: 00 : 00 :	: 33			
	Estimated Time Remaining: 00 : 52 :	55			
	[1.8%] [1632MB/90738MB] Restoring basic source volu	me 'C:\' to current destination di	sk O		
	I				
▲ <u>U</u> tilities			Back	Ne	Abort

BMR の処理が正常に完了しました。

# 第9章:アプライアンスの容量拡張

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズ モデル</u>	195
Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの拡張 キット での操作	200
Arcserve アプライアンス 9072-9504 DR モデルの SSD フラッシュ拡張キットの操作	205
アプライアンス サーバ( 8000) へのアプライアンス拡張 シェルフの接続	211

# Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズ モデル

Arcserve 拡張キットを使用して、Arcserve アプライアンスX シリーズ モデルのデータ 容量を拡張できます。

# 以下の手順に従います。

- 1. X シリーズ拡張 キット すべてのモデル(X3000DR を除く)の容量では、最 大モデルの X3000DR に達するまで、オプションの拡張 キットを使用して必 要な回数 だけ線形 拡張を実行できます。
- 2. 以下の手順に従い、空のディスクスロットに HDD を挿入します。
  - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上に実行中のジョ ブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応す るプランを一時停止します。
  - b. ストレージ ユニット ME4084 Value Array の空のディスクスロットに HDD を挿入します。X シリーズ拡張 キットの各 キットは、14 x 16TB

ディスクで構成されています。

•••       •		_	_	_	_	_			_	_	_	_	_	_
100       1	MDL	MDL	20 L	MDL	MDL	MDL	10% P	MDL	MDL	MDL	MOL	MOL	ND L	MDL
	je so	0	0 30 20= 0	0 40 20 0	0		0 4 20-0		0 40 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50	0 <b>2</b> 20 0				

3. ME ユニット - Value Array ストレージ マネージャにログインし、 ピール]に移動して拡張するディスク グループを選択します。

### Arcserve アプライアンス拡張キットの操作 - X シリーズモデル

	<b>VA084</b> Value Array	Storage Manag	ger			System: Version:	Unini GT28
Home	Action	0,	Clear	Filters	Export to C	SV Show All	✓ s
The second se		Name	• 7	Health	Y	Size	
System		Arc01		🔗 OK		5 Storage Setup Add Disk Grou	, ID
		Related [	Disk Groups			Remove Disk	roup Group
Hosts		0,	Clear	Filters	Export to C	S Expand Disk O Manage Spare	Sroup as
		Name 7	Health 🖓	Pool 🔺		Create Volume	3S
		Arc01	S OK	Arc01	ADAPT	Disk Group Ut Dequarantine	setting ilities Disk 0
Pools		Related [	Disks				
		0,	Clear	Filters	Export to C	Show All	✓ s
Valumas		Location	▲ \\	Health	T Descrip	otion 🖓	Siz
volumes		0.0		📀 ОК	SAS M	DL	16.
5		0.1		📀 ок	SAS M	DL	16
		0.2		📀 ок	SAS M	DL	16.
Mapping		0.3		🔗 OK	SAS M	DL	16

4. 選択したディスクグループを右クリックし、「ディスクグループの拡張]を選択します。

「ディスク グループの拡張] パネルが開き、ディスク グループの情報 とディスク テーブルが表示されます。

Expand Disk Group				
Name:	Arc01	Type:		Line
Owner:	A	Data Protecti	on:	ADA
Disk Selection Sets, C	omplete: Yes			
Туре	Disk Description	Selected	Maximum	Size
ADAPT	SAS MDL	0	128	672.0TB
Add disks to the disk g	roup by entering a ran	ge of disks or by se	lecting disks from th	
5				
Enter Range of Disks:		•		
📃 Select All 🤨				
Clear Filters Sh	owing 1 to 0 of 0 entries			
Description	Enclosure ID	)	Slot	▲ \ Size
No data available in th	e table			

- 5. ディスク グループにディスクを追加するには、 ディスクの範囲の入力] フィールドにディスクの範囲を入力するか、テーブルからディスクを選択しま す。
- 6. 変更]をクリックします。
- 7. 確認パネルで **[はい**]をクリックしてグループの展開を開始し、 **[DK**]をクリックしてパネルを閉じます。

**注**: 拡張ジョブが完了すると、ディスクグループで再バランスジョブがトリガされます。

8. 拡張ジョブと再バランスジョブが完了したら、コンピュートユニットから ディ スクの管理]を開き、 アクション]- ディスクの再スキャン]を選択します。

_							
📻 Dis	k Management						
File	Action View He	lp					
<b>(m m</b>	Refresh						
Volur	Rescan Disks	2	Туре	File System	Status	Capacity	Free Spa
🛲 (C	Create VHD		Basic	NTFS	Healthy (B	155.73 GB	80.56 GB
- (Di	Attach VHD		Basic		Healthy (R	499 MB	499 MB
💳 (Di			Basic		Healthy (E	100 MB	100 MB
💳 (Di	All Tasks	>	Basic		Healthy (R	76.29 GB	76.29 GB
	Help						
"O Di	isk 0						

# 再スキャン後、ストレージュニットのディスクは拡張されたストレージと共に表示されます。

📅 Disk Manageme	nt									-		
File Action Vie	ew Help											
🗢 🏟 🛛 🖬 🔮	🗊   🗩 🗙	2 🔒 🔎	5									
Volume	Layout	Туре	File System	Status	Capacity	Free Spa	% Free					
- (C:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (B	155.73 GB	80.50 GB	52 %					
(Disk 1 partition)	1) Simple	Basic		Healthy (R	499 MB	499 MB	100 %					
(Disk 1 partition)	<ol><li>Simple</li></ol>	Basic		Healthy (E	100 MB	100 MB	100 %		M8.			
(Disk 1 partition)	5) Simple	Basic		Healthy (R	76.29 GB	76.29 GB	100 %					
ODisk 0												
Unknown												
223.57 GB	223.57 GB											
Not initialized	Unallocated											
- Disk 1												
Basic			(C:)									
1489.85 GB	499 MB	100 MB	155.73 GB NTFS	76.2	9 GB	1257.23	GB					
onne	Healthy (Nec	Healthy	nealthy (boot, Page	rile, Ci nea	thy (Necovery Part	Unalloc	lated					
	1	p p										
O Disk 2												
Unknown 19627 45 CP	100007 45 60											
Not Initialized	Unallocated	18627.45 GB										
= Disk 3 Perpoyable (Er)												
Nerriovaure (c.)												
No Media												
Disk 4							_					
Unknown												
500168.00 GB	500168.00 GB	500168.00 GB										
Offline 🕕	Unallocated											
Unallocated	Primary partitio	n										

# Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの拡張 キット での操作

Arcserve 拡張キットを使用して、Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルの データ容量を拡張できます。

### 以下の手順に従います。

- 1. 以下の手順に従い、空のディスクスロットに HDD を挿入します。
  - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上 に実行中のジョ ブがないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応す るプランを一時停止します。
  - b. HDD を空のディスク スロット に挿入します。



- 2. 以下の手順に従い、iDRACでRAID-6を設定します。
  - a. iDRAC にログインし、 環境設定]- 区トレージの環境設定]- 物 理ディスクの環境設定]に移動します。
  - b. 新しいディスクごとに、 **物理ディスクの構成**]セクションの **アクショ** ン]ドロップダウンで、 **RAID への変換**]オプションを選択します。

ダイアログボックスに以下の警告メッセージが表示されます。

RAC0516:物理ディスクドライブを RAID 互換に変換すると、OS で作 成された RAID アレイは上書きされます。

*OS で構成された RAID アレイが存在しないことを確認し、 DK ]をクリックします。* 

c. **[DK**]をクリックします。

限留中のアクション]の下に RAID ステータスが表示されます。

Controller	Configuration						
Physical Di	isk Configuration 📀 6 Pending						🖗 Edit SSD Wear Thre
Status	Name	State	Hotspare Status	Capacity	Media Type	Action	Pending Actions
	Physical Disk 0:1:10	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HDD	Action •	Convert to RAID
	Physical Disk 0:1:11	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HDD	Action •	Convert to RAID
	Physical Disk 0:1:14	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HDD	Action •	Convert to RAID
	Physical Disk 0:1:15	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HDD	Action •	Convert to RAID
	Physical Disk 0:1:16	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HDD	Action •	Convert to RAID
_	Physical Disk 0:1:17	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HDD	Action •	Convert to RAID

d. 以下のオプションのいずれかをクリックして、保留中のアクションを完 了します。

# 今すぐ適用

RAID 変換アクションがすぐに開始されます。

次回の再起動時

次の再起動時にRAID変換アクションが開始されます。

スケジュールされた日時

スケジュールされた日時にRAID変換アクションが開始されます。

#### すべての保留中を破棄

すべてのディスクの RAID 変換 アクションが破棄されます。

e. [メンテナンス]- ジョブキュー]に移動します。

RAID へのディスク変換を実行中のジョブリストが表示されます。RAID への変換 ジョブが完了すると、ステータスが **完了 (100%)** ]に変更されます。

- 3. 以下の手順に従い、仮想ディスクを作成します。
  - a. 環境設定]- [ストレージの環境設定]- 版想ディスクの設定]に 移動します。
  - b. **阪想ディスクの構成**]セクションで、**阪想ディスクの作成**]をクリックします。
  - c. **レイアウト**]で「RAID-6」を選択します。

Create Virtual Disk

- d. **物理ディスクの選択**]セクションで、RAID に変換するディスクを選択します。
- e. **保留中の操作に追加**]をクリックします。

Name	Enter or use auto-name	
Layout	RAID-6 *	
Media Type	HDD ¥	
Stripe Element Size	64 KB 🔻	
Capacity*	14.55 TB •	
Read Policy	Read Ahead 🔻	
Write Policy	Write Back	
Disk Cache Policy	Default 🔻	
T10 PI Capability	Disabled *	
Span Count	1 •	

- f. 環境設定]- [ストレージの環境設定]に移動します。
- g. 以下のオプションのいずれかをクリックして、保留中の処理を完了します。

# 今すぐ適用

仮想ディスクの作成処理がすぐに開始されます。

次回の再起動時

次の再起動時に仮想ディスクの作成処理が開始されます。

#### スケジュールされた日 時

スケジュールされた時刻に仮想 ディスクの作成処理が開始されます。

#### すべての保留中を破棄

すべてのディスクに対して、仮想ディスク作成処理が破棄されます。

h. **ジンテナンス**]- ジョブキュー]に移動します。

仮想 ディスクの作成を実行中のジョブリストが表示されます。 仮想 ディスクの作成 ジョブが完了すると、ステータスが **院了(100%)**]に変 更されます。

- i. [ンピュータ管理] · ディスク管理]に移動します。
- j. 追加した新しい仮想ディスクをダブルクリックします。 ディスクの初期化]ウィンドウが表示されます。
- k. **[GPT ( GUID パーティション テーブル)** ]オプションを選 択して、 **[DK**] をクリックします。
- 1. **ディスクの管理**]ウィンドウで仮想ディスクを選択し、以下のプロパ ティを適用します。
  - ドライブ文字の割り当て
  - ファイルシステムとして NTFS を指定します。
  - ディスクのフォーマット

Computer Management (Local	Volume	Lavout	Type	File System	Status				Capa	Actions
Computer Management (Loca	UDPData (X:)	Letyon i "type i "recycle" ateus     Ctaps       Simple Basic     Healthy (Recovery Partition)     300 h       Simple Basic     Healthy (Recovery Partition)     90 M       Simple Basic     Healthy (Recovery Partition)     76.25       Simple Basic     Healthy (Recovery Partition)     76.25       Simple Basic     Healthy (Recovery Partition)     76.25       Simple Basic     Healthy (Primary Partition)     1457       Simple Basic     NTFS     Healthy (Primary Partition)     1457       Simple Basic     NTFS     Healthy (Primary Partition)     1787       Initialize Disk     X     You must intialize a disk before Legical Disk Manager can access it.     Select disks:       Image: Image Disk     Image: Image Disk     X							More Actions Annu Annu Annu Annu Annu Annu Annu Annu	
	*O Disk 0 Unknown 14903.00 GB Not Initialized	Use the following pattion style for the selected disks: O MBR (Master Boot Record) (*) GPT (GUID Pattion Table) Note: The GPT partition style is not recognized by all previous versions of Windows.						> •		
	Disk 4 Basic 14902.88 GB Online	300 MB Health	99 I Her	M 155.73 G It Healthy	B NTFS (Boot, Paş	76.29 GB Healthy (Recover	UDPData (X 14670.46 GB N Healthy (Print	:) NTFS hary Partition	n)	
									v	

- 4. 以下の手順に従い、データストアを拡張します。
  - a. 追加したドライブに移動し、フォルダを作成します。
  - b. Arcserve アプライアンス デスクトップで Arcserve アプライアンス ウィ ザードを起動します。

Arcserve アプライアンス環境設定]ページが表示されます。

c. **[UDP コンソールの起動**]をクリックします。

[Arcserve UDP コンソールログイン]ページが表示されます。

- d. 管理者としての UDP コンソールにログインします。
- e. **リソース**]- デスティネーション]- **腹旧ポイントサーバ**]に移動します。
- f. データストア]を右クリックし、 停止]をクリックします。

arcserve	unifi	ed data prote	ction	O Mes	sages (1) a	dminis	trator • Help	•
dashboard resources	jobs re	eports log se	ettings	high availab	ility			
	E Destinat	ions: Recovery Po	int Server				≫appliatest75 > ap	pliat
Nodes     All Nodes	Actions	- Add a Recove	Configuration Wizard					
Nodes without a Plan	,	Name	Status	Plan Count	Stored Data	ed Data D 🔿 Status		
<ul> <li>Plan Groups</li> <li>Linux Backup Server Groups</li> </ul>	* •	appliatest75					Running	
Plans     All Plans		appliatest75 data stor Mor	n 🙃 dify	1	0 Byte	0	Backup Destination 18 TB free	e et
Destinations		Del	ete				Data Destination	w
Recovery Point Servers Arcserve Backup Servers Shared Folders Cloud Accounts Remote Consoles Infrastructure	ł	Bro	P wse Recovery Poir S Jumpstart	đa i	ł	}	Index Destination Hash Destination Memory Allocation	10f Free
Storage Arrays							<ul> <li>Settings</li> </ul>	
Instant Virtual Machines Sites							Compression Stan	sard
SLA Profiles							Encryption AES	256
					A	ctiva o to S	te VBickupows Vdata Destination vstem in Control Picom	_store _mon

g. コマンド ラインから C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN に移動し、以下のコマンドを実行します。

as\_gddmgr.exe –DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>

以下の画面の例では、ボリューム容量、使用容量、プライマリデータ パスの空き容量、拡張データパスの空き容量、合計値などの詳細 が表示されています。合計値は、プライマリデータパスと拡張データ パスの合計です。

以下のコマンドを実行して、データパスの詳細を表示することもできます。

as\_gddmgr.exe -DataPath Display <data store name>
. Grogram Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN>as\_gddmgr.exe -Data path Add appliatest75\_data\_store -NewDataPath Y:\data Guccessfully load data store configuration information. Guccessfully added new expanded data path for the data store. The data store has 1 expanded data path(s) now: Volume capacity Used space Free space Primary data path : X:\Arcserve\data\_store\data 18384 GB 1 GB 18383 GB Expanded data path1: Y:\data 224 GB 223 GB 1 GB Total 18608 GB 2 GB 18606 GB Success to add data path Y:\data. C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN>

データストアへの新しい拡張データパスの追加が完了します。

- h. UDP コンソールで、「リソース]- 「デスティネーション]- 腹 旧ポイント サーバ]に移動します。
- i. データストア]を右クリックし、開始]をクリックします。
- j. 一時停止していたプランを UDP コンソールから再開します。

Arcserve アプライアンスのデータ容量の拡張が完了します。

## Arcserve アプライアンス 9072-9504 DR モデルの SSD フ ラッシュ拡張 キットの操作

Arcserve SSD フラッシュ拡張キットを使用すると、セカンダリデータストアを作成して データ容量を拡張し、Arcserve アプライアンス 9072-9504DR モデルで DR 関連操 作 (IVM / VSB / Continuous Availability)を実行します。

#### 以下の手順に従います。

- 1. 以下の手順に従い、空のディスクスロットに SSD を挿入します。
  - a. Arcserve UDP コンソールで、アプライアンス サーバ上に実行中のジョブ がないことを確認します。実行中のジョブがある場合は、対応するプ ランを一時停止します。
  - b. SSD を空のディスクスロットに挿入します。



2. 以下の手順に従い、iDRAC で RAID-5 を設定します。

- a. iDRAC にログインしてから、環境設定]- ストレージの環境設定]-物理ディスクの環境設定]に移動します。
- b. 物理ディスクの環境設定]セクションで、それぞれの新しい SSD ディスクの「アクション]ドロップダウンリストから、 「RAID 変換]オプションを選択します。
   ダイアログボックスに以下の警告メッセージが表示されます。

RAC0516:物理ディスクドライブをRAID互換に変換すると、OS で作成されたRAID アレイは上書きされます。

OS で構成された RAID アレイが存在しないことを確認し、 DK ]をクリックします。

c. **[DK**]をクリックします。

メディアの種 類 が SSD であるため、 保 留 アクション]列 の下 に [RAID 変 換 ]ステータスが表 示されます。

N Dashboar	d 🗉 System 🗸 🖬 Store	pe ∽ III Contigura	oon.∨ ⊡ Mainte	nance V w I	DRAC Settings ~			B Obey Clark planeter
Controller (	Configuration							
Physical Di	isk Configuration 🙁 6 Pending							🗭 Edit SSD Wea
Status	Name	State	Hotspare Status	Capacity	Media Type	Action		Pending Actions
8	Physical Disk 0.1.10	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HCO	Action	•	Convert to RAID
2	Physical Oisk 0:1:11	Non-RAID	Unassigned	10949.00 08	HDD	Action		Convert to RAID
•	Physical Disk 0.1.14	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HCO	Action	•	Convert to RAID
2	Physical Olsk 0:1:16	Non-RAID	Unassigned	10949.00.08	HDD	Action		Convert to RAID
8	Physical Disk 0.1.16	Non-RAID	Unassigned	10949.00 GB	HCO	Action	•	Convert to RAID
2	Physical Disk 0:1:17	Non-RAID	Unassigned	10949.00-08	HDD	Action		Convert to RAID
Virtual Disk	( Configuration							
Enclosure	Configuration							

d. 以下のオプションのいずれかをクリックして、保留中のアクションを完了 します。

#### 今すぐ適用

RAID 変換アクションがすぐに開始されます。

#### 次回の再起動時

次の再起動時にRAID変換アクションが開始されます。

#### スケジュールされた日時

スケジュールされた日時にRAID変換アクションが開始されます。

すべての保留中を破棄

すべてのディスクの RAID 変換 アクションが破棄されます。

e. [メンテナンス]- [ジョブ キュー]に移動します。

RAID へのディスク変換を実行中のジョブリストが表示されます。RAID 変換ジョブが完了すると、ステータスに100%と表示されます。

RBB	2	ntegr	ated Rem		Search	٩						
	÷	Dashb	oard B	System∨ 🛢 Storag	ev l	Configuration	∨ 🖂 Main	tenance V 🛛 🔍 🤋 j	iDRAC Settings $\sim$		-	Enable Group
	BI	nk	Unblink									
		Ο	Status	Name	State	Slot Number	Size	Security Status	Bus Protocol	Media Type	Hot Spare	Remaining Rated Write Endu
	+			Physical Disk 0:1:0	Online	0	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HDD	No	Not Applicable
	+			Solid State Disk 0:1:1	Online	8	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SSD	No	100%
6	+			Solid State Disk 0:1:2	Online	2	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SS0	No	100%
	+			Solid State Disk 0:1:3	Online	3	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SSD	No	100%
	+			Solid State Disk 0:1:4	Online	8	3576.38 GB	Not Capable	SAS	SS0	No	100%
	+			Solid State Disk 0:1:12	Online	12	1787.88 GB	Not Capable	SATA	SSD	No	100%
	+			Solid State Disk 0.1:13	Online	13	1787.88 GB	Not Capable	SATA	SSD	No	100%
	+			Physical Disk 0:1:14	Online	14	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HOD	No	Not Applicable
	+			Physical Disk 0:1:15	Online	15	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HOD	No	Not Applicable
	+			Physical Disk 0:1:16	Online	16	7451.5 GB	Not Capable	SAS	HOD	No	Not Applicable
	0 rd	xw(s) s	elected									

- 3. 以下の手順に従い、仮想ディスクを作成します。
  - a. **環境設定]- ストレージの環境設定]- 阪想ディスクの設定**]に移動します。
  - b. 阪想 ディスクの構成]セクションで、 **阪想 ディスクの作成**]をクリックします。
  - c. 阪想 ディスクの作成]ウィンドウで以下を実行し、それ以外はデフォ ルトのままにします。
    - レイアウト ドロップダウンリストから、 [RAID-5]を選択します。
    - メディアの種類 ドロップダウンリストから、[SD]を選択します。
  - d. 物理ディスクの選択]セクションで、下にスクロールして RAID に変換 するすべての SSD ディスクを選択します。
  - e. 保留中の操作に追加]をクリックします。

#### Create Virtual Disk

Name	UDPFlash
Layout	RAID-5 ~
Media Type	SSD 🗸
Stripe Element Size	64 KB 🗸
Capacity*	10.48 TB ~
Read Policy	Read Ahead 🗸
Write Policy	Write Back 🗸
Disk Cache Policy	Default 🗸
T10 PI Capability	Disabled 🗸
Span Count	1 ~

- f. 環境設定]- **ストレージの環境設定**]に移動します。
- g. 仮想 ディスクの作成処理をすぐに行うには、 今すぐ適用]をクリックします。

:	] j	Integr	ated	Ren	note	e Access	: Cont	rolle	er 9	Enterp	orise							
	ħ	Dashb	ooard	I		System `	/	8 :	Stora	ge∨	11		onfig	uratio	on V		Autophan,	Ma
	С	onf	igu	ura	ati	on												
		Power N	lana	geme	ent	Virtu	al Cons	sole	1	/irtual	Media		Lic	enses	6	Syst	em	Set
	U s	lse this chedule	page e the j	to co job. F	onfig Pend	gure your ling Oper	storag ations	ge se will j	etting persi:	s. Stora st until	age se the jo	ettin b is	gs ar creat	e con ted oi	firme r they	ed per v are o	r cor disca	ntro ard
	С	ontroller	P	ERC	H73	80P Mini (	Embed	lded)	~									
	>	Contro	ller C	onfig	jura	tion												
	>	Physic	al Dis	sk Co	nfig	juration												
	~	Virtual	Disk	Conf	figui	ration												
		Creat	e Virt	ual D	isk													
		Status	s			Name					RAID	Lev	el				0	)ed
						UDPDa	ata				RAID	·6					Ν	lon
						UDPH	ash				RAID	1					Ν	lon
						UDPF	ash				RAID	-5					Ν	lon
	>	Enclos	ure C	onfig	gura	tion												
	l	Apply N	low	At	t Ne	xt Reboot	At	t Sch	edule	d Time	e D	isca	ard All	Pend	ding			
۲ <b>ـ</b> ۲	<u>جر</u>	テナンス	7- E	ショブ	+-	1—]に移	動しま	ます。										

仮想ディスクの作成を実行中のジョブリストが表示されます。仮想 ディスクのジョブを作成すると、ステータスが **[100%**]に変更されます。

i. [ンピュータ管理]- ディスク管理]に移動します。

h.

- j. 追加した新しい仮想ディスクをダブルクリックします。 ディスクの初期化]ウィンドウが表示されます。
- k. **GPT (GUID パーティション テーブル)** ]オプションを選 択して、 **DK**]を クリックします。
- 1. ディスクの管理]ウィンドウで仮想ディスクを選択し、以下のプロパ ティを適用します。
  - ◆ ドライブ文字の割り当て
  - ◆ ファイルシステムとして NTFS を指定します。
  - ディスクのフォーマット

											 _
Computer Management										-	×
File Action View Help											
🗢 🔿 🙍 📷 📓 📼 🗩	2 💷										
A Computer Management (Local	Volume	Layout	Type	File System	Status				Actions		
✓ <sup>™</sup>	= (C:)	Simple	Basic	NTFS	Health	y (Boot, Page File,	Crash Dump, Primary P	artition)	Dick Manac		
> 🕑 Task Scheduler	— (Disk 0 partition 2	) Simple	Basic		Health	y (EFI System Parti	tion)			jernen.	-
> 🛃 Event Viewer	= 2_6_7-28-AM (D:)	Simple	Basic	FAT32	Health	y (Active, Primary	Partition)		More	Actions	'
> 3 Shared Folders	- New Volume (E:)	Simple	Basic	NIFS	Health	y (Primary Partitio	n)				
> A Local Users and Groups	= Kecovery	Simple	Basic	NIFS	Health	y (DEM Partition)	-	- 1			
> (N) Performance	= UDPExtonReat	Simple	Basic	NTES	Health	y (Primary Particio v (OEM Partition)	ny				
Device Manager	= UDPHash (V)	Simple	Racir	NTES	Health	(Primary Partitio	n)				
✓ ≧ Storage		Sumpre	eepre			, ,					
> 🚯 Windows Server Backup											
T Disk Management											
Services and Applications	<							>			
		-	-		1		1	^			
	Basic	Parana		1000		UDPE-schero/Perc	UDPD stat. (VA	_			
	22354.48 GB	400 MB	100 N	155.73 GB NT	TES	76.29 GB NTFS	22121.87 GB NTFS				
	Online	Healthy	Healt	Healthy (Boo	it, Pa	Healthy (OEM Pa	Healthy (Primary Parti	tion)			
	= Disk 1										
	Basic	UDPHash	(9)								
	1787.87 GB	1787.87 GE	NTFS								
	Online	Healthy (P	rimary	Partition)							
	-										
	Basic	New York	ma (5-)								
	10729.11 G8	10729.11 6	B NTES								
	Online	Healthy (P	rimary	Partition)							
	-						-1				
	= Disk 3						-				
	Removable	2 6 7.28	AM (D	4	_			_			
	II/.88 GB	117.87 GB	FAT32								
¢ >	- onanocated - P	innary par	ucon						I		

仮想ディスクが作成されます。

#### アプライアンス サーバ(8000) へのアプライアンス拡張 シェルフの接続

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

## すべての利用可能なモデルのためのアプライアンスイ ンフィールド拡張

モデル	現在の容量 \TB	拡 シ ル 容	現 在の SSD- GB	新 U SSD GB	空さいト数	アドオンカー ド		説明
8100	4, 6	8 ( 6x2 TB ズ ク)	120	8 TB - 140	2, 3	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポート 5 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 - ( MegaRAID SAS 9380- 8e)	1. 2. 3.	810でイドをま 81拡フ定みSSがい 81オロびすアフ張 MSの空がで オロモン拡サす 00張に済込 20付ま 00ジト 3。ンイ / 8100 ついろう 2000 ついろう 20000 ついろう 2000 ついろう 20000 ひいろう 2000 ついろう 20000 ついろう 20000 ついろう 20000 ついろう 20000 ついろう 20000 ついろう 2000000 ついろう 200000 ついろう 20000000 ついろう 2000000000000000000000000000000000000

				方にアドオン
				カードが挿
				入されてい
				る場合、イ
				ンフィールド
				拡張を使
				用するた
				め、少なくと
				も1つのス
				ロット、好ま
				しくはスロッ
				ト3を空け
				る必要があ
				ります。
			F	
			5.	アノフィアノ
				シェルノの间
				統が使用さした。
				れます。
			6.	8100 - 拡張
				シェルフには
				RAID-6 が搭
				載されてい
				ます。
			7.	拡張シェル
				フにはデュア
				ルPSU が塔
				載されてい
				ます。
			_	
			8.	
				フを接続し
				た後、拡張
				カイドの
				「データパス
				の追加」に
				記載された
				手順に従い
				ます。

							9.	新しい SSD が必 は、 な場 ガイドの「 <b>ち</b> イドの「 <b>ち</b> <b>しい SSD へ</b> のハッシュデ スティンの 手 しの ティン の 手 い で た の 「 が し い い の に の の の の の の の の の の の の の の の の
8200	8, 12	8 (TBデクまは16 TBデク)	220	8 TB - NA 16 TB - 280	2, 3	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 (MegaRAID SAS 9380- 8e)	1. 2. 3.	82でまのルサすンでけルすき 81拡フ定み Sがい 81 イロびすアフ張20はたイドポ。トも拡フるま 200 供す 20プット3。ンイモス11 により、11 では11 です。200 では、200 では 1 です。200 です

						MegaRAID
						SAS 9380-8e
						のために、
						空きスロット
						が1つ必要
						です。
					Л	オプションス
					4.	
						古りたり周
						カにアドオン
						ノートが伸
						る場合、1
						ンフィールド
						拡張を使
						用するた
						め、少なくと
						も1つのス
						ロット、好ま
						しくはスロッ
						ト3を空け
						る必要があ
						ります。
					5	アプライアン
					5.	フレ坊理
						シェルフの問
						ブナルノの間
						Cita SAS 按 結がは 田 キ
						杭川田日さ
						れます。
					6.	拡張シェル
						フには RAID-
						6 が搭載さ
						れています。
					7	拡張シェル
					/.	フにはディア
						おされてい
						<b>あ</b> 9₀
					8.	拡張シェル
						フを接続し
1	1	1		1		

							9.	たガデの記手ま新が合ガレのスシ行にすい、のパイーの記手ま新が合ガレのスシ行にすいいましい。い要、ドタルさに、い要、ドランスの手は、い要ないで、シンスの手まし、いたい、シンスの手まで、
8300	16,20,24,28,32,36,40	8 (Tデク まは 16 KTデク まは 40 LZ TEデク) たは (4 LZ TEデク) たは (4 LZ TE デク)	480	8 TB - NA 16 TB - 560 40 TB - 790	2, 5,	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポート ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ポート 10G Copper インフィール ド拡張 (MegaRAID SAS 9380- 8e)	1.	8300~15 ポすンでけルすき 81 / 張はお設 Sがいてん 16 はイドポすンでけルすき 8 TB はお設 SD 付まです。16 拡合しつに、10~15 にのしていた。16 拡合しつに、10~15 にのしていた。16 拡合しつに、10~16 広のしていた。16 拡合していた。16 転合していた。17 にのいた。18 にのいに。18 にのいた。18 にのいた。18 にのいた。18 にのいにのいた。18 にのい

216 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

			3	8300 (=1±、
			5.	オプションス
				ロット 2、5
				および 6 が
				あります。ア
				プライアンス
				インフィール
				ド拡張 /
				MegaRAID
				SAS 9380-8e
				のために、
				空きスロット
				が1つ必要
				です。
			4.	オプションス
				ロットの両
				方にアドオン
				カードが挿
				入されてい
				る場合、イ
				ンフィールド
				拡張を使
				用するた
				め、少なくと
				も1つの人
				レット、好ま
				トィを呈い
				る必安かめ
				<b>シ</b> み 9 。
			5.	アブライアン
				ンエルフの間
				杭が使用さ
				1しおり。
			6.	拡張シェル
				フには RAID-
				6 ( 6x4 TB
				ディスク) が

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			-		
					搭載されて
				7	いより。
				7.	加張シェル
					ノによ ノエノ
					おされてい
				_	
				8.	拡張シェル
					ノを接続し
					た後、払張
					記載された
					于順に化い
					<i>с</i> , у .
				9.	新しい SSD
					が必要な場
					合は、拡張
					カイドの)新
					LUSSD ~
					のハッシュテ
					スティネー
					ションの移
					に化いま
					9 ∘ (アノフ イマンフ
					1 パンス
					oouu を 40 エロ アプニイ
					アッス坑理
					シェルフと培
					ふ する 提 合
					のみ、拡張
					シェルフでは
					なくベースア
					プライアンス
					に設置する
					必要がある
					未接続の2

							1.	TB SSD が1 つあります。 詳細につい ては拡張ガ イドを参照 してくださ い)。 8400 モデル では、8 TB、 16 TB、また
8400	32,40,48,56,64,72,80	8 6 T デク まは 16 6 T デク まは 41 2 T デク まは 6 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4 5 4	1200	8 TB - NA 16 TB - NA 40 TB - NA	2, 5, 6	LSI SAS 9200 -8E HBA Qlogic デュ アルポート HBA クアッド ポー ト 1G NIC デュアル ポート 10G SPF+ デュアル ド拡張 ( MegaRAID SAS 9380- 8e)	2. 3. 4.	はイドポすンでけルすき 80の要ん 8オロおあプイドMSの空がで オ07番トクは1番にこす 005あ。 00ジトびまイフホークは1番にこす 0050 いいしん 1000000000000000000000000000000000000

						ロットの両
						方にアドオン
						カードが挿
						入されてい
						る場合、イ
						ンフィールド
						拡張を使
						用するた
						め、少なくと
						も1つのス
						ロット、好ま
						しくはスロッ
						ト2を空け
						る必要があ
						ります。
					5	アプライアン
					5.	スト抗張
						シェルフの問
						ではSAS 接
						結が使用さ
						わます
					_	
					6.	拡張シェル
						6が搭載さ
						れています。
					7.	拡張シェル
						フにはデュア
						ルPSU が搭
						載されてい
						ます。
					R	拡張シェル
					υ.	フを接続し
						た後、抗張
						ガイドの
						「データパス
						の追加した
						記載された
						手順に従い
1	1					5.7 0

## 同梱されている内容

ボックスには以下の品目が同梱されています。

**注:** ボックス内の破損品にお気づきの場合は、<u>Arcserve サポート</u>までご連絡ください。

■ アプライアンス拡張シェルフ

**注**: アプライアンス拡張シェルフの容量は、拡張シェルフで利用可能なディスクの数に依存します。



■ CVPM02 モジュール( CacheVault Power Module02) とケーブル



MegaRAID SAS 9380-8e RAID Controller



■ SAS ケーブル

2 つの SAS ケーブルは、アプライアンス拡張シェルフの MegaRaid Controller と アプライアンス サーバを接続するのに使用されます。



SSD (オプション)

**注**: アプライアンス 8300 の場合のみ、40 TB アプライアンス拡張に接続する 必要があり、未接続の2 TB SSD が1 つあります。

## アプライアンスサーバへのアプライアンス拡張シェルフの 接続方法

以下の手順に従います。

- 1. アプライアンス拡張シェルフを準備し、アプライアンスサーバの近くに配置します。
- 2. CacheVault Power Module02 (CVPM02)をMegaRAID Controller 9380-8e に接続します。



- 3. すべての Arcserve UDP プランを一時停止し、アプライアンスサーバで実行 中のジョブがないことを確認します。
- アプライアンス サーバの電源をオフにし、電源装置から電源コードを抜きます。

**注**: システムの損傷や感電のリスクを回避するために、電源装置からコン ピュータを切断します。

5. アプライアンス サーバ シャーシのカバーを取り外します。

- 6. 以下の手順に従い、*MegaRAID Controller 9380-8e* をアプライアンスサーバの利用可能な PCI-e スロットに挿入します。
  - a. 空いている PCI-e スロットを見つけます。
  - b. コンピュータ背面の、空の PCIe スロットと合う空のブラケット パネルを 取り外します。
  - c. ネジがある場合は、ブラケットのネジを保存します。
  - d. MegaRAID Controller 9380-8eを PCIe スロットに合わせます。
  - e. 優しくじっくり押し込み、RAID コントローラを正しくスロットに取り付けます。



- 7. MegaRAID Controller 9380-8e ブラケットをシステムのシャーシに固定します。
- 8. アプライアンス サーバ シャーシのカバーを再び取り付けます。
- 9. SAS ケーブルを使用して、アプライアンスサーバ内の MegaRAID コントロー ラ9380-8e をアプライアンス拡張シェルフ内の MegaRAID コントローラに接続します。



10. SSD を挿入します(アプライアンス 8300 + 40 TB 拡張 シェルフの場合のみ)。

**注**: アプライアンス 8300 に 40 TB アプライアンス拡張 シェルフを接続している 場合、アプライアンス 8300 の背面 パネルの空いている SATA スロットに、2 TB SSD (アプライアンス拡張 シェルフに同梱)を追加します。



- 11. アプライアンス拡張 シェルフの電 源 コードを接続し、アプライアンス拡張 シェ ルフの電源を入れます。
- 12. <! アプライアンス サーバの電 源 コードを再 接 続し、アプライアンス サーバの 電 源 を入 れます。
- 13. アプライアンス サーバにログインします。MegaRAID ストレージ マネージャを 開いて、管理者としてログインします。

9	MegaRAID	Storage Manager 15.05.01.00 - Host View	x
		A	/ago
Server Details This page displays all the servers You will be prompted for entering Use Configure Host to configure 1	that were discovered. Choose host credentials while logging the hosts that you want to vie	a server and click on Login to start managing that server. in.	
Use LDAP Login 🥘	3	Enter User Name & Password	
IP Address 10.1		AVago	Configure Host
Remote servers:	Server :	10.: Use your Operating System's login username and password to login the MSM server	
appliance-8400	User Name: Password:	administrator	
	Login Mode:	Full Access	
		Sovgert Connor	

14. 以下の手順に従い、MegaRAID ストレージ マネージャから RAID コントロー ラを確認します。

- a. 物理]タブに移動します。2 つのコントローラが一覧表示されます。
- b. **ロントローラ 9380-8e**]を選択し、コントローラ 9380-8e に接続されて いるすべてのディスクがオンラインで、利用可能であることを確認しま す。

注:オンラインではないディスクがある場合、右クリックして 外部構成 のスキャン]を選択します。

udpu2verify	5 9380-8e(Bus 1.Dev 0.Domain 0)			
<ul> <li>SC826P (16), Connector: Pc</li> <li>Slot: 0, SAS, 1.819 TB,</li> <li>Slot: 1, SAS, 1.819 TB,</li> </ul>	Disable Alarm Silence Alarm			
<ul> <li>Slot: 2, SAS, 1.819 TB,</li> <li>Slot: 3, SAS, 1.819 TB,</li> <li>Slot: 3, SAS, 1.819 TB,</li> </ul>	Start Patrol Read Set Patrol Read Properties			
Slot: 5, SAS, 1.819 TB,	Disable SSD Guard			
Slot: 11, SSD (SATA), 2	Scan Foreign Configuration			
Controller 1: AVAGO MegaRAID	Save Configuration <sup>KS</sup> Clear Configuration			
	Set Consistency Check Properties Schedule Consistency Check			
	Set Adjustable Task Rates			
	Preserved Cache			
	Manage Power Save Settings			
	Update Controller Firmware Manage MegaRAID Advanced Software Options Manage Link Speed Save TTY Log			

 c. Import: Import logical configuration from all foreign drives (イン ポート: すべての外部ドライブから論理構成をインポート) ]オプション を選択して、 [OK]をクリックします。

	Foreign Configuration Detected							
0	7 Foreign drives were detected. You must import or clear these drives before they can be used.							
	Choose an option:      Import: Import logical configuration from all foreign drives.      Clear: Remove logical configuration from all foreign drives.							
	OK Cancel							

d. 【はい】をクリックしてインポート処理を開始します。

	This operation cannot be reversed after it is sta	inted
?)	Are you sure you want to import the configura	ation
~		
	Yes No	
	homonomonomon	

e. **[DK**]をクリックします。



拡張シェルフ上のすべてのディスクドライブがオンラインになります。

- 論理]タブに移動します。RAID-6 が設定された以下のディスクが表示されます。他の拡張シェルフモジュールの場合、1つSSD が RAID 0 にされ、 LSI MegaRAID SAS 9380-8eの下に一覧表示されます。
  - アプライアンス サーバ 8100 + 8 TB 拡張 シェルフ
  - アプライアンス サーバ 8200 + 16 TB 拡張 シェルフ
  - アプライアンス サーバ 8300 + 16 TB 拡張 シェルフ



- 16. [コンピュータの管理]を開き、「ディスクの管理]に移動して、以下の手順 を実行します。
  - a. アプライアンス拡張シェルフの組み込みディスクを NTFS 形式でフォー マットし、ドライブ文字を割り当てます。たとえば、「V:」を割り当てま す。
  - b. NTFS 形式で SSD をフォーマットして、ドライブ文字を割り当てます。た

とえば、「W:」を割り当てます。

	Computer Management							
File Action View Help								
🕨 🧼 🙇 📰 📓								
Computer Management (Local	Volume	Layout	Type	File System	Status			Capa
🛛 🙀 System Tools	G	Simple	Basic		Healthy (R	lecovery Partition)		300 N
Task Scheduler	0	Simple	Basic		Healthy (E	FI System Partition)		99 M
Event Viewer	0	Simple	Basic		Healthy (R	lecovery Partition)		76.29
Shared Folders	🕞 (C:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (Boot, Page File, Crash Dump, Primary Partition)			155.7
Local Users and Groups	(V:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (P	rimary Partition)		7449.
> ( Performance	📾 (X:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (P	rimary Partition)		7218.
Device Manager	(Y:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (P	rimary Partition)		223.5
Storage     Windows Senior Packur	Rew Volume (W:)	Simple	Basic	NTFS	Healthy (P	rimary Partition)		237.8
	< III							
	7449.88 GB 7 Online H	449.87 GE Healthy (P	8 NTFS rimary	Dentition				
		-		Partition)				
	Disk 2 Basic 2 237.84 GB 2 Online H	<b>lew Volu</b> 37.84 GB Healthy (F	<b>me (W</b> NTFS rimary	•) Partition)				

アプライアンス拡張シェルフがアプライアンス サーバに正常に接続されました。

### Arcserve UDP データストアの変更方法

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- 拡張シェルフのデータパスをArcserve UDP データストアに追加する
- 新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行
- Arcserve UDP コンソールからのデータストア全体の容量の確認
- Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開

## Arcserve UDP データストアへの拡張シェルフ データパ スの追加

以下の手順に従います。

- 1. 「V:\data」などのアプライアンス拡張 シェルフ上 のボリュームにフォルダを作成します。
- 2. データ ストアを停止し、以下のコマンドを使用して、データ ストアをアプライ アンス拡張シェルフに拡張します。

as\_gddmgr.exe –DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>

as\_gddmgr.exe -DataPath Display <data store name>

#### 新しい SSD へのハッシュ デスティネーションの移行

**注**: この手順は、以下の拡張シェルフに新しい SSD を使用する場合にのみ、必要です。

- アプライアンス サーバ 8100 + 8 TB 拡張 シェルフ
- アプライアンス サーバ 8200 + 16 TB 拡張 シェルフ
- アプライアンス サーバ 8300 + 16 TB 拡張 シェルフ
- アプライアンス サーバ 8300 + 40 TB 拡張 シェルフ

以下の手順に従います。

- 1. 新しい SSD に、W:\Arcserve\data\_store\hash などのハッシュフォルダを作成します。
- 2. データストアが停止していることを確認します。停止していない場合、 Arcserve UDP コンソールからデータストアを停止します。
- 3. Arcserve UDP コンソールからデータストアを変更し、ハッシュデスティネーションを W:\Arcserve\data\_store\hash に設定します。
- 4. データストアの変更を保存します。
- 5. Arcserve UDP コンソールからデータストアを起動します。

# Arcserve UDP コンソールでのデータストアの全体容量の確認

全体の容量は、アプライアンスサーバの容量に、アプライアンス拡張シェルフの容量を追加したものです。

## Arcserve UDP コンソールからのすべてのプランの再開

Arcserve UDP コンソールからすべての一時停止プランを再開します。

## 第10章:ネットワーク設定の操作

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>ネットワーク設定の詳細</u>	238
NIC チーミングを設定する方法	
<u>DHCP サーバを無効化する方法</u>	246
プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを設定する方法	247
<u>負荷分散のために DNS サーバ上 でラウンド ロビンを有効にする方法</u>	
アプライアンスのネット ワークス テータスを確認する方法	250

#### ネットワーク設定の詳細

アプライアンスのネットワーク設定により、組み込み Linux バックアップサーバ (HYPER-V マネージャでの仮想名: Linux BackupSvr)を NAT の背後で稼働させる ことができます。これにより以下の利点があります。

- ユーザは、組み込み Linux のホスト名を変更する必要がありません。
- ユーザは、Linux バックアップ サーバのネット ワーク上の IP を保存します。
- Linux バックアップ サーバは、パブリック ネット ワーク上 のマシンに接続 できます。
- アプライアンス サーバ専用の特別なポートを介して、パブリックネットワーク上の 任意のマシンを Linux バックアップ サーバに接続できます。

ネットワーク設定の詳細:

Hyper-V マネージャで、Linux-BackupSvr によってのみ使用される内部のみの仮想スイッチ – Linux-BkpSvr-Switch が利用可能です。

石則		状態	CPU 使用率	メモリの語	眇当て	稼働時間	状況
Linux-BackupS	vr 💽	: <u>仮想スイッチ</u> 満 新しい仮想	ネットワーク スイッチ	APP	LIATEST よ。仮想 名前(M):	「 <b>75 の仮想スイ</b> ッ スイッチのプロパティー	リチ マネージャー
	4	Linux-BkpS 内部のみ	vr-Switch		Linux-Bkr	Sur-Switch	
	×	<u>グローバルネッ</u>	<mark>トワーク設定</mark> スの範囲 34-17-00 から 00-15	-5D	メモ(T):		
チェックポイント	(C)				- 接続の利 接続先	種類 5の仮想スイッチの種類	類を選択してください。
チェックポイント	(C)				- 接続の精 接続先 〇 外: Int	種類 5の仮想スイッチの種 部ネットワーク <b>(E):</b> tel(R) I350 Gigabit N	類を選択してください。 letwork Connection
チェックポイント	(C)				- 接続の 接続先 ○ 外 Int	種類 この仮想スイッチの種 部ネットワーク(E): tel(R) I350 Gigabit N 管理オペレーティング る(M)	類を選択してください。 letwork Connection グシステムにこのネットワーク
チェックポイント	(C)				- 接続の 接続先 ○ 外: □ □	種類 この仮想スイッチの種 <sup>3</sup> 部ネットワーク(E): tel(R) I350 Gigabit N 管理オペレーティング る(M) シングルルート I/O (	類を選択してください。 letwork Connection プシステムにこのネットワーク 反想化 (SR-IOV) を有効につ
チェックポイント	(C				- 接続の料 接続先 ○ 外: □ □ □	種類 この仮想スイッチの種 部ネットワーク(E): tel(R) I350 Gigabit N 管理オペレーティング る(M) シングルルート I/O ( 部ネットワーク(I)	類を選択してください。 letwork Connection ブシステムにこのネットワーク 反想化 (SR-IOV) を有効につ

コントロールパネル、ネットワークとインターネット、ネットワーク接続に、
 「LinuxBkpSvr」という名前の「Hyper-V Virtual Ethernet Adapter」が表示されま

す。 デフォルトでは、以下のように、このスイッチの IPv4 を 192.168.10.1 として設定しています。



デフォルトで、アプライアンスマシンには DHCP サーバが設定されています。
 DHCP サーバは、HYPER-V 仮想アダプタ上でのみ稼働します。

<b>P</b>	DHCP	
ファイル(F) 操作(A)	表示(V) ヘルプ(H)	
🗢 🔿 🖄 📰 🗙		
DHCP	名前 IPv4 IPv6 IPv4 IPv6 DHCP サーバーがクライアントにサービスを提供するときに使う接続を選んでください。この一覧にエントリカ い場合は、静的 IP アドレスがこのコンピューター用に構成されているかどうか確認してください。 接続とサーバーの結合(C): 192.168.10.1 LinuxBkpSvr	<b>×</b> 称
	OK キャンセル 適用()	A)

デフォルトでは、アドレスプールには192.168.10.2のみがあり、これによって、組み込みLinuxバックアップサーバがIP192.168.10.2を確実に取得できます。
📜		C	HCP
ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)			
🗢 🔿 🙍 🖬 🙆 🔂 👫			
🕎 DHCP	開始 IP アドレス	終了 IP アドレス	説明
appliatest75	192.168.10.2	192.168.10.2	アドレスの割り当て
⊿ 🚡 IPv4			
⊿ <u>満</u> スコープ [192.168.10.0] nat			
📑 アドレス プール			
🔂 アドレスのリース			
▶ 💼 予約			
📑 スコープ オプション			
🔯 ポリシー			
📑 サーバー オプション			
🔯 ポリシー			
▷ 📝 フィルター			
IPv6			

■ アプライアンスマシン上で NAT が設定されました。

名前	状態	デバイス名	接線
LinuxBkpSvr	識別されていないネットワーク	Hyper-V Virtual Ethernet Ad	わ
🏺 イーサネット	無効	Intel(R) I350 Gigabit Netwo	
🏺 イーサネット 2	無効	Intel(R) I350 Gigabit Netwo	
🏺 イーサネット 5	ARCSERVE.COM	Intel(R) I350 Gigabit Netwo	わ
🏺 イーサネット 6	無効	Intel(R) I350 Gigabit Netwo	

C:¥Windows¥System32>netsh routing ip nat dump NAT 構成 ∄ pushd routing ip nat uninstall install set global tcptimeoutmins=1440 udptimeoutmins=1 loglevel=ERROR #インターフェイス イーサネット2 の NAT 構成 add interface name="イーサネット2 " mode=FULL |インターフェイス イーサネット5 の NAT 構成 add interface name="イーサネット5 " mode=FULL #インターフェイス LinuxBkpSvr の NAT 構成 add interface name="LinuxBkpSvr" mode=PRIVATE popd

Linux バックアップ サーバ用 に、アプライアンス上 でポート リダイレクションを設定しています。

C:¥Windows¥Syste	em32>netsh ir	nterface portprox	xy show all
ipv4 をリッスンT	する:	ipv4 に接続する	:
Address	Port 	Address	Port 
* * *	8018 8019 8035	192.168.10.2 192.168.10.2 192.168.10.2	8014 22 8035

Linux バックアップ サーバは、DHCP サーバから IP アドレス 192.168.10.2 を取得します。IP アドレスを取得した後、バックエンドスクリプト (C:\Program

Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1) は Linux と通信し、Linux のシステムロケールを変更して、アプライアンス Windows OS のシステムロケールと一致させます。

[root@Linu DEVICE=eth TYPE=Ether ONBOOT=yes NM_CONTROL BOOTPROTO=	x-BackupSvr network-scripts]# cat ifcfg-eth0 0 net : LED=yes :dhcp
DEFROUTE=y	
NAME="ethu	
Lroot@Linu	x-BackupSvr network-scripts1# if config
етио	inet6 addr: fe80::215:5dff:fe0a:400/64 Scope:Link UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1 RX packets:481943 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0 TX packets:100859 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0 collisions:0 txqueuelen:1000 RX bytes:36784482 (35.0 MiB) TX bytes:21795976 (20.7 MiB)
lo	Link encap:Local Loopback inet addr:127.0.0.1 Mask:255.0.0.0 inet6 addr: ::1/128 Scope:Host UP LOOPBACK RUNNING MTU:65536 Metric:1 RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0 TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0 collisions:0 txqueuelen:0 RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)

## NIC チーミングを設定する方法

Arcserve アプライアンス には、組み込み Ethernet ポートが搭載されています。これ らのポートを使用するには、イーサーネット NIC チーミングが設定されている必要が あります。NIC チーミングでは、複数のネットワーク アダプタをチームにまとめることに より、帯域幅およびトラフィックのフェールオーバを集約し、ネットワークコンポーネン トに障害が発生した場合に接続を維持することができます。

使用可能な NIC チームを設定するには、リンクの集約をサポートするネットワーク スイッチが必要です。ネットワークスイッチのベンダおよび Microsoft Windows の構成ドキュメントを参照し、NIC チームを設定してください。

ネットワークスイッチの設定後、次の手順を実行します。

1. Windows デスクトップで、Arcserve アプライアンス ウィザードを起動します。

DHCP または静的 IP アドレスを使用している場合、 トットワーク接続]画 面で NIC チームの IP アドレスを設定できます。 有効な IP アドレスが NIC チー ムに割り当てられており、ネットワーク上で利用可能であることを確認しま す。

ネットワーク接続			
接続名	IP アドレス	說明	
SLOT 2 ポート 2 ② 提読済み	DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter	辐集
SLOT 2 ボート 1 〇 未提続	<b>割り当てなし</b> DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet 10G 2P X550-t Adapter #2	編集
NIC2 〇 未接続	<b>割り当てなし</b> DHCP を介した自動	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet	辐集

2. 以下のコマンドを実行します。

C:\\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat

設定が完了し、以下のメッセージが表示されます。



正しく機能していることを確認するには、Hyper-V マネージャで Linux バック アップサーバにログインし、イントラネット上の特定のコンピュータに対して IP アドレスを ping します。失敗した場合は、確認し、この手順を繰り返しま す。

# DHCP サーバを無効化する方法

DHCP サーバは、アプライアンス上ではデフォルトで有効になります。DHCP サーバ が、アプライアンス上の Hyper-V 仮想 Ethernet アダプタ - *LinuxBkpSvr* でのみ動作 し、プリインストールされた Linux バックアップ サーバが IP アドレスを取得でき、アプラ イアンスとの通信が可能で、実稼働ネットワーク環境に影響を与えないことを確 認します。

#### DHCP サーバを無効にするには、次の手順を実行します。

- 1. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Configuration\Appliance.properties を開 きます。
- 2. ファイルを DHCP\_ENABLE=false と変更します。Appliance.propertiesには以下のように表示されます。

DHCP\_ENABLE=false AdapterName=LinuxBkpSvr Appliance\_IPAddress=192.168.10.1 Linux IPAddress=192.168.10.2

- 3. ファイルを保存します。
- 4. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\dhcpdone.flag を削除します。
- 5. C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1を DOS コマンド ラインから 以下のように実行し、DHCP サーバサービスを無効化します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1

# プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP ア ドレスを設定する方法

プリインストールされた Linux バックアップ サーバは、デフォルトで IP 192.168.10.2 を 使用して、アプライアンス サーバと通信します。 プリインストールされた Linux バック アップ サーバがアプライアンス サーバと通信する方法については、 プリインストールさ れた Linux バックアップ サーバのネット ワーク設定概要を参照してください。

プリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスを指定するには、次の手順を実行します。

- 1. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\Configuration\Appliance.properties を開 きます。
- 2. Appliance\_IPAddress および Linux\_IPAddress の IP アドレスを変更します。 たとえば、Appliance\_IPAddress を 192.168.100.1 に、Linux\_IPAddress を 192.168.100.2 に設定します。

注:

- ◆ Appliance\_IPAddress の IP アドレスは、このプリインストールされた Linux バックアップ サーバとの通信に使用されるネットワーク インターフェース LinuxBkpSvr (Hyper-V 仮想 Ethernet アダプタ)に設定されます。
- ◆ Linux\_IPAddress の IP アドレスは、プリインストールされた Linux バック アップ サーバに設定されます。
- ◆「Appliance\_IPAddress」および「Linux\_IPAddress」が同じサブネットワークの IP アドレスを使用していることを確認してください。

変更後、ファイルの内容は以下のようになります。

DHCP\_ENABLE=true

AdapterName=LinuxBkpSvr

Appliance\_IPAddress=192.168.100.1

Linux\_IPAddress=192.168.100.2

- 3. ファイルを保存します。
- 4. ファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\dhcpdone.flag を削除します。
- 5. C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetdhcp.ps1 を実行し、ネットワークイ

ンターフェース LinuxBkpSvr とプリインストールされた Linux バックアップ サーバの IP アドレスをリセットします。

注:

ユーザが Linux\_IPAddress を変更する場合、処理中にプリインストールされた Linux バックアップサーバはシャット ダウンし、再起動します。

6. コマンド プロンプトで以下のコマンドを実行します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1

# 負荷分散のために DNS サーバ上でラウンド ロビンを有効にする方法

Microsoft DNS サーバでは、サーバ間の負荷分散に使用される技術であるラウンドロビンをサポートしています。この機能によって、DNS では

myserver.mydomain.com のクエリを受信する場合に両方のIP アドレスを送信できます。クライアント(またはリゾルバ)では、常に最初のものを使用します。次に DNS がこの名前のクエリを受信するときに、IP アドレスのリストの順序はラウンド ロビン 手法を使用して変更されます(以前のリストで1番目だったアドレスは、新しいリストの最後になります)。1つのエイリアスに対して1つのカノニカル名しか許可されないため、名前レコードのラウンドロビンはサポートされていません。

アプライアンスで、ドメイン ネーム サーバ(DNS) にすべての IPv4 アドレスのレコードを 追加し、ネット ワーク インターフェース全体 で負荷分散 することができます。

サーバ間の負荷分散の詳細については、RFC 1794 を参照してください。

#### 追加の IP アドレスのレコードをドメイン ネーム サービス サーバに追加する方法

サーバに 2 つ以上のネットワーク インターフェースカード(NIC) があるか、サーバの NIC に 2 つ以上の IP アドレスが指定されている場合は、各 IP アドレスの「A」レ コードを作成することによって、追加の IP アドレスのレコードを DNS サーバに追加 できます。

例:

サーバの DNS ホスト名 が <myserver> で、DNS ドメイン名 が <mydomain.com> であるとします。このサーバには、以下の2つの IP アドレスが割り当てられています。

- IPAddress1
- IPAddress2

これらの IP アドレスを DNS サーバに追加 するには、以下 のように 2 つの「A」レコードを <mydomain.com> ゾーンに作成します。

- Myserver A <IPAddress1>
- Myserver A <IPAddress2>

リゾルバが毎回同じ IP アドレスを取得できるようにするには、以下のように、各ア ドレスに一意の名前を割り当てる「A」レコードをさらに2つ作成します。

- Altname1 A <IPAddress1>
- Altname2 A <IPAddress2>

この方法を使用すると、リゾルバはAltname1に対するクエリを送信するときは常に IPAddress1を取得し、Altname2に対するクエリを送信するときは常にIPAddress2 を取得します。

# アプライアンスのネット ワークス テータスを確認する方 法

ApplianceNetworkStatusCheck.ps1 ツールは、Arcserve アプライアンス サーバの現在 のネットワーク状態全体に関する情報を収集し、XML 形式でレポートを生成する ために使用されます。このレポートには、ネットワークアダプタ、ネットワークスイッ チ、Hyper-V 仮想スイッチ、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホ スト構成プロトコル)、DNS (Domain Name System、ドメイン ネームシステム)、 RRAS (Route and Remote Access Service、ルーティングとリモート アクセス サービ ス)、およびサーバ上のその他の主要な設定に関する情報が含まれます。 ApplianceNetworkStatusCheck.ps1 ツールは、Arcserve アプライアンス サーバ UDP V7.0 Update1 で利用可能です。

このツールを使用してアプライアンスサーバのネットワークステータスレポートを生成 するには、以下の手順に従います。

- 1. 管理者として Arcserve アプライアンス サーバにログインします。
- 2. コマンド プロンプトを開き、フォルダの場所を入力します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance

3. ApplianceNetworkStatusCheck.ps1を実行してレポートを生成します。

#Powershell .\ApplianceNetworkStatusCheck.ps1



ブラウザが開き、アプライアンス サーバのネット ワーク ステータス レポート 全体が表示 されます。

# 第11章:安全に関する注意事項についての理解

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

一般的な安全に関する注意事項	
電気に関する安全のための注意事項	
FCC コンプライアンス	
静電気放電(ESD)に関する注意事項	

### 一般的な安全に関する注意事項

以下の一般的な安全に関する注意事項に従い、安全に注意を払い、またアプ ライアンスを障害や誤動作から保護する必要があります。

EMI クラスA機器(商用機器)の場合、本装置は家庭用ではなく、商用機器(A)としてEMC(Electromagnetic Compatibility) Registration に登録されています。販売者およびユーザは、この点において注意する必要があります。

A급기기(업무용방송통신기자재)

이 기 기 는 업 무 용 (A급)으로 전 자 파 적 합 기 기 로 서 판 매 자 또 는 사 용 자 는 이 점 을 주 의 하 시 기 바 라 며,가 정 외 의 지 역 에 서 사 용 하 는 것 을 목 적 으 로 합 니 다

**注**: この注意事項は韓国にのみ適用されます。詳細については、Arcserve サポート (<u>https://www.arcserve.com/support</u>) までお問い合わせいただくか、 0079885215375 (韓国) までお電話ください。

- アプライアンスに同梱されている内容をチェックして破損がないことを確認します。破損の証拠がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください: https://www.arcserve.com/support。
- アプライアンスを格納するラックユニットの適切な場所を決定します。これは、 よく換気され、ごみなどがない清潔かつ無塵の領域に配置する必要があります。熱、電気的ノイズ、電磁場が生じる場所は避けてください。
- また、接地された電源コンセントが少なくとも1つある場所の近くに配置する 必要があります。モデルによっては、アプライアンスに1つの電源または冗長電 源装置のいずれかが含まれており、2つの接地されたコンセントが必要になり ます。
- アプライアンスは、限られた場所でのみ使用するものです。
  - 場所に適用される制限の理由および従うべき注意事項について指示 されているユーザまたはサービス担当者からアクセスを得ることができます。
  - アクセスするには、ツールまたはロックおよびキー、セキュリティの別の手段によって与えられ、その場所に責任を持つ担当者によって制御されます。
- アプライアンスから取り外した上部のカバーやコンポーネントは、誤って踏むことがないようにテーブルの上に置きます。

- アプライアンスを使用して作業する際は、ネクタイや袖のボタンを留めていない シャツなどゆるやかな服装は避けてください。そのような服装は、電子回路に 触れたり、冷却ファンに巻き込まれたりする可能性があります。
- 宝飾品や金属のものは、金属導体であり、プリント基板(PCB)または電流が 流れている場所に接触すると、ショートしたり損傷を生じさせたりする可能性 があるため、身に付けないでください。
- アプライアンスの内部にアクセスし、すべての接続が行われたことを確認したら、アプライアンスを閉じて、留めねじでラックユニットに固定します。

### 電気に関する安全のための注意事項

以下の電気安全に関する注意事項に従い、安全に注意を払い、またアプライ アンスを障害や誤動作から保護する必要があります。

- アプライアンス上の電源オン/オフのスイッチの場所と、部屋の緊急電源遮断 スイッチ、切断スイッチ、電源コンセントの場所を確認します。電気的事故が 発生した場合は、アプライアンスから電力を素早く切断することができます。
- 高電圧の部品を扱う場合は、1人で作業しないでください。
- システムの主要部品(サーバボード、メモリモジュール、DVD-ROM、フロッピードライブなど)を取り外したり配置したりする場合は、必ずアプライアンスから電力を切断する必要があります(ホットスワップ可能なドライブには必要ありません)。電力を切断する場合は、最初にオペレーティングシステムでアプライアンスの電源を切り、次にアプライアンスのすべての電源モジュールから電源コードのプラグを抜きます。
- 露出している電子回路の周りで作業する場合、電源切断の制御に慣れている別の担当者が待機し、必要に応じて電源スイッチをオフにする必要があります。
- 電源がオンになっている電子機器を扱う場合は、片手のみを使用します。これは、完全に閉じられた回路を防ぐためです。完全な回路は電気ショックを引き起こす可能性があります。金属のツールを使用する場合、電子部品や回路基板に接触すると簡単に損傷を与える可能性があるため、特に注意します。
- 感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。代わりに、電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。
- 電源装置の電源コードには、アース端子付きプラグが含まれている必要があり、アース接地用コンセントに接続する必要があります。
- サーバボード バッテリ:注意 オンボード バッテリの上下を逆に設置すると、極性が逆になり、爆発の危険があります。このバッテリは、メーカによって推奨されるのと同じ種類または同等の種類でのみ置き換える必要があります。メーカの指示に従って使用済みバッテリを破棄します。
- DVD-ROM レーザー: 注意 このサーバには、DVD-ROM ドライブが装備されている場合があります。レーザービームへの直接の露出および有害な放射線被ばくを回避するため、筐体を開いたり、通常とは異なる方法でユニットを使用したりしないでください。

## FCC コンプライアンス

このアプライアンスは、FCC 規則の Part 15 に準拠しています。以下の条件に従って運用される必要があります。

- このアプライアンスは、有害な干渉を引き起こしません
- このアプライアンスは、受け取った干渉を受け入れる必要があります(意図しない操作を発生させる可能性がある干渉を含む)

**注**: この機器はテストされ、クラス A のデジタル機器の制限に従っており、FCC 規 則の Part 15 に準拠していることが検証されています。これらの制限は、機器が 商用目的で運用された場合に有害な干渉に対して適切な保護を提供するよ うに設計されています。この機器は、電磁波を発生および利用し、外部に放射 することがあり、正式な手順に従って設置および使用されない場合は、無線通 信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地域でこの機器を稼働 させると、有害な干渉が発生する可能性があり、ユーザは自らの費用負担で干 渉を是正する必要があります。

## 静電気放電(ESD)に関する注意事項

静電気放電(ESD)は、異なる電荷の2つの物体が互いに接触することによって 生じます。静電気は、この電荷の違いを中和しようとして発生し、電子部品やプ リント回路基板に損傷を与える可能性があります。ESDに敏感なデバイスには、 サーバボード、マザーボード、PCleカード、ドライブ、プロセッサ、メモリカードなどが あり、特殊な扱いが必要となります。接触する物体の電荷の違いを中和するた めの努力として、接触前に以下の注意事項に従い、機器をESDから保護しま す。

- 電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。
- 静電気の放電を防ぐように設計されている接地されたリストストラップを使用します。
- 帯電または放電(ESD)を予防する洋服または手袋を使用します。
- すべての部品およびプリント回路基板(PCB)は、使用するまで静電気防止 バッグに入れておきます。
- 基盤を静電気防止バッグから取り出す前に、接地されたメタルオブジェクトに触れます。
- 部品または PCB が洋服に触れないようにします。触れた場合は、リストストラップを装着していても静電気を帯びる可能性があります。
- ボードを扱う際は、その端のみに触れるようにします。その部品、周辺チップ、 メモリモジュール、接点に触れないでください。
- チップまたはモジュールを扱う場合、そのピンに触れないようにします。
- サーバボードおよび周辺機器を使用しない場合は静電気防止バッグに戻します。
- 接地目的のため、アプライアンスが、電源、ケース、マウントファスナー、サーバボード間で優れた伝導性を提供することを確認します。

# 第12章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ上の Sophos のアクティブ化

このセクションでは、Arcserve アプライアンス上で Sophos をアクティブ化 する方法 に 関する情報を提供します。

#### 重要:

- 配信プロセスの一部として、Sophos Intercept X がプレインストールされた Arcserve アプライアンスの新規のお客様には、簡単なアクティブ化手順が含まれた電子メールが送信されます。アクティブ化プロセスを完了するには、 指定された方法に従ってください。既存のお客様の場合、Arcserve アプラ イアンスには Sophos Intercept X はプレインストールされません。Sophos Intercept X を手動でダウンロードしてインストールすることをお勧めします。
- 方法1または方法2を使用したSophosのアクティベーションは、アプライアンスXシリーズには適用できないため、Sophosを手動でインストールする必要があります。完全なインストールプロセスの詳細については、「Arcserveアプライアンス用Sophos Intercept X Advanced for Serverを手動でインストールする」を参照してください。

#### 以下の手順に従います。

1. Sophos から電子メールを受信した後、パスワードを設定するには、 **Set** up my password ]リンクをクリックします。

**注:** 複数の顧客アカウントに適用する場合は、Sophos から各アカウントに 対する対応する数のウェルカム電子メールを受信し、それに応じてパスワー ドをセットアップします。

すでに既存の顧客アカウントを持っていて、同じ顧客アカウントを使用し続けてもう1つのArcserve アプライアンス Sophos をアクティブ化する場合は、この顧客アカウントに関連付けられた電子メールアドレスにこのようなウェルカム電子メールは送信されません。Zip ファイルと Sophos アクティブ化の手順を含む電子メールがArcserve から届きます。

Welcome to Sophos Central Territor Intex x			ø	Ø
do-not-reply@central.sophos.com to ~	11:44 AM (0 minutes ago)	$\dot{\mathbf{T}}$	*	1
SOPHOS				
Welcome water				
A Sophos Central Admin account has been created for you by your company account value to a coss your account, you must set up a password	i first.			
Set up my password				
Once you have your password set up, you can log into your account with the info below.				
Website: Sochos.Central.Admin				
Login: and a state of the grant com				
NOTE: Please contact your administrator if you think you received this email by mistake.				
powered by SOPHOS © 2013 - 2019 Sophos Limited. All rights reserved.				

Arcserve アプライアンスで Sophos をアクティブにするための方法が2つ提供されます。

**注**: さらに多くの Arcserve アプライアンス Sophos をアクティブ化 するには、必要に応じて方法1または方法2の手順を繰り返します。

- 方法 1: Arcserve からの電子メールを使用した Arcserve アプライアンス上の Sophos のアクティブ化。
- <u>方法 2</u>: スクリプト Customer\_Boot.ps1 を使用した Arcserve アプライアンス
   上の Sophos のアクティブ化

# 方法 1: 電子メールを使用した Arcserve アプライアン ス上の Sophos のアクティブ化

Arcserve は、Sophos をアクティブ化 するために、電子メールで Zip ファイルを送信します。ファイルを解凍します。フォルダ「Arcserve\_Appliance\_Sophos\_Activation\_ YYYY-MM-DD-HH-MM-SS」には以下のファイルが含まれます。

- Config.xml: 設定ファイル
- Registration.txt: 登録ファイル。
- Arcserve\_Appliance\_Sophos\_Activation.ps1: Sophos をアクティブ化 するために実行 する Powershell スクリプト。

#### Sophosをアクティブ化するには以下の手順に従います。

- 1. システム管理者として Arcserve アプライアンスにログインします。
- 2. zip ファイルを Arcserve アプライアンスにコピーし、必要に応じてファイルを解 凍して展開します。
- 3. コマンド プロンプトを開き、展開したファイルを含む場所を入力します。

4. Arcserve\_Appliance\_Sophos\_Activation.ps1 を実行します。

#powershell .\ Arcserve\_Appliance\_Sophos\_Activation.ps1

5. 保護された Arcserve アプライアンスを表示するには、電子メールアドレス とパスワードを使用して Sophos Central ページにログインし、 [Devices]-[Servers]に移動します。

**注**: zip ファイルを受信した電子メールアドレスは、ログインに使用する必要があるの電子メールアドレスと同じです。

	SOPHOS CENTRAL Admin	*	Se	IVERS	our servers	_		_			
	Overview	Ŀ	<b>P</b> (	Computers	Mobil	e Devices	Servers Servers				
<b>.</b>	Jeshboerd		Sea	irch		Show	all servers	*	All Health	Status	~
<b>A</b> A	llerts										
🙄 т	'hreat Analysis Center 🕨		0	Name			IP			OS	
🖹 L	.ogs & Reports										
<u>, 1</u> P	eople										
۶ò	Devices										

アプライアンスで Sophos がアクティブ化されます。

# 方法 2: スクリプトを使用した Arcserve アプライアンス 上の Sophos のアクティブ化

このセクションでは、スクリプト Customer\_Boot.ps1 を使用して Arcserve アプライアン ス上で Sophos をアクティブ化する方法に関する情報を提供します。

#### 以下の手順に従います。

1. Sophos Central ページにログインするには、電子メールアドレスとパスワード を使用して https://cloud.sophos.com に移動します。

**注**: 異なる Arcserve アプライアンス Sophos の顧客 アカウントに複数の電子 メールアドレスが関連付けられている場合、目的の電子メールアドレスを 選択し、対応するアカウントを使用して Sophos をアクティブ化します。

2. §erver Protection]の [Protection Devices]ページに移動し、 [Show Command Line]リンクをクリックします。



- 3. mcstoken および管理サーバ情報をコピーします。
- 4. 管理者として Arcserve アプライアンスシステムにログインします。
- 5. コマンド プロンプトを開き、フォルダの場所「:\Program Files\Arcserve\Appliance\Sophos\Customer\_Boot」を入力します。

#cd "C:\Program Files\Arcserve\Appliance\Sophos\Customer\_Boot"

6. Run Customer\_Boot.ps1

#powershell .\Customer\_Boot.ps1

- 7. コマンド ライン プロンプトに基づいて MCS トークンおよび管理 サーバ値を 入力し、コマンドの実行が完了するのを待ちます。
- 8. 保護された Arcserve アプライアンスを表示するには、Sophos Central ページにログインし、 [Devices] [Servers]に移動します。

SOPHOS CENTRAL Admin	Servers     View and manage you	r servers		
Overview	Computers	Mobile Devices	Servers	
Deshboerd	Search	Q Show all se	ervers 👻 All He	alth Status 👻
🔺 Alerts				
Chreat Analysis Center	Name	IP	•	OS
🖆 Logs & Reports				
📌 People				
Devices				

アプライアンスで Sophos がアクティブ化されます。

# Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする

Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server をインストールすると、以下が有効になります。

- ランサムウェアやその他の攻撃からデータとシステムのバックアップを保護
- シグネチャベースのマルウェア検出とシグネチャなしのマルウェア検出を組み
   合わせたエンドポイント保護
- ディープラーニング ニューラル ネット ワーク
- エクスプロイト対策技術
- エンドポイントの幅広い脅威を阻止するための、CyptoGuard アンチランサム ウェアおよび WipeGuard 技術など

#### 以下の手順に従います。

- 1. Arcserve サポート Web サイトでアカウントを作成します。
- Sophos Intercept X Advanced の無償版をリクエストするには、Sophos リクエ スト フォームにすべての関連情報を入力し、Arcserve サポートに送信して ください。電子メール ID と Order ID (オーダー ID)の詳細を共有する必要 があります。自動生成された確認電子メールが送信されます。

電子メール ID を確認すると、Arcserve によってリクエストが処理され、 Sophos Central にアカウントが作成され、パスワードの作成方法が記載され たメールが送信されます。

- 3. Sophos Central で新しいアカウントのパスワードを作成するには、電子メールの指示に従います。
- 4. Sophos Central にログインします。

5. [Sophos Central]ダイアログを開き、 [Server Protection]を選択します。

	Product Setup ×
	Choose a product below to get started.
O Endpoint Protection	Mobile
Server Protection	Wireless
😣 Email Security	O Device Encryption
🔁 Web Gateway	③ Phish Threat
😂 Firewall Management	

6. [Server Protection] セクションで、 **Download Windows Server Installer**] をクリックし、**SophosSetup.exe** インストーラを UDP 上 のフォルダに保存しま す。

SOPHOS	Protect Devices	Thig is an and a second s
Overview Destingent	Provide have the installants for endpoints and an arcs/PP	
k Anto Donar Indijen Canter k Donar Kalgen Donar	<ul> <li>Engine Protection</li> <li>None specified on each anni</li> <li>Sensitive Damper for a compare protect to protect</li> <li>Sensitive Dampers (Status)</li> <li>Sensitive Dampers (Status)</li> <li>Sensitive Dampers,</li> <li>Description Dampers,</li> <li>Build helders, to their</li> </ul>	Verbel: Cardonnessy      Anderees of the messary game of the messary of
2 Source Fundament       2 Source Fundament       3 Source Fundament       4 Source Fundament       5 Source Fundament	Durlinet Endpoint Management and Mobile Security Reno mergenet of Mate Trans Trans Duran     Durline mediated a security with protect a basis	General Phytoticity:     Makes     Market and physics, strate in cluster areas that pay such to points:     Market in space and physics, while in cluster areas that pay such to points:     Market and the space and physics, strate areas that physics.     Market and the space areas a

7. インストーラを起動するには、フォルダを開き、SophosSetup.exe をダブルク リックします。

注: Sophos Intercept-X のインストール中に予期しない動作が発生しないようにするには、サーバから Windows Defender やその他のアンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。Sophos は、Sophos 以外の一部のセキュリティ製品を Windows サーバから削除します。詳細については、「Sophos CRT: Sophos によって削除されるサードパーティ製のセキュリティソフトウェア」を参照してください。

8. [インストール]をクリックします。



9. システムをすぐに再起動するには、 完了]をクリックします。後で再起動 するには、 Restart my computer now]オプションをオフにします。

SOPHO	Server Protection Installer	- ×
0	Installation successful	
	Please restart your computer to complete the installation.	
Legal Info V	Final	sh

10. 保護ステータスを表示するには、Sophos Intercept X インターフェースを開きます。

SOPHOS Status Ev	ents	Admin login – 🗙
Your com	puter is protected	Scan
Malware and PUAs O detections	Web Threats O requests blocked	Malicious Behavior     O     detections
(ii) Controlled Items O user notifications	Malicious Traffic     O     connections detected	S Exploits O detections
		Help   About

このステータスは、Arcserve UDP 8.0 がランサムウェア攻撃、マルウェア、Web 脅威、およびゼロデイエクスプロイトから保護されていることを示します。

11. Sophos Central にアクセスするには、 [Admin Login]をクリックします。これに よって、Sophos Intercept X Advanced Server の管理、アラート やポリシーの 設定などを行うことができます。

注:

- Sophos Intercept X Advanced および関連する更新をインストールする には、Arcserve UDP でインターネットに接続する必要があります。
   Sophos Intercept X Advanced はクラウドベースで、オフラインインストー ラは利用できません。
- 以前に別のUDPを購入していて、Arcserveを通じて Sophosのアカウントを持っている場合は、すべての Arcserve UDP 8.0 に同じアカウントを使用します。
- Sophos から直接購入するなど、他の購入を通じて Sophos のアカウントをすでに持っている場合は、Sophos Central の別のアカウントには異なる電子メールアドレスを指定します。
- 何らかの理由で Sophos のインストールが失敗した場合は、画面または電子メールの指示に従って、エラーメッセージと共に表示されます。
- マルウェア定義の更新やバージョンのアップグレードなど、Sophos Intercept X Advanced for Serverの更新を受け取るには、Arcserve UDPの有効でアクティブなメンテナンスまたはサブスクリプションが必要です。

詳細については、電話(+1.844.765.7043) かオンラインで Arcserve テクニカル サポートにお問い合わせいただくか、最寄りの Arcserve サポート オフィスにお 問い合わせください。

# 第12章: Arcserve アプライアンス X シリーズ上の Sophos のアクティブ化

このセクションでは、Arcserve アプライアンス上で Sophos を手動 でアクティブ化する 方法に関する情報を提供します。

## Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server を手動でインストールする

Arcserve UDP 用 Sophos Intercept X Advanced for Server をインストールすると、以下が有効になります。

- ランサムウェアやその他の攻撃からデータとシステムのバックアップを保護
- シグネチャベースのマルウェア検出とシグネチャなしのマルウェア検出を組み
   合わせたエンドポイント保護
- ディープラーニングニューラルネットワーク
- エクスプロイト対策技術
- エンドポイントの幅広い脅威を阻止するための、CyptoGuard アンチランサム ウェアおよび WipeGuard 技術など

#### 以下の手順に従います。

- 1. Arcserve サポート Web サイトでアカウントを作成します。
- Sophos Intercept X Advanced の無償版をリクエストするには、<u>Sophos リクエストフォーム</u>にすべての関連情報を入力し、Arcserve サポートに送信してください。電子メール ID と Order ID (オーダー ID)の詳細を共有する必要があります。自動生成された確認電子メールが送信されます。

電子メール ID を確認すると、Arcserve によってリクエストが処理され、 Sophos Central にアカウントが作成され、パスワードの作成方法が記載され たメールが送信されます。

- 3. Sophos Central で新しいアカウントのパスワードを作成するには、電子メールの指示に従います。
- 4. Sophos Central にログインします。
- 5. [Sophos Central]ダイアログを開き、 [Server Protection]を選択します。

	Product Setup	×
	Choose a product below to get started.	
S Endpoint Protection	Ø Mobile	
Server Protection	Wireless	
😣 Email Security	Ø Device Encryption	1
🤨 Web Gateway	(3) Phish Threat	
Ġ Firewall Managemer	t	

6. [Server Protection] セクションで、 [Download Windows Server Installer] をクリックし、SophosSetup.exe インストーラを UDP 上 のフォルダに保存しま す。

SOPHOS	Protect Devices	Reg a anomini
	The defines the induliers for originate and an and M	
Anne Andreas Carter & Anne Andreas Carter & Anne Andreas Carter & Andreas Andr	<ul> <li>Enclosed probability of efforts</li> <li>Notes a probability of efforts</li> <li>Notes a probability of expected to probability</li> <li>Notes and a probability</li> </ul>	<ul> <li>Web Catavary O Automatic and an accury there is any accurate any accurate and accurate the product.</li> <li>A method of counter 18 student</li> <li>A method of counter is balance</li> <li>A method of counter is balance</li> <li>A method of the model</li> <li>A method of the model</li> <li>A method of the model</li> </ul>
	<ul> <li>(build Endpoint Management and Mobile Security Bene surgered and Motio Tread Delvas.</li> <li>The Remained and American Bene Bene.</li> </ul>	Server Posterion     Posterio     Posterion     Posterion     Posterion     Posterion     Poste

7. インストーラを起動するには、フォルダを開き、SophosSetup.exe をダブルク リックします。

注: Sophos Intercept-X のインストール中に予期しない動作が発生しないようにするには、サーバから Windows Defender やその他のアンチウイルスソフトウェアを無効にしてください。Sophos は、Sophos 以外の一部のセキュリティ製品を Windows サーバから削除します。詳細については、「Sophos CRT: Sophos によって削除されるサードパーティ製のセキュリティソフトウェア」を参照してください。

8. [インストール]をクリックします。



9. システムをすぐに再起動するには、 完了]をクリックします。後で再起動 するには、 Restart my computer now]オプションをオフにします。

SOPHO	Server Protection Installer	- ×
Ø	Installation successful	
	Please restart your computer to complete the installation.  Restart my computer now	
Legal Info V	fersion; 1.5	sh

10. 保護ステータスを表示するには、Sophos Intercept X インターフェースを開きます。

SOPHOS Status E	vents	Admin login – 🗙
Your com	nputer is protected	Scan
Malware and PUAs O detections	Web Threats O requests blocked	Malicious Behavior     O     detections
(ii) Controlled Items O user notifications	Malicious Traffic O connections detected	S Exploits O detections
		Help   About

このステータスは、Arcserve UDP 8.0 がランサムウェア攻撃、マルウェア、Web 脅威、およびゼロデイエクスプロイトから保護されていることを示します。

11. Sophos Central にアクセスするには、 [Admin Login]をクリックします。これに よって、Sophos Intercept X Advanced Server の管理、アラート やポリシーの 設定などを行うことができます。

注:

- Sophos Intercept X Advanced および関連する更新をインストールする には、Arcserve UDP でインターネットに接続する必要があります。
   Sophos Intercept X Advanced はクラウドベースで、オフラインインストー ラは利用できません。
- 以前に別のUDPを購入していて、Arcserveを通じて Sophosのアカウントを持っている場合は、すべての Arcserve UDP 8.0 に同じアカウントを使用します。
- Sophos から直接購入するなど、他の購入を通じて Sophos のアカウントをすでに持っている場合は、Sophos Central の別のアカウントには異なる電子メールアドレスを指定します。
- 何らかの理由で Sophos のインストールが失敗した場合は、画面または電子メールの指示に従って、エラーメッセージと共に表示されます。
- マルウェア定義の更新やバージョンのアップグレードなど、Sophos Intercept X Advanced for Serverの更新を受け取るには、Arcserve UDPの有効でアクティブなメンテナンスまたはサブスクリプションが必要です。

詳細については、電話(+1.844.765.7043)かオンラインで Arcserve テクニカル サポートにお問い合わせいただくか、最寄りの Arcserve サポート オフィスにお 問い合わせください。

# 第12章: Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのファー ムウェアのアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの BIOS ファームウェアのアップグレード	
Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの iDRAC ファームウェアのアップグレート	<u>د</u>

# Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの BIOS ファーム ウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

# BIOS ファームウェア バージョンの表示

BIOS ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを 使用します。

- 方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する
- 方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから BIOS ファームウェア バー ジョンを表示する

# 方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファーム ウェアのバージョンを表示する

以下の手順に従います。

- 1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
- 2. ログインするには、以下のように入力します。
  - ユーザ名:root
  - パスワード: ARCADMIN



iDRAC ダッシュボード ページには、BIOS ファームウェア バージョンを含む システム情報 が表示されます。

# 方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する

#### 以下の手順に従います。

- 1. システムが起動したら、F11 キーを押してセットアップに入ります。
- 2. BIOS バージョンを表示するには **§ystem Setup**]- **[DRAC Settings**]または **§ystem BIOS**]に移動します。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.6.11	
IDRAC Firmware Version	3.21.23.22 (Build 7)	
IDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
IDRAC MAC Address	D0:94:66:7A:D7:B2	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	Yes	

272 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.4.9	
iDRAC Firmware Version	3.21.21.21 (Build 30)	
iDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
iDRAC MAC Address	54:48:10:FB:C5:20	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	No	

## BIOS の更新されたパッケージのダウンロード

Dell の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ モデルの最新の BIOS ファームウェア パッケージをダウンロード するか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

## BIOS のアップグレード

以下の手順に従います。

- 1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのローカル ディスクにコピーします。
- アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを 完了します。
- 3. 更新を完了するには、システムを再起動します。



**注**: アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。



## 更新された BIOS の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- システムログを使用して更新された BIOS を確認する
- iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する

## システム ログを使用して更新された BIOS を確認する

以下の手順に従います。

- 1. iDRAC にログインし、 [Maintenance]- [SupportAssist]- [Start a Collection]に移動します。
- 2. ログを確認し、更新プロセス中にエラーがないことを確認します。

5CTNHQ2 2019-09-03 21:12:55

> Hard	tware > Logs > Lifecyc	le Log	
	2019-08-29 15:40:34	USR0032	The session for root from 10.57.12.37 using GUI is logged off.
	2019-08-29 15:10:35	SRV088	The Support Assist Save to Local operation is successfully completed.
	2019-08-29 15:10:34	SRV002	The Support/Assist Save to Local operation is started.
	2019-08-29 15:10:20	SRV108	The SupportAssist job JID_670625874264 is completed.
	2019-08-29 15:10:20	SRV088	The SupportAssist Collection operation is successfully completed.
	2019-08-29 15:10:20	SRV096	The Support/Assist Collection TSR20190829021014_SCTNHQ2.zip is successfully created.
	2019-08-29 15:10:13	SRV007	The SupportAssist System information collection operation is successfully completed.
	2019-08-29 15:10:13	LOG009	The current Lifecycle Log is successfully created for the view or export operation.
	2019-08-29 15:10:07	LOG008	The complete Lifecycle Log was successfully created for an export operation.
	2019-08-29 15:09:47	SRV006	The Support Assist System information collection operation is started.
	2019-08-29 15:09:47	SRV001	The Support/Josist Collection operation is started by IDRAC_GUI.
	2019-08-29 15:09:47	SRV106	The Debug Logs are excluded from the SupportAssist collection because the Collection data is being filtered for personally identifiable information.
	2019-08-29 15:09:47	SRV107	The Storage Logs are excluded from the SupportAssist collection because the Collection data is being filtered for personally identifiable information.
Г	2019 00 29 15:09:47	SRV007	The Support/Josist Collection Job JID_670625074264 is successfully an extent
I	2019-08-29 15:09:25	RAC1195	User root via IP 10.57.12.37 requested state / configuration change to SupportAssist using GUI.
I	2019-08-29 15:08:53	SEL9901	OEM software event.
	2019-08-29 15:08:53	OSE1002	C: boot completed.
	2019-08-29 15:08:46	PR36	Version change detected for BIOS firmware. Previous version:1.6.11. Current version:2.2.11

# iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する

iDRAC Web インターフェースにログインするか、システム BIOS に入って、更新された BIOS ファームウェア バージョンを確認します。

# Arcserve アプライアンス 9000 シリーズの iDRAC ファー ムウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

## iDRAC ファームウェア バージョンの表示

iDRAC ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを 使用します。

- 方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを 表示する
- 方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する

# iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェア のバージョンを表示する

#### 以下の手順に従います。

- 1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
- 2. ログインするには、以下のように入力します。
  - ユーザ名:root
  - パスワード: ARCADMIN

Integrated Remote Acc	ess Controller 9   Enterpr			
🛉 Dashboard 🛛 🗏 Syste	sm∨ 🗑 Storage∨	Configuration V	🖂 Maintenance 🗸	0+ iDRAC Setting
Dashboard				
Graceful Shutdown     +	Identify System	More Actions 👻		
Health Information		System Information	mation	
		Power State	ON	
STSTEM	IS HEALTHY	Model		
System Health	Storage Health	Host Name	APPLIANCE9144	
Healthy Details	Healthy Details	Operating System	Windows Server 2010	5
		Operating System Version	10.0	
		Service Tag	5Q6PHQ2	
		BIOS Version	1.4.9	
		iDRAC Firmware Version	3.21.21.21	

iDRAC ダッシュボードには、iDRAC ファームウェア バージョンを含むシステム情報が表示されます。

Integrated Remote Access Controller 9   Enterprise					
Dashboard System     Dashboard     Graceful Shutdown	B Storage      E Co     identify System     More /	nfiguration∨ ⊡ Main Actions +	ttenance $\checkmark$ $\Phi_{e}$ IDRAC Settings $\checkmark$		
Health Information		ii System Inform	ation		
SYSTEM	IS HEALTHY	Power State Model	ON		
System Health	Storage Health	Host Name	appliance9012		
Healthy Details	Healthy Details	Operating System	Microsoft Windows 2016 Server, Stan dard x64 Edition		
		Operating System Version	Version 10.0 (Build 14393) (x64)		
		Service Tag	SCTNHQ2		
		BIOS Version	1.6.11		
		IDRAC Firmware Version	3 21 23 22		
		IDRAC MAC Address	d0.94.66.7a:d7.b2		

276 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド
## 方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する

#### 以下の手順に従います。

- 1. システムが起動したら、F11 キーを押してセットアップに入ります。
- 2. iDRAC バージョンを表示するには [System Setup]- [DRAC Settings]また は [System BIOS]に移動します。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings · System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.6.11	
IDRAC Firmware Version	3.21.23.22 (Build 7)	
IDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
IDRAC MAC Address	D0:94:66:7A:D7:B2	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	Yes	

#### このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.4.9	
iDRAC Firmware Version	3.21.21.21 (Build 30)	
iDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
iDRAC MAC Address	54:48:10:FB:C5:20	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	No	

## iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード

Dell の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス 9000 シリーズ モデルの最新の iDRAC ファームウェア パッケージをダウンロード するか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

## iDRAC のアップグレード

以下の手順に従います。

- 1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス 9000 シリーズのローカル ディスクにコピーします。
- 2. アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを 完了します。

**注**: アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。

iDRAC with Lifecycle Controller 3.34.34.34, A00
Success ×
Device: iDRAC, Application: iDRAC Update Successful.
The update completed successfully.
OK
The starty resources.
Elapsed time: 6m13s

3. アップグレード プロセス中、iDRAC と仮想コンソールが数分間切断されま す。iDRAC にログインし、仮想コンソールを再起動します。これでアップグ

#### レードが完了しました。

integrated Remote	Access Controller 9	Enterprise			
🕈 Dashboard 🗏 Sy	rstem∨ 😸 Stor	age 🗸 🛛 🖬 Configurati	ion 🗸 🛛 🖂 Mainten	ance V = Pr. IDRAC Settings V	
Dashboard					
O Graceful Shutdown	• Ø Identify S	More Actions	•		
II Health Informatio	'n			ii System Information	
		IO LICALTUN		Power State	ON
	SYSTEM IS HEALTHY Model				
System Health		Storage Health		Host Name	WIN-SUQLERSCBIC
S Healthy	Detailsa	S Healthy	Details+	Operating System	Microsoft Windows 2016 Server, Standard x64 Edition
				Operating System Version	Version 10.0 (Build 17763) (v64)
				Service Tag	606A/H02
				BIOS Version	2211
				IDRAC Firmware Version	3.34.34.34
				IDRAC MAC Address	54.48.10 fb:c6.20

## 更新された iDRAC の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- システムログを使用して更新されたiDRACを確認する
- iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された iDRAC を確認する

## システムログを使用して更新された iDRAC を確認する

以下の手順に従います。

- 1. iDRAC にログインし、 [Maintenance] > [SupportAssist] > [Start a Collection]に移動します。
- 2. ログを確認し、更新プロセス中にエラーがないことを確認します。

SCTN4Q2 2019-09-00.25 12:05 • Harr	lware → Logs → Lifecyc	Selag	
	2019-06-29 09:31:51	VM00007	Virtual Conscie session created.
	2019-08-29 09:31:51	VM60001	Virtual Conscie session started.
	2019-08-29 09:31:51	USR0000	Successfully logged in using root, from 30.57.12.37 and Witsuil Console.
	2019-08-29 09:31:45	USR0000	Successfully logged in using root, from \$0.57.12.37 and GUI.
	2019-06-29 09:28:22	RAC0721	Remote share mounted successfully //30.57.25.8/tool/clonec/lla/clonec/lla/live-2.6.0.37 am864.los.
	2019-08-29 09:20:56	DI\$002	Auto Discovery heature disabiled.
	2019-06-29 09:28:15	IPA0500	The IDRAC IP Address changed from 0.0.001to 10.57.25.23.
	2019-06-29 09:28:14	PR36	Version change detected for Lifecycle Controller firmware. Previous version:3.21.23.22, Current version:3.34.34.34
	2019-08-29 09:28:12	RACI582	The IDRAC firmware was rebotted with the following reason user initiated.
	2019-08-29 09:27:22	PSU0800	Power Supply 2: Status = 0x5, IOUT = 0x0, VOUT = 0x0, TEMP= 0x0, FAN = 0x0, INPUT = 0x0,
	2019-08-29 09:27:22	PSU0800	Power Supply 1: Status + Dx1, IOUT + Dx0, VOUT + Dx0, TEMP+ Dx0, FAN + Dx0, INPUT+ Dx0.
	2019-08-29 09:25:58	SJP1906	Firmware update successful.
	2019-08-29 09:24:23	SUP1905	Firmware update programming flash,
	2019-08-29 09:24:22	SUP1903	Firmware update verify image headers.
	2019-08-29 09:24:55	SUP1904	Firmware update checksumming image.
	2019-08-29 09:24:56	9JP1911	Firmware update initialization complete.
	2019-08-29 09:24:55	SUP1901	Firmware update initializing.
	2019-08-29 09:02:59	LOG203	Lifecycle Log anchived up to Log Sequence number \$495.
	2019-08-29 09:02:56	SEL9901	ODM software event.
	2019-08-29 09:02:55	OSE1002	C boot completed.
	2019-08-29 08-42-22	SY51003	System CPU Resetting.
	2019-08-29 08:42:17	\$Y\$1000	System is turning on.
	2019-08-29 08:42:07	SV51001	System is turning off.
	2019-08-29 08:42:07	5Y51003	System CPU Resetting.
	2019-08-29 08:40:28	LOG009	The current Lifecycle Log is successfully created for the view or export operation.

# iDRAC Web インターフェースまたは iDRAC から更新された BIOS を確認する

iDRAC Web インターフェースにログインするか、システム BIOS に入って、更新された BIOS ファームウェア バージョンを確認します。

## Arcserve アプライアンス X シリーズのファームウェアの アップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

## Arcserve アプライアンス X シリーズの BIOS ファームウェ アのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

## BIOS ファームウェア バージョンの表示

BIOS ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを 使用します。

- 方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファームウェアのバージョンを表示する
- 方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バー ジョンを表示する

## 方法 1: iDRAC Web インターフェースから BIOS ファーム ウェアのバージョンを表示する

以下の手順に従います。

- 1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
- 2. ログインするには、以下のように入力します。
  - ユーザ名:root
  - パスワード: ARCADMIN



iDRAC ダッシュボード ページには、BIOS ファームウェア バージョンを含む システム情報 が表示されます。

## 方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから BIOS ファームウェア バージョンを表示する

#### 以下の手順に従います。

- 1. システムが起動したら、F11キーを押してセットアップに入ります。
- 2. BIOS バージョンを表示するには **System Setup**]- **[DRAC Settings**]または **System BIOS**]に移動します。

System Setup	Help   Abou	ıt   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.6.11	
IDRAC Firmware Version	3.21.23.22 (Build 7)	
IDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
iDRAC MAC Address	D0:94:66:7A:D7:B2	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	Yes	

282 Arcserve アプライアンス ユーザ ガイド

このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.4.9	
iDRAC Firmware Version	3.21.21.21 (Build 30)	
iDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
iDRAC MAC Address	54:48:10:FB:C5:20	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	No	

## BIOS の更新されたパッケージのダウンロード

Dell の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルの最新の BIOS ファームウェア パッケージをダウンロード するか、Arcserve サポートにお問い合わせください。

## BIOS のアップグレード

以下の手順に従います。

- 1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス X シリーズのローカル ディスクにコピーします。
- アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを 完了します。
- 3. 更新を完了するには、システムを再起動します。



**注**: アップグレード プロセスを開始する前に、すべてのアプリケーションが閉じられていることを確認してください。



## 更新された BIOS の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- システムログを使用して更新された BIOS を確認する
- iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された BIOS を確認する

## Arcserve アプライアンス X シリーズの iDRAC ファーム ウェアのアップグレード

このセクションでは、以下について説明しています。

## iDRAC ファームウェア バージョンの表示

iDRAC ファームウェア バージョンを表示するには、以下の方法の方法のいずれかを 使用します。

- 方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファームウェアのバージョンを 表示する
- 方法 2: BIOS Arcserve Appliance 9000 シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する

## 方法 1: iDRAC Web インターフェースから iDRAC ファー ムウェアのバージョンを表示する

#### 以下の手順に従います。

- 1. iDRAC Web インターフェースに移動します。
- 2. ログインするには、以下のように入力します。
  - ユーザ名:root
  - パスワード: ARCADMIN

Integrated Remote Acc	ess Controller 9 Enterpr	ise		
🋉 Dashboard 🔳 Syste	m∨ ≣ Storage∨	Configuration V	☑ Maintenance ∨	• iDRAC Setting:
Dashboard				
O Graceful Shutdown	Identify System	More Actions 👻		
Health Information		System Info	rmation	ç
		Power State	ON	
- STOTEM	IS NEAL INT	Model		
System Health	Storage Health	Host Name	APPLIANCE9144	
Healthy Details	Healthy Details	Operating System	Windows Server 20	16
		Operating System Version	10.0	
		Service Tag	5Q6PHQ2	
		BIOS Version	1.4.9	
		iDRAC Firmware Version	3.21.21.21	
		iDRAC MAC Addres	s 4c:d9.8f.04:c6:a4	

iDRAC ダッシュボードには、iDRAC ファームウェア バージョンを含むシステム情

#### 報が表示されます。

Integrated Remote Access	s Controller 9   Enterprise		
🕈 Dashboard 🗏 System	∕ 🗟 Storage ∨ 🔲 C	onfiguration $\lor$ $\square$ M	aintenance $\lor$ 0 <sub>*</sub> iDRAC Settings $\lor$
Dashboard			
O Graceful Shutdown 🔹	Identify System More	Actions +	
Health Information		System Infor	mation
		Power State	ON
SYSTEM IS HEALTHY		Model	
System Health	Storage Health	Host Name	appliance9012
Healthy Details	Healthy Details	Operating System	Microsoft Windows 2016 Server, Stan dard x64 Edition
		Operating System Version	Version 10.0 (Build 14393) (x54)
		Service Tag	6CTNHQ2
		BIOS Version	1.6.11
		iDRAC Firmware Version	3.21.23.22
		IDRAC MAC Address	s d0.94:66:7a:d7:b2

## 方法 2: BIOS Arcserve アプライアンス X シリーズから iDRAC ファームウェア バージョンを表示する

以下の手順に従います。

- 1. システムが起動したら、F11キーを押してセットアップに入ります。
- 2. iDRAC バージョンを表示するには System Setup ]- [DRAC Settings]また は System BIOS ]に移動します。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.6.11	
iDRAC Firmware Version	3.21.23.22 (Build 7)	
IDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
IDRAC MAC Address	D0:94:66:7A:D7:B2	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	Yes	

このページにはファームウェアのバージョンが表示されます。

System Setup		Help   About   Exit
iDRAC Settings		
iDRAC Settings • System Summary		
SERVER INFORMATION		
System Model		
BIOS Version	1.4.9	
iDRAC Firmware Version	3.21.21.21 (Build 30)	
iDRAC License	Enterprise	
IPMI Version	2.00	
CURRENT IDRAC NETWORK SETTINGS		
iDRAC MAC Address	54:48:10:FB:C5:20	
NIC Selection Mode	Dedicated	
Current IPv4 Settings		
IPv4 Enabled	Yes	
DHCP Enabled	No	

## iDRAC の更新されたパッケージのダウンロード

Dell の Web サイトから特定の Arcserve アプライアンス X シリーズ モデルの最新の iDRAC ファームウェア パッケージをダウンロード するか、Arcserve サポートにお問い合 わせください。

## iDRAC のアップグレード

以下の手順に従います。

- 1. アップグレード パッケージを Arcserve アプライアンス X シリーズのローカル ディスクにコピーします。
- アップグレード パッケージを起動し、画面の指示に従ってアップグレードを 完了します。

**注**: アップグレード プロセスを開始 する前 に、 すべてのアプリケーションが閉じ られていることを確認してください。

iDRAC with Lifecycle Controller 3.34.34.34, A00
Success ×
Device: iDRAC, Application: iDRAC Update Successful.
The update completed successfully.
OK Bunning validation
Elapsed time: 6m13s

3. アップグレード プロセス中、iDRAC と仮想コンソールが数分間切断されま す。iDRAC にログインし、仮想コンソールを再起動します。これでアップグ レードが完了しました。

Integrated Remote Access Controller 9   Enterprise									
👬 Dashboard 🗉 System 🗸 😸 Storage V 🔛 Configuration V 🖂 Maintenance V 💁 IDRAC Settings V									
Dashboard									
Ø Dracehul Shuddown									
III Health Information II System Information									
		ID LICALTUN		Power State	ON				
	STSTEM	IS HEALTHY		Model					
System Health		Storage Health		Host Name	WIN-SUQL6R8CBIC				
S Healthy	Detailsa	S Healthy	Details+	Operating System	Microsoft Windows 2016 Server, Standard x64 Edition				
				Operating System Version	Version 10.0 (Build 17763) (x64)				
				Service Tag	\$Q\$4/HQ2				
				BIOS Version	2.2.11				
				IDRAC Firmware Version	3.34.34.34				
				IORAC MAC Address	54.4810 fb:c520				

## 更新された iDRAC の確認

以下の方法のいずれかを使用します。

- システムログを使用して更新されたiDRACを確認する
- iDRAC Web インターフェースまたは BIOS から更新された iDRAC を確認する

## 第13章:トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

Linux バックアップサーバにコンソールから接続できない	290
別のアプライアンスから Arcserve アプライアンスのバックアップを実行すると重複ノー ドがレポートされる	
	292
Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックスを取得できない	294
<u>アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン</u>	295
ライセンスがある場合でもライセンスエラーになる	296
リモート管理対象のRPS タスクでレプリケートのリモートコンソールを追加中、 Arcserve UDP コンソールにエラーが表示される	297
別のアプライアンスをモニタとして使用するとVSBタスクを実行できない	299

## Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない

#### 現象

Arcserve UDP コンソールから Linux バックアップ サーバに接続しようとすると、接続 に失敗して赤色のマークが表示されます。

#### 解決策

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続 できない場合、接続のトラブルシュー ティングを行って問題を特定することができます。

#### 接続の問題のトラブルシューティングを行う方法

- 1. Hyper-V マネージャを起動し、Linux バックアップ サーバの仮想 マシンに接続 してログインします。
- 2. 以下のコマンドを実行します。

service network restart

3. Linux バックアップ サーバに割り当 てられている IP アドレスが 192.168.10.2 で あることを確認します。確認 するには、次のコマンドを実行します。

ifconfig

- 4. IP アドレスが 192.168.10.2 である場合は、Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップサーバノードを更新します。
- 5. IP アドレスが 192.168.10.2 でない場合は、「DHCP Microsoft 管理コンソール (MMC)からのトラブルシューティング」の手順に従います。

DHCP Microsoft 管理コンソール(MMC)からのトラブルシューティング

**重要:**DHCP サーバ サービスが、アプライアンス上 で適切に実行されていることを確認します。

- 1. [サーバマネージャ]- [シール]- [DHCP]から DHCP MMC を起動します。
- 2. Linux サーバノード、IPV4、スコープを展開し、192.168.10.0 という名前のス コープがその下に存在することを確認します。
- 3. アドレスのリース]を展開し、他のリースレコードの存在を削除します。
- 4. Linux バックアップ サーバにログインし、以下のコマンドを実行します。

service network restart

5. Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できるようになりました。

## 別のアプライアンスから Arcserve アプライアンスのバック アップを実行すると重複ノードがレポートされる

#### 現象

アプライアンス A からアプライアンス B をバックアップすると、アクティビティ ログに以下の警告メッセージが表示されます。

「次のノードが重複しています: Appliance\_B、Appliance\_A。その結果、同じエー ジェント識別子を持ち、予期せぬ結果が生じる可能性があります。This duplicate node problem can be caused if the node was added using a different node name (such as the DNS name or IP address), or if some machines were set up by cloning from one to another."(次のノードが重複しています: Appliance\_B、 Appliance\_A。その結果、これらのノードに同じエージェント識別子が指定され、 予期しない結果が生じる可能性があります。異なるノード名(DNS 名やIP アドレ スなど)を使用してノードが追加された場合や、別のマシンのクローンを作成して マシンがセットアップされた場合に、この重複ノードの問題が発生する可能性があ ります。)

ケース 1: アプライアンス B が RPS としてアプライアンス A の UDP コンソールに追加 されます。

例:アプライアンス B から、UDP ウィザードを使用してアプライアンスを設定し、 のアプライアンスは、別の Arcserve UDP コンソールによって管理される Arcserve UDP 復旧ポイントサーバのインスタンスとして機能します]を選択できます。

#### 解決策

- 1. UDP コンソールの [RPS]ペインからアプライアンス B のノード内 のデータ ストアを 停止します。
- 2. アプライアンス B にログインし、[HKEY\_LOCAL\_ MACHINE\SOFTWARE\CA\ARCserve Unified Data Protection\Engine] の下に あるノード ID のレジストリキーを削除します。
- 3. アプライアンス B のノード から Arcserve UDP エージェント Web サービスを再起 動します。
- アプライアンス B のノード から Arcserve UDP RPS データストア サービスを再起動します。
- 5. UDP コンソールから、 [ノード]- 「すべてのノード] ペインに移動して、 アプライア ンス B のノードを更新します。
- 復旧ポイントサーバ]ペインに移動して、アプライアンスBのノードを更新します。

7. アプライアンス B の RPS に元 のバックアップ先を設定して、既存のデータスト アをインポートします。

#### ケース 2: アプライアンス B がエージェント ノード としてのみ、アプライアンス A の UDP コンソールに追加されます。

たとえば、あるプランでは、アプライアンス A の UDP コンソール上 にあるエージェント ベースのバックアップ タスクを使 用してアプライアンス B を保 護します。

- 1. アプライアンス B にログインし、[HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve Unified Data Protection\Engine] の下 にあるノード ID のレジストリキーを削除 します。
- 2. アプライアンス B から Arcserve UDP エージェント サービスを再起動します。
- 3. UDP コンソールから、 [ノード]- 「すべてのノード] ペインに移動して、アプライアンス B からのノードを更新します。

## Linux バックアップ サーバがネット ワーク内のノードと通信できない

#### 現象

Linux バックアップサーバが、ネットワーク内のどのノードとも通信できません。

#### 解決策

アプライアンスの Windows Server がネット ワーク内 のどのノード とも通 信 できない場合、Linux バックアップ サーバもどのノード とも通 信 できません。

#### 以下の手順に従います。

- 1. アプライアンスの Windows Server からノードにアクセスできるかを確認します。
- 2. 以下の場所に移動して、ネットワークアダプタ LinuxBkpSvr が存在している かを確認します。

[レントロール パネル]- 「ネットワークとインターネット]- 「ネットワーク接続]

3. LinuxBkpSvr が存在しない場合、以下の場所に移動し、フラグファイル adapterNameChanged.flag が存在するかを確認します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance

存在する場合は、adapterNameChanged.flagファイルを削除します。

4. 以下の場所に移動して、ルーティングとリモートアクセス管理を起動します。

サーバ マネージャ]- [ソール]- [ルーティングとリモート アクセス]

5. 以下に示すように、すべての利用可能なネットワークインタフェースと LinuxBkpSvr が、NATに追加されていることを確認します。

すべてのネットワーク インタフェースと LinuxBkpSvr がすでに一 覧内にある場合 は、別の物理ネットワーク インターフェースが異なるサブネットワークに接続され ているかどうかを確認します。このアクションにより、Linux バックアップサーバの 通信問題が解決します。

すべてのネットワーク インターフェースおよび LinuxBkpSvr が一 覧 に表 示されたら、後 続 の手 順 に進 みます。

6. 以下の場所で、ファイル dhcpdone.flag を削除します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance

7. 以下に示すように、コマンドラインにフォルダ C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance を入力し、 resetdhcp.ps1 を実行します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>powershell .\resetdhcp.ps1

スクリプトが正常に実行されると、Linux バックアップサーバの通信問題が解決 されます。

## Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックス を取得できない

アプライアンス サーバに静的 IP アドレスを設定した場合、ネット ワーク サービスを 再起動した後に Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックスを正しく取 得できません。この問題によって、Linux バックアップ サーバと UDP コンソールの間の 通信に問題が発生します。通信の問題により、この Linux バックアップ サーバを使 用して Linux ノードを保護することができなくなります。

#### 現象

Linux バックアップ サーバのステータスが、UDP コンソール上 で切断状態のままになります。 「ノードの更新]を実行しても Linux バックアップ サーバは正常に更新されず、黄色の警告 アイコンは緑色に変化しません。この問題は、アプライアンス サーバに静的 IP アドレスを設定した場合に、Linux バックアップ サーバがネット ワーク DNS サフィックスを正しく取得できないために発生します。

#### 解決策

この問題を解決するには、Linux マシンの file/etc/resolv.conf を直接更新して正しい DNS サフィックスを追加します。

## アプライアンスのデフォルト のタイム ゾーン

#### 現象

デフォルトのタイム ゾーンが、最初にアプライアンスの電源をオンにしたときに選択した地域に関係なく、(UTC-08:00)太平洋時間(米国およびカナダ)になります。

#### 解決策

タイム ゾーンを変更するには、 [Arcserve Backup アプライアンス ウィザード]に移動し、 編集]をクリックして、 [日付と時刻]を設定します。

## ライセンスがある場合でもライセンスエラーになる

ライセンスがある場合でもアプライアンスで発生するライセンス関連のエラーの詳細 については、<u>リンク</u>を参照してください。

# リモート管理対象の RPS タスクでレプリケートのリモート コンソールを追加中、Arcserve UDP コンソールにエラーが表示される

Arcserve UDP アプライアンス v6.5 Update1 では、 *リモート で管理される RPS へのレ プリケート*]タスクを追加し、別のアプライアンス マシンのホスト名 /IP アドレスを復旧 ポイント サーバ(RPS) として *リモート コンソール*]フィールドに追加する場合、以下 のエラー メッセージが Arcserve UDP コンソールに表示されます。

**注**: この問題は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以上のデフォルト バージョンを備える Arcserve アプライアンスでは修正されます。

#### エラー メッセージ: リモート コンソールを選択してください

	resource	-					
Мо	dify a Plan	Agent-Based	Windows Backup Plan	Pause	e this plan	Save	Help
Tas Wir	sk1: Backup: Agent-Based ndows	Task Type	Replicate to a remote	ly-managed RPS	¥	⊗ Delete	Task
Tas ma	sk2: Replicate to a remotely- naged RPS	Sour	ce Destination	Schedule			-1
٠	Add a Task	Remote Cons	sole	10.10.255.255 (administr administrator	rator) 👻 🕕	Add Please select a remote console.	
Pro	oduct Installation	Password					
		Port		8015			- 1
		Protocol Enable Proxy	c.	○ HTTP ⑧ HTTPS			
							- 1
							- 1
				Connect			

この問題は、ローカルコンソールとリモート コンソールで同じ GUID を使用することが 原因で発生します。

第13章:トラブルシューティング 297

リモートで管理される RPS タスクを別のアプライアンスでサポートするには、以下の 手順を実行します。

1. 以下のレジストリパスからローカルアプライアンスのGUIDを削除します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data Protection\Management\Console\GUID

2. PowerShell で以下 のコマンドを使用して、データベースから GUID を削除し ます。

\$database = 'arcserveUDP'
\$server = 'localhost\arcserve\_app'
\$sqlconn = New-Object System.Data.SqlClient.SqlConnection
\$sqlconn.ConnectionString = "Data Source=\$server;Initial
Catalog=\$database;Integrated Security=SSPI;"
\$sqlconn.Open()
\$sqlcmd = New-Object System.Data.SqlClient.SqlCommand
\$sqlcmd.Connection = \$sqlconn
\$sqlcmd.CommandText = "delete from as\_edge\_configuration where
ParamKey='ConsoleUuid'''
\$sqlcmd.ExecuteNonQuery()
\$sqlconn.Close()

- 3. ローカル アプライアンス マシン上の UDP 管理 サービスを再起動します。
- 4. ローカルマシンの UDP コンソールで、以下の手順に従います。
  - a. [ノード]ビューで **すべてのノード**]を選択します。
  - b. 右クリックして、 **更新**]を選択します。
  - c. **[OK**]をクリックし、すべてのノードを更新します。
- 5. 腹 旧ポイント サーバ]ビューですべての RPS ノードを選 択し、右 クリックして、 **更 新**]を選 択し、すべての RPS ノードを更 新します。

2 つのアプライアンス マシン間で、 *リモート で管 理される RPS へのレプリケート* ]が正常にサポートされます。

## 別のアプライアンスをモニタとして使用すると VSB タスク を実行できない

Arcserve アプライアンス v6.5 Update1 上 で、VSB タスクを実 行し、別 のアプライアン スをモニタとして使 用 する場 合、VSB タスクが失 敗し、アクティビティ ログに以 下 の エラー メッセージが表 示 されます。

**注**: この問題は、Arcserve UDP v6.5 Update 3 以上のデフォルト バージョンを備える Arcserve アプライアンスでは修正されます。

エラーメッセージ: リモート サーバ [IP]、ポート = 4090 への接続に失敗しました。

c	arcserv	e	<b>)</b> * un	ified data pr	otectior	ı			() Mes	sages (1) 🔹	admir	istrator	•	Help +
da	shboard reso	ure	ces jobs	reports log	settings	8	high availab	ility						
Severity	All	¥	Node Name	10.10.255.255	× Job ID	3	×	Job Typ	e Virtual S	Standby -	Refresh	Reset	Export	Delete
Time	All	Ŧ	Generated From	vsb2	× Message	9	×				110110011	neset	Caport	Denete
Severity	Time		SiteName	Node Name	Genera	ted From	Job ID	Jo	ob Type	Message				
0	7/18/2017 3:04:20 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	The Virtual Stand	lby job failed			
0	7/18/2017 3:04:20 AM	M	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Synchronize sour	rce machine	adapter inf	ormation to	Virtual Standby su
0	7/18/2017 3:04:20 AM	M	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	The Virtual Stand	Iby job copie	d data total	ing 0 Bytes	s, the elapsed time
0	7/18/2017 3:04:20 AM	M	Local Site		vsb2		3	V	rtual Sta	Failed to convert	session S00	00000001	to the host	for VM [UDPVM_V
0	7/18/2017 3:04:20 AM	м	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	An unexpected e new backup to st	rror has occu art the Virtua	irred when I Standby j	attempting ob. If the pr	to convert session roblem persists, co
0	7/18/2017 3:04:20 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Failed to connect	to remote se	erver [10.57	7.21.10], po	ort = 4090.
0	7/18/2017 3:02:40 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Failed to connect	to remote se	erver [10.57	7.21.10], po	ort = 4090.
0	7/18/2017 3:01:28 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Try VDDK advan	ced transpor	t mode (SA	N or HotAd	\$d).
0	7/18/2017 3:01:12 AM	M	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Upload meta data	a to VM [UDF	WM_WIN-	92KBNU8J	439].
0	7/18/2017 3:01:12 AM	M	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Begin to convert	session S00	0000001.		
0	7/18/2017 3:01:12 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	Vi	rtual Sta	Virtual Standby jo	b will conver	t session \$	00000000	01.
0	7/18/2017 3:01:04 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	Vi	rtual Sta	VM was created.	VM name is	[UDPVM_	NIN-92KBN	NU8J439].
0	7/18/2017 3:00:49 AM	м	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	v	rtual Sta	The source mach 971de742d347]]	ine is [10.57 on Recovery	27.33], the Point Serv	e backup de er (vsb2), a	estination is (X:\Arc and the data store r
0	7/18/2017 3:00:48 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	The monitor serv	er is (10.57.2	1.10] and i	s used as a	a proxy for data tra
0	7/18/2017 3:00:48 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Start a Virtual Sta	andby job wit	h destinatio	n type VM	ware ESX Server,
0	7/18/2017 3:00:48 AM	М	Local Site	10.10.255.255	vsb2		3	V	rtual Sta	Virtual Standby jo	ob started.			

この問題は、モニタアプライアンスとArcserve UDP RPS アプライアンスマシンの両方 に同じ GUID が存在することが原因で発生します。

VSB タスクをサポートするには、以下の手順を実行します。

1. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP RPS アプライアン ス上のすべての UDP サービスを停止します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /stopall

2. 以下のレジストリパスを使用して、ローカルアプライアンスから GUID を削除します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\GUID

3. コマンド ラインで以下のコマンドを使用し、Arcserve UDP RPS アプライアン ス上のすべての UDP サービスを起動します。

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN> cmdutil.exe /startall

- 4. ローカルマシンの UDP コンソールから、以下の手順を実行します。
  - a. プラン]ビューで [*すべてのプラン*]を選択します。
  - b. 右 クリックし、 今すぐ展開 ]を選択します。
  - c. **[DK**]をクリックして、すべてのプランを展開します。

仮想スタンバイタスクが実行できるようになりました。

## 第14章: ベスト プラクティスの適用

このセクションには以下のトピックが含まれます。

<u>ネットワーク構成に関する推奨事項</u>	
PowerShell コマンドレットによる Windows Defender のベストプラクティス	
プリインストールされた Linux バックアップサーバを外部ネットワークに設定する	<u>.</u>
Sophosによって保護されている場合にファクトリリセットイメージを置き換える ベストプラクティス	<u>5ための</u> 306
ボリュームをまたぐデデュプリケーション データ ストアを作成 するためのベスト プ ス	<sup>^</sup> ラクティ 315

### ネットワーク構成に関する推奨事項

- 複数のネットワークインターフェースを実稼働環境で接続する場合は、各ネットワークアダプタが異なるサブネットワークに接続されていることを確認します。
- 保護する実稼働環境でLinux ノードが利用できない場合は、アプライアンス上のVM Linux-BackupSvr、DHCP サーバサービスおよび RRAS を無効化することをお勧めします。

詳細については、「DHCP サーバを無効にする方法」を参照してください。

アプライアンスとエージェント ノードが共に同 ー サブネットワーク上でオンラインの状態にあり、複数のネットワークインターフェースがアプライアンス内の同 ー サブネットワークに接続されている場合、アプライアンスとエージェントノード間で接続の問題が発生します。

#### 現象

アプライアンスとエージェント ノードが共に同 ー サブ ネット ワーク上 でオンラインの状態にある場合、以下の事象が発生することがあります。

◆ Arcserve UDP コンソールで、エージェント ノードにプランを展開すると、
 以下のエラーメッセージが表示されます。



◆ 以下のようにエージェントノードのバックアップジョブが失敗します。

0 1	2/25/ Local Site	10.57.52.13	10.57.52.13	26	Backup	Point Server appliatest76. Verify that server name, port number, and protocol (http:/https) inputs are all correct and the web service is started on the specified host. For other reasons, see Troubleshooting in the User Guide.
-----	------------------	-------------	-------------	----	--------	---

◆ アプライアンスからエージェント ノードに ping を送信し、次のようにエージェント ノードが接続されているかどうかを確認します。

C:¥Users¥Administrator> ping 10.57.52.13

10.57.52.13 に ping を送信しています 32 バイトのデータ: 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.13 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128

 ・エージェント ノードから ping アプライアンスホスト名を実施し、アプライアンスは以下のように接続されていません。

C:¥Users¥Administrator>ping appliatest76 appliatest76 [10.57.52.47]に ping を送信しています 32 バイトのデータ: 要求がタイムアウトしました。 要求がタイムアウトしました。 要求がタイムアウトしました。 10.57.52.47 の ping 統計: パケット数:送信 = 4、受信 = 0、損失 = 4 (100% の損失)、

#### 解決策

アプライアンスとエージェント ノードの間の接続の問題を解決するには、以下の手順のいずれかを実行します。

 ◆ 実稼働環境でLinux ノードが利用できない場合、アプライアンス上の DHCP サーバサービスおよび RRAS サービスを停止し、問題が解決されるかどうかを確認します。

詳細については、「<u>DHCP サーバを無効にする方法</u>」を参照してください。

◆ アプライアンスおよびエージェント ノードで、以下の手順を実行します。

#### アプライアンスで実行する手順

- 1. DOS コマンド プロンプトから *ipconfig/all* を実行し、アプライアン ス上で利用可能な IPv4 アドレスを取得します。
- DOS コマンド プロンプトから Route Print を実行し、IPv4 ルート テーブルを取得し、以下のように、アプライアンス上で利用可

能なすべての IPv4 アドレスの順番のリストを記録します。

IPv4 ルート テーブル				
アクティブ ルート: ネットワーク宛先	ネットマスク	ゲートウュ		 ターフェイ
ス メトリック 0.0.0.0 0.0.00		10.57.52.1	10.57.52.46	10 10
0.0.0.0 0.0.0.0	0.0.0.0 0.0.0.0	10.57.52.1 10.57.52.1	10.57.52.45	10 10
10.57.52.0 10.57.52.0 10.57.52.0	255.255.255.0 255.255.255.0 255.255.255.0	リンク上 リンク上 リンクト	10.57.52 10.57.52 10.57.52	.46 266 .35 266 .45 266

#### エージェントノードで実行する手順

 DOS コマンド プロンプトから、次のように、エージェント ノードに 接続しているアプライアンスの最初の IPv4 を取得するため、 上記の順序に従って、アプライアンスの利用可能な各 IPv4 ア ドレスに ping を送信してみます。

C:¥Users¥Administrator>ping 10.57.52.46 10.57.52.46 (こ ping を送信しています 32 バイトのデータ: 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128 10.57.52.46 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128

 ファイル C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts を編集し、上 記で取得した IPv4 アプライアンスホスト名ペアのレコードを追加して、ファイルを保存します。

## PowerShell コマンドレットによる Windows Defender の ベストプラクティス

Defender コマンドレットは、以下のコマンドを使用して取得することができます。

- PS C:\> (Get-MpPreference).ExclusionPath
   Defender の除外パスを取得します。
- PS C:\> (Get-MpPreference).ExclusionProcess
   Defender の除外プロセスを取得します。
- PS C:\> Add-MpPreference -ExclusionPath "full\_path\_of\_the\_folder\_or\_file"
   除外リストにフォルダまたはファイルを除外します。
- PS C:\> Add-MpPreference -ExclusionProcess "full\_path\_of\_executable\_ programs"
   プロセスによって開かれているファイルを除外します。
- PS C:\> Remove-MpPreference -ExclusionPath "full\_path\_of\_the\_folder"
   除外リストからフォルダを削除します。

## プリインストールされた Linux バックアップ サーバを外部 ネットワークに設定する

以下の手順に従います。

- 1. DHCP サーバを無効化します。詳細については、「<u>DHCP サーバを無効に</u> <u>する方法</u>」を参照してください。
- 2. RRAS を無効化するには、 [レーティングとリモート アクセス]を開き、 [レー ティングとリモート アクセスの無効化]をクリックします。

	Ro	outing a	nd Remote Access		_		×		
Fi	le	Action	View Help						
4	•								
3	Ro	uting an	d Remote Access Routing and Remote Access						
~	6	APPLI	Configure and Enable Routing and Remote Access	mote A	ccess		^		
		Re Re	Disable Routing and Remote Access	secure re	mote ad	ccess to			
	~	<u>e</u> 12	Enable DirectAccess	nfigure the following:					
			All Tasks >	> rivate networks.					
	>	e e	Delete	eway.					
			Kerresh						
			Properties						
			Help	server, o	n the Ad	tion men	υ,		
			click Add Server.						

- Linux バックアップサーバネットワークを外部ネットワークに設定するには、 以下の手順に従います。
  - a. Hyper-V マネージャを開きます。
  - b. 新しい外部 仮想 ネット ワーク スイッチを作成します。
  - c. 新しく作成した外部仮想ネットワークスイッチを使用するように Linux バックアップサーバ VM ネットワークアダプタの設定を変更します。
  - d. Linux バックアップ サーバのネット ワーク設定を確認し、外部仮想ネット ワークスイッチを介して IP アドレスと DNS が取得されていることを確認します。
  - e. 元のLinux バックアップサーバをUDP コンソールから削除します。
  - f. 以下の情報を使用して、Linux バックアップサーバを UDP コンソールに 再度追加します。
    - ホスト名: Linux-BackupSvr
    - ポート: 8014

## Sophos によって保護されている場合にファクトリリセット トイメージを置き換えるためのベスト プラクティス

Sophos を Arcserve アプライアンス上 でアクティブ化して実行すると、デフォルトでは、アプライアンス イメージ設定 ユーティリティを使用してファクトリリセット イメージ を置き換えることはできません。それ以外の場合は、以下の図に示すように、 SetImage.exe の実行は失敗します。



Sophos が Arcserve アプライアンス上で実行されている場合、SetImage.exe コマンドを実行してファクトリリセット イメージを置き換える前に、イメージがすでにマウントされているかどうかを確認します。

図に示すように、以下のプロンプトが表示されます: サブディレクトリまたはファイル C:\Program Files\Arcserve\Unified Data

Protection\Management\BIN\Appliance\mount がすでに存在します。

PS C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\bin\Appliance> .\SetImage.exe -applianceimage X:\appliance.wim Start to check appliance image, this may need about 30 minutes, please wait... Mounting the old appliance image, please wait... A subdirectory or file C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount already exists. Failed to mount the old appliance image. Please run this tool again. If mounting fails again, please contact Arcserve Technical Support for assistance.

#### イメージのマウントを解除するには、以下の手順に従います。

 フォルダを見つけるには、Windows エクスプローラを開き、C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount に移動します。フォルダを右クリックし、「プロパティ]- [セキュリティ]タブ -詳細設定]の順にクリックします。

mount Properties		×
Previous Versions	Customize	NFS Sharing
General	Sharing	Security
Object name: C:\P	rogram Files\Arcserve\U	nified Data Protection
Group or user names:		
SCREATOR OWN	NER	
SYSTEM 3		
🞎 Administrators 🐖	Administrators)	
Series (Manadata)	Users)	
To change permission	ns, click Edit.	Edit
OWNER	A A	llow Deny
Full control		^
Modify		
Read & execute		
List folder contents		
Read		
Write		~
For special permission click Advanced.	s or advanced settings,	Advanced

2. マウント フォルダの所有者をローカル管理者に変更するには、 **変更**]リン クをクリックします。

フォルダ内のサブフォルダを制御し、サブフォルダの権限を親フォルダの設定 に置き換えるには、 セキュリティの詳細設定]ページで以下のオプションの チェックボックスをオンにします。

- サブコンテナとオブジェクトの所有権を置き換える
- ◆ すべての子オブジェクトの権限エントリを、このオブジェクトから継承可 能な権限エントリに置き換えます。

lame:	C:\Program File	Arcserve\Unified Data Protection\M	lanagement\BIN\Appliance\mount	
)wner:	TrustedInstaller	Section Change		
Permissions	Auditing	Effective Access		
or additional ermission en	information doub Select User	or Group		
Туре	Princi Select this o	bject type:		lies to
& Allow	SYSTE User, Group	folder, subfolders and file		
& Allow	Admi From this loc	ation:		folder, subfolders and file
& Allow	Users dilition		Locations	folder, subfolders and file
Allow	Users Enter the ob	ject name to select ( <u>examples</u> ):		folder and subfolders
Allow	CREAT	ministrator	Check Names	folders and files only
۵dd	E Advance	d	OK Cancel	
100				- E
Enable inhe	eritance			

すべての変更を適用します。マウントフォルダ、サブフォルダ、およびファイルについては、所有者がローカル管理者に変更されていることを確認します。

3. イメージのマウントを解除するには、コマンドプロンプトを使用して以下の コマンドを実行します。

C:\>DISM /unmount-image /mountdir:"C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\BIN\Appliance\mount" /discard

episyment Image Servicing and Hamagement tool mariis: 10.0.1785.1 manuting image The operation completed successfully.

Sophos が Arcserve アプライアンス上で実行されている場合に SetImage.exe コマンドを実行してファクトリリセット イメージを置き換えるには、以下の手順に従います。

1. 管理者として Arcserve アプライアンス システムにログインします。メールア ドレスとパスワードを使用して、Sophos Central Admin ページ (<u>https://cloud.sophos.com/manage/</u>)にアクセスします。



2. [Devices]- [Servers]に移動し、Arcserve アプライアンスのサーバ名をクリックします。

	SOPHOS 		Ser	Vers	servers								
	Overview	9	<b>&gt;</b> °	emputers	C Mobile Devis	••• [	Servers						
68	Dashboard				۹) (	Show all	l servers	✓ All Health	Status	•			
▲	Alerts												
ø	Threat Analysis Center		0	NAME			p		05		LAST ACTIVE	Ŧ	GROUP
8	Logs & Reports		0				10.57.25.29 🗢		Windows Sen	ver 2006 Standard	Sep 23, 2019 1:30 AM		
<u>,1</u>	People												
50	Devices												

3. [SUMMARY]タブの [Tamper Protection]フィールド で、 [View details]をク リックします。

#### Sophos によって保護されている場合にファクトリリセット イメージを置き換えるためのベスト プラクティス

	SUMMARY	EVENTS STATUS EXCLUSIONS	APPLICATIONS OPOLICIES
<b>.</b>	Recent Events		View More
	Oct 8, 2019 6-27 PM	Real time protection re-enabled	
app/03.4 Windows Server 2023 Standard	🔟 🔘 Oct 8, 2019 6-26 PM	Update succeeded	
Delete	🖽 💿 Oct 8, 2019 6-26 PM	New server protected: app814	
Scen New	Oct 8, 2019 6 26 PM	Real time protection disabled	
Lock Down Diagnose	A Oct 8, 2019 6 25 PM	Application sychost was blocked by an endpoint firewall	
	Agent Summary Last Sophos Central Activity Last Agent Update Agent Version IPv4 Addresses IPv6 Address Operating System Lockdown Status Group Tamper Protection	15 minutes ago an hour ago Update Successful ✓ Update Now 10.8.4 VE3.74.1 Refease Notes S Installed component versions ✓ 10.57.25.29 192.168.10.1 160:5095.507e.799e2.a021 Windows Server 2019 Standard ■ Nati installed No group Change group On - Deable Tamper Protection Vew desits ✓	Activate Windows

4. [show Password]のチェックボックスをオンにします。テキスト フィールドに表示されるパスワードをメモします。

Tamper Protection

On - Disable Tamper Protection

Hide details ٨

Tamper Protection Password Details



5. **Disable Tamper Protection**]をクリックします。

Tamper Protection	On - Disable Tamper Protection
	Hide details 🛧
Tamper Protection Passwor	d Details
CURRENT PASSWORD	
232333333333	
Show Password	
Generate New Password	
Tamper Protection がオフになります	す。



6. Sophos エンドポイントを起動し、 [Admin Login]をクリックします。

SOPHOS	Status Ev	ents	Admin login 🗕 🗙
Your computer is protected		Scan	
Malware 0 detectio	e and PUAs	Web Threats O requests blocked	Malicious Behavior     O     detections
(ii) Control O user notifie	lled Items	Malicious Traffic O connections detected	© Exploits 0 detections
			Help   About

7. 手順 4 でメモした Tamper Protection のパスワードを入力します。
| SOPHOS | Status | Events                         |      |        | Admin login | - | ×    |
|--------|--------|--------------------------------|------|--------|-------------|---|------|
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        | Enter tamper protection passwo | ord  |        |             |   |      |
|        |        | •••••                          |      |        |             |   |      |
|        |        | Lo                             | g in | Cancel |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        |             |   |      |
|        |        |                                |      |        | He          |   | bout |

8. [Settings]タブで、 **Override Sophos Central Policy for up to 4 hours to** troubleshoot]チェックボックスをオンにし、 **Ransomware Detection**]および [Malicious Behavior Detection (HIPS)]オプションを無効にします。

SOPHOS	Status	Events	Settings	-	×
<ul> <li>Override Sopho</li> </ul>	os Central Polic	cy for up to 4 h	nours to troubleshoot		
Deep learning	g Ieaming		Runtime Protection Ransomware Detection Safe Browsing		
Real Time So Files	anning		Exploit Mitigation     Exploit Mitigation     Network Threat Protection     Malicious Behavior Detection (HIPS)		
Controls on L Peripheral Co Application C Web Control Data Loss Pr Tamper Prote	JSERS ontrol ontrol evention ection		Computer Controls <ul> <li>Windows Firewall</li> </ul>		
				Help   /	About

9. ファクトリリセット イメージを置き換えるには、SetImage.exe を実行します。 SetImage.exe が正常に実行されます。

## SetImage.exe の実行成功後に Sophos のデフォルト設定を復元するには、以下の手順に従います。

1. Sophos Central Admin で Tamper Protection を有効化するには、 Enable Tamper Protection ]をクリックします。

Tamper Protection	Off - Enable Tamper Protection
	Sophos recommends that you enable tamper protection.
	Tamper protection ensures that users with local administrator rights can't uninstall Sophos Central Endpoint software or change settings.

 Override Sophos Central Policy for up to 4 hours to troubleshoot ] チェック ボックスをオフにします。

SOPHOS	Status	Events	Settings	Admin logout	-	×
Override Sopho	os Central Polic	ty for up to 4 h	ours to troubleshoot			

 Sophos 設定のステータスを確認するには、数分待ってから、Tamper Protectionのパスワードを使用して Sophos エンドポイントにログインします。

SOPHOS	Status	Events		Admin login	] – ×
	1	Enter tamper protection password			
				)	
		Log in	Cancel	]	
				н	lelp   About

これで、Sophos 設定がデフォルト設定に復元されました。

SOPHOS	Status	Events	Settings	Admin logout	– ×		
Override Sophos Central Policy for up to 4 hours to troubleshoot							
Deep learning Enable deep learning Real Time Sca Files Internet	anning		Runtime Protect Ransomware D Safe Browsing Exploit Mitigation Network Threat Malicious Behav	ction letection n Protection vior Detection (HIPS)			
Controls on U Peripheral Con Application Co Web Control Data Loss Pre Tamper Protect	SETS htrol ntrol vention tion		Computer Cont	trols all			

## ボリュームをまたぐデデュプリケーション データ ストアを 作成するためのベスト プラクティス

コマンド ライン ツールである as\_gddmgr.exe を使用 すると、ボリュームをまたぐデータ パスをさらに追加して、既存のデデュプリケーション データ ストアのストレージ容量 を拡張できます。

ボリュームをまたぐデデュプリケーション データ ストアを作 成 するには、以下 の手 順 を実 行します。

- Arcserve UDP コンソールユーザインターフェースにログインし、拡張データ パスなしでデデュプリケーションデータストアを作成します。詳細について は、「データストアの追加」を参照してください。
- データストアを停止します。詳細については、「データストアの停止」を参照してください。
- 3. コマンド プロンプトを開き、以下のコマンドを入力して、データストアの現在のパス構成を表示します。

as\_gddmgr.exe -DataPath Display <データストア名 >

以下のサンプルデータストアには、X:\volume上のプライマリデータパスが1 つ含まれています。

Help | About

C:\Users\Administrato Successfully load dat	r>"c:\Program Files\Ar a store configuration	cserve\Unified Data Pr information.	otection\Engine\bin\as_gddmgr.exe"	-DataPath Display appliancetest_data_store
	Volume capacity	Used space	Free space	
Primary data path :	X:\Arcserve\data_stor 59605 GB	e\data\ 2 GB	59603 GB	

デデュプリケーション データストアのストレージ容量を拡張するには、以下のコマンドを入力します。

as\_gddmgr.exe -DataPath Add <data store name> -NewDataPath <new data folder>

**注**: プライマリパスとすべての拡張パスが同じボリューム上にないことを確認 してください。

以下のサンプルデータストアには、X:\volume上の拡張データパスが1つ含まれています。

C:\Users\Administrato Successfully load dat Successfully added ne The data store has 1	r>"c:\Program Files\Ar a store configuration w expanded data path f expanded data path(s)	cserve\Unified Data Pr information. or the data store. now:	otection\lingine\bin\as_gddmpr.exe*	-OutsPath Add appliancetest_data_store	-NewOutaPath W:\Arcserve\duta_store\duta1
	Volume capacity	Used space	Free space		
Primary data path :	X:\Ancserve\data_stor 59605 G8	e\data\ 2 GB	59683 68		
Expanded data path1:	W:\Arcserve\data_stor 14678 GB	e\data1 90 GB	14588 68		
fotal	74283 68	92 68	74191 68		

- 5. 必要に応じて手順4を繰り返します。
- Arcserve UDP コンソール ユーザ インターフェースに戻り、データ ストアを起動します。詳細については、「<u>データ ストアの起動</u>」を参照してください。

arcserve" UNIFIED DATA PROTECTION			O Upd	ale server un	evailable. I	O Messag	es (1) 🔹	administrate	r - Helj	p -	
dashboard resources	jobs	s re	ports log settings	high	availabilit	y.					
	≪ [	Destin	ations: Recovery Point Se	rver				applian	cetest > applia	ncetest_data_s	tore
All Nodes	^	Action	s - Add a Recovery Point	nt Server				Ö Configu	ration Wizard		
Nodes without a Plan			Name	Status	Plan Count	Stored Data	Deduplication	O Status			
Linux Backup Server Groups     Plans		•	appliancetest					Stopped			
All Plans			appliancetest data store		0	0 Byte	0%	<ul> <li>Setting:</li> </ul>			
Recovery Point Servers Accerve Backup Servers Shared Folders Cloud Accounts Remote Consoles	ľ		Modify Delete Start Browse Recovery RPS Jumpstart	Points				Compre Encrypt Backup Concur	ession Type ion Algorithm Destination rent Active Nodes	Standard AES-256 X:V/rcserve/data_s mmon 20	storeici
Arcserve Cloud								- Dedu	plication		
Storage Arrays	~				_			Data	File Path	X:\Arcserve\data_t	storeid

## 第15章:使用条件

この製品の一部には、サード パーティのソフトウェア プロバイダによって開発された ソフトウェアが含まれています。以下のセクションに、このサード パーティ ソフトウェア に関する情報を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

<u>PuTTY</u>

## **PuTTY**

この製品に含まれている「PuTTY」コンポーネントの詳細を以下に示します。

コン ポー ネント 名	ΡυΤΤΥ
コン ポー ネント ベンダ	Simon Tatham によって最初に開発されました。
コン ポーント バー シ ジョン	0.64
リーガ ルコメ ント	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html
プロ ジェク ト名	Appliance Rhodium
コン ポー ネント タイプ	オープンソース
ソース コード URL	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/
必な ラフム 要プ 小 <del>-</del>	Windows 2012 R2、Windows 2016、Windows 2019
コン ポー ネント URL	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/
コン ポー ネント バー ジョン	http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/

٦

URL	
説明	アプライアンス マシン上 で、putty.exe を使 用して Linux バックアップ サーバと通 信し、 システム ロケールと UDP Linux ロケールを変 更します。
機能	アプライアンス
ライセンテキスト	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html PuTTY の著作権はSimon Tatham が有しています(1997-2019)。 部分著作権 Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、 Christopher Staite、Lorenz Diener、Christian Brabandt、Jeff Smith、Pavel Kryukov、Maxim Kuznetsov、Svyatoslav Kuzmich、Nico Williams、Viktor Dukhovni、および CORE SDI S.A。 このソフトウェアおよび関連する文書ファイル以下「ソフトウェア」)を入手したすべ ての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。 これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスお よび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供 する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は 次の条件を前提としています。 上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および 実質的な部分のすべてに含めてください。 本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保 証もなく提供されます。ここでいう保証と合みますが、それに限定されるものではあり ません。著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフト ウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによっ て生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものと します。
著権 キスト	http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html PuTTY の著作権はSimon Tatham が有しています(1997-2019)。 部分著作権 Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、 Christopher Staite、Lorenz Diener、Christian Brabandt、Jeff Smith、Pavel Kryukov、Maxim Kuznetsov、Svyatoslav Kuzmich、Nico Williams、Viktor Dukhovni、および CORE SDI S.A。 このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべ ての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。 これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスお よび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供 する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は 次の条件を前提としています。 上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および 実質的な部分のすべてに含めてください。

Г

Т

	本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保
	証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、
	および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではあり
	ません。著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフト
	ウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによっ
	て生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものと
	します。
使用	アプライアンスマシン上で、putty.exeを使用してLinux バックアップサーバと通信し、
目的	システム ロケールと UDP Linux ロケールを変 更します。
必要	
な変	x
更	